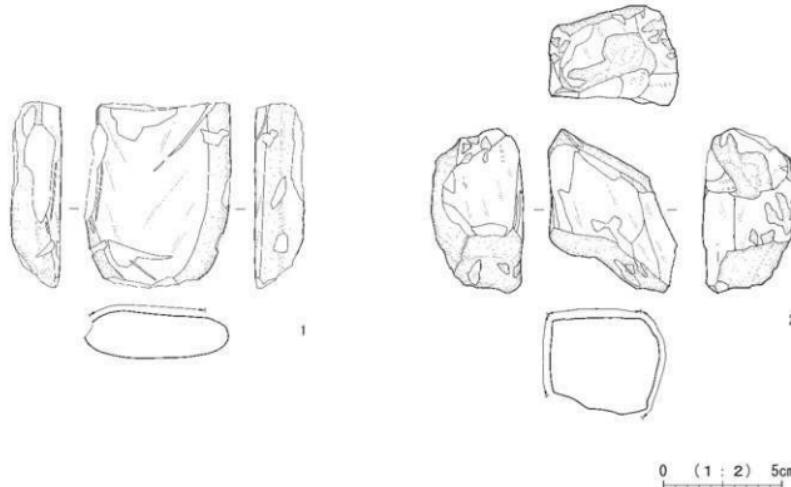


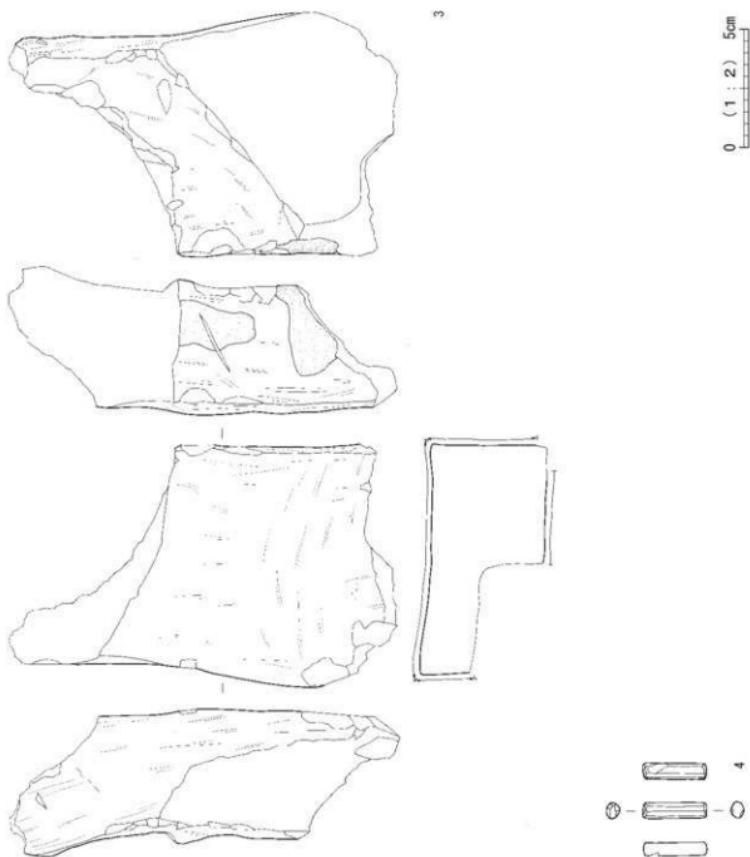
第249図 遺構外出土遺物(4)

図版 番号	登録番号	出土遺跡	層位	種別	器種	口径 × 桶径 × 厚さ(cm)	外 回 調整	内 回 調整	備 考	写真 回数
29	E-095	2B区	検出面	刷毛器	壺	Φ1.91 × × (2.8)	Φ1.91調整、天井部分削り93%、重ね焼き面	Φ1.91調整、重ね焼き面	内外面自然釉	80
30	E-097	2B区	検出面	刷毛器	壺	× × (8.8) × (1.1)	Φ1.91調整、底盤削り93%、底盤斜面→外周削り93%、	Φ1.91調整	高台	80
31	C-384	2B区北	検出面	土師器	口縁部	(5.4) × × 2.4	口縁部～底部打抜、底面調整	口縁部～底部打抜、底面調整		79
16回										
図版 番号	登録番号	出土遺跡	層位	種別	器種		備 考			写真 回数
28	N-30	2A区	1層	副製品	管帶	関元通貫				80
32	N-28	3A区	検出面	副製品	刀子	系縄・残存長5.2、幅1.3、厚0.6cm				80
1回										
図版 番号	登録番号	出土遺跡	層位	種別	器種	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備 考		写真 回数
33	P-49	2B区	盛土	土製品	支脚?	(5.2) × 幅4.8 × 厚0.6	104.7	ナガ		80



第250図 遺構外出土遺物(5)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分量	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 回数
1	Kd-034	—	検出面	3A	石製品	硯石	I A2	7.7 × 5.9 × 2.0	91.31	凝灰岩	欠損品、自然理、板状、無孔。自然面あり	80
2	Kd-035	—	—	3A	石製品	硯石	II B2	5.3 × 5.4 × 4.1	151.87	砂岩	完形成、面取り、板状、無孔。自然面あり	80



第251図 遺構外出土遺物(6)

回版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 别	器 形	分類	長S×幅×厚S (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 回数
3	Kd-036	—	—	3A	石製品	砾石	B B2	16.1×10.2×5.2	635.02	凝灰岩	欠損品、面取り、柱状、無孔	80
4	Kd-037	—	3772	3A	石製品	不明石製品	—	2.6×1.2×0.6	1.96	凝灰岩	完形品、最大径0.6cm、8面加工	80

### 3. 弥生時代以前の遺構と遺物

古代面終了直後、弥生時代の遺構と遺物の確認を行なった際、1基の土器埋設遺構であるSK5が確認された。また、古代・弥生時代の遺構検出面である基本層のIV層、同じく基本層V層や古墳時代以降に属する竪穴住居をはじめ各遺構内からも、相当数の土器及び石器が出土している。その他に下層調査区を設定し、段状に掘り下げ各層位ごとに遺物を取り上げている。ここでは、それらを上記の順番で述べていくこととする。

#### (1) 土器埋設遺構

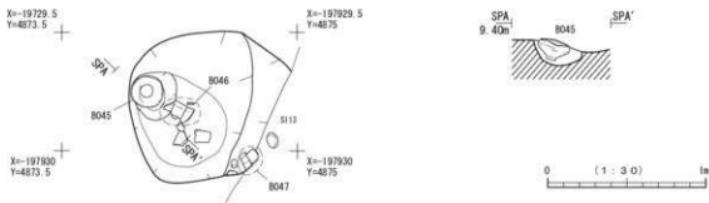
##### SK5 土器埋設遺構(第252~256図)

2B区中央部、X = 197.930、Y = 4.874付近のIVa層中で確認した。IVa層の掘り下げ途中でにぶい黄褐色砂質シルト土とそれを取巻く黒褐色土の不明瞭な土坑プランを確認した。基本層での観察からみてこの土坑は住居跡同様、本来はIVa層上面で確認されるものと考えられる。他遺構との重複関係は無い。東側をSI13により壊されているが、形状は円形又は楕円形で、西半側が深いまとまりをもち、東側は浅い傾斜面となっている。大きさは南北90cm、東西1m以上、深さは40cmで土坑の方向性は認められない。壁面は西・南壁側が急なのに対し、北・東壁側はわりと緩やかで、底面は一部平坦面を持つが境目の無いまま壁面へと続いている。

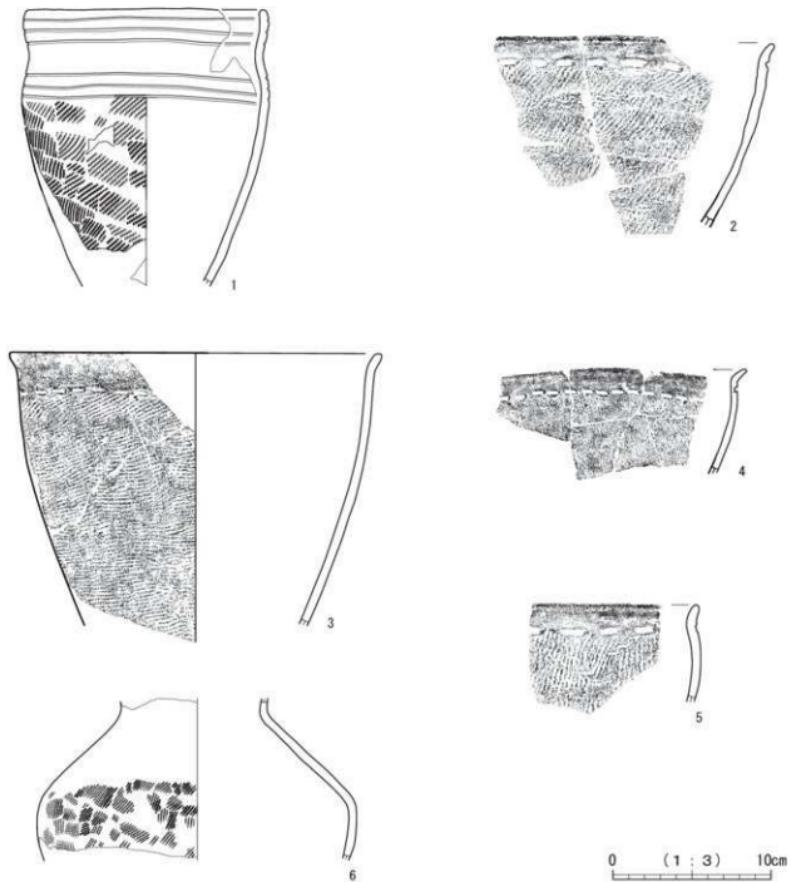
また土坑底面の北西側には部分的に底面より窪む箇所があり、その中に弥生土器壺の上半部が逆位に埋設されていた。このことから窪みは土器埋設の為の掘り方と考えられた。径は30cm、深さは18cm程の円形で、断面は土坑形状同様に舟底状となっている。

堆積土は3層とみられ、1・3層はにぶい黄褐色砂質シルトでIV層に類似しているのに対し、2層は黒褐色シルトで、層下に炭化物ブロックを多量含む特徴ある層である。1・2層下面は起伏があり、通常の自然流入土とは異なる様相である。また底面窪み中の堆積土についても3層と考えられる。

出土遺物は、弥生土器8点、石器4点を掲載した(第253~256図)。器種の内訳は、壺5点、壺2点、蓋1点である。1は、最大径を胴部上位に持ち、口縁部は、長めでやや内湾しながら直立する。胴部と口縁部の境のくびれは、弱い。口縁部及び胴部と口縁部の境よりやや下位の二か所に平行弦線文3条ずつを施し、胴部下半を中心的に、地文としてLR繩文を施す。2~5は、胴部と口縁部の境にくびれを持ち、口縁部は短く外反する。胴部と口縁部の境のくびれ部分よりやや下位に、列点文を施す。地文はLR繩文である。6は、壺と思われる。口縁部欠損する。肩部より上位の外面にていねいなヘラミガキを施す。肩部より下位胴部の地文はLR繩文である。当該遺構底面に逆位に埋設されていた。7は、層波文(V字波形文)を施す長頸壺で、地文には磨消繩文が施される。8は蓋とした。地文は、LR繩文である。石器は、9がピエス・エスキューである。上・下・右側縁に二次加工が施されており、右側縁上に両極剥離が観察される。10は、二次加工のある剥片で石材は流紋岩である。11・12は、石核である。石材は、いずれも流紋岩である。

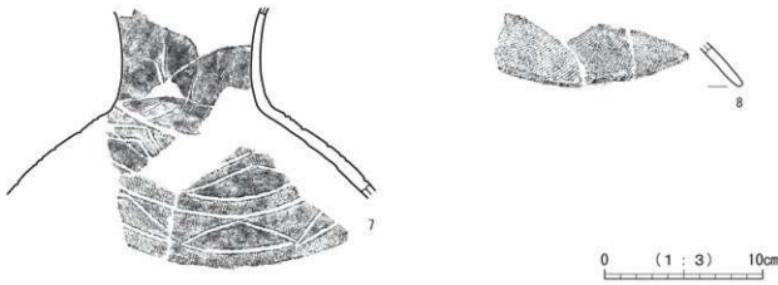


第252図 SK5土器埋設遺構



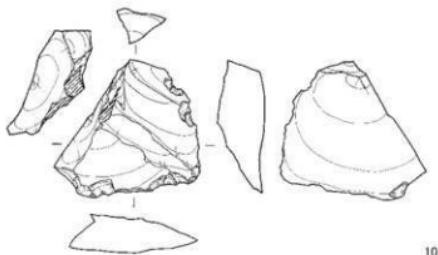
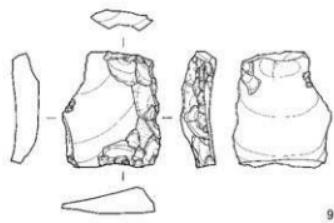
第253図 SK5土器埋設遺構出土遺物(1)

回数 番号	登録番号	出土遺構	種別	基性	外面調整・文様		備考	写真 図版
					文様	文様		
1	B-046	SK5	3層	陶生土器	変	LR 織文(斜行)→沈面	王字牛	81
2	B-047	SK5	3層	陶生土器	変	LR 織文(斜行)→斜直文(右→左), 條帶文	王字牛	81
3	B-048	SK5	3層	陶生土器	変	LR 織文(斜行)→斜直文(左→右)	王字牛	81
4	B-049	SK5	3層	陶生土器	変	LR 織文(斜行, 前走)→斜直文(右→左)	王字牛	81
5	B-053	SK5	2層	陶生土器	変	LR 織文(斜行, 前走)→斜直文(左→右), 條帶文	王字牛 外面重化物付着	81
6	B-055	SK5	3層	陶生土器	変	LR 織文(斜行)	王字牛	81



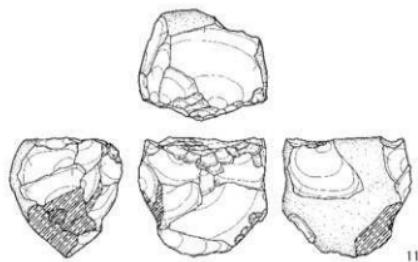
第254図 SK5土器埋設遺構出土遺物(2)

国別 番号	登録番号	出土遺物	種 別	器 様	外 壁 調 整・文 横	内 壁 調 整・文 横	備 考	写真 回数
7	B-050	SK5	埋土	飾生土器	壺 周波文、植物葉形文→沈縫→唇沿、小耳	口沿外 口沿内		81
8	B-052	SK5	2層	飾生土器	壺 LR波文(斜行)、小耳	口沿外 口沿内		81

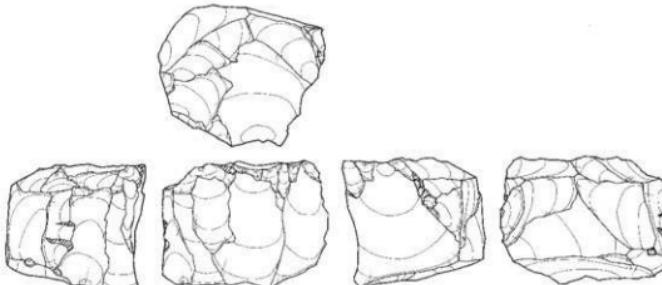


第255図 SK5土器埋設遺構出土遺物(3)

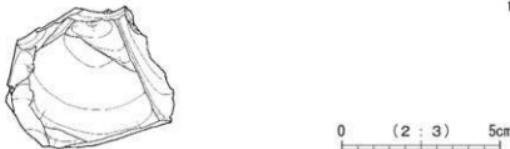
国別 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 様	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量g	石 材	備 考	写真 回数
9	Ka-009	SK5	3層	2B	打製石器	ビースト・スキース	—	3.7×2.5×1.0	10.23	流紋岩	平頭打削、剥離角130°、一輪縫に二次加工あり、自然面あり	81
10	Ka-006	SK5	埋土	2B	打製石器	二次加工のある剥片	I	4.2×4.6×1.8	21.90	流紋岩	平頭打削、剥離角131°、背面加工、二輪縫に二次加工あり	81



11



12



0 (2 : 3) 5cm

第256図 SK5土器埋設遺構出土遺物(4)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 種	分類	長さ×幅さ×厚さ cm	重量(g)	石 材	備 考	写真 出典
11	Ku.008	SK5	2層	2B	打削石器	石核	I	3.8×4.0×3.5	53.41	流紋岩	縫合材、打削痕あり、自然面あり	81
12	Ku.007	SK5	埋土	2B	打削石器	石核	III	4.0×5.2×4.4	104.10	流紋岩	素材不明、打削痕あり	81

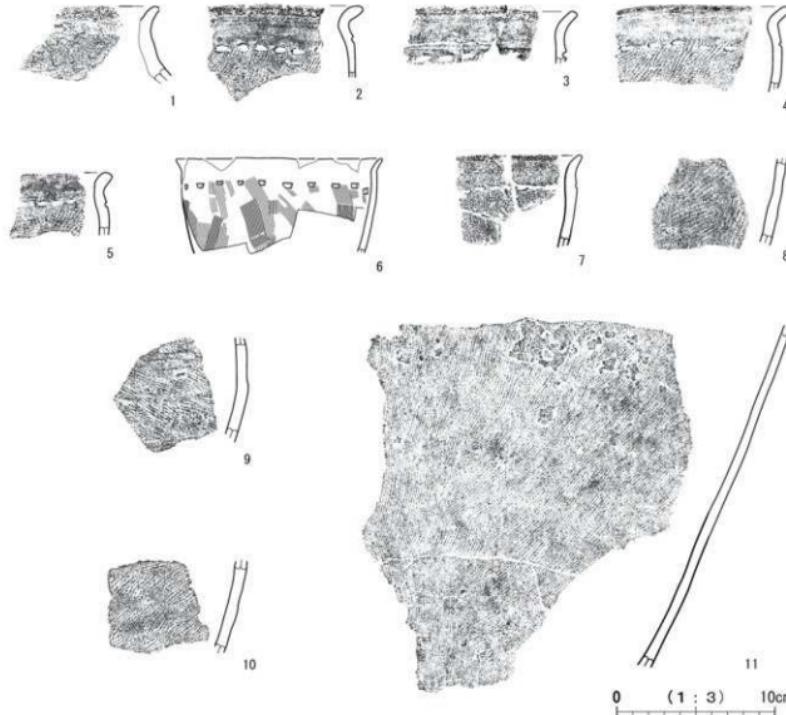
## (2) 弥生時代の出土遺物

## ① IV層・V層出土遺物

## a. 土器(第257~260図)

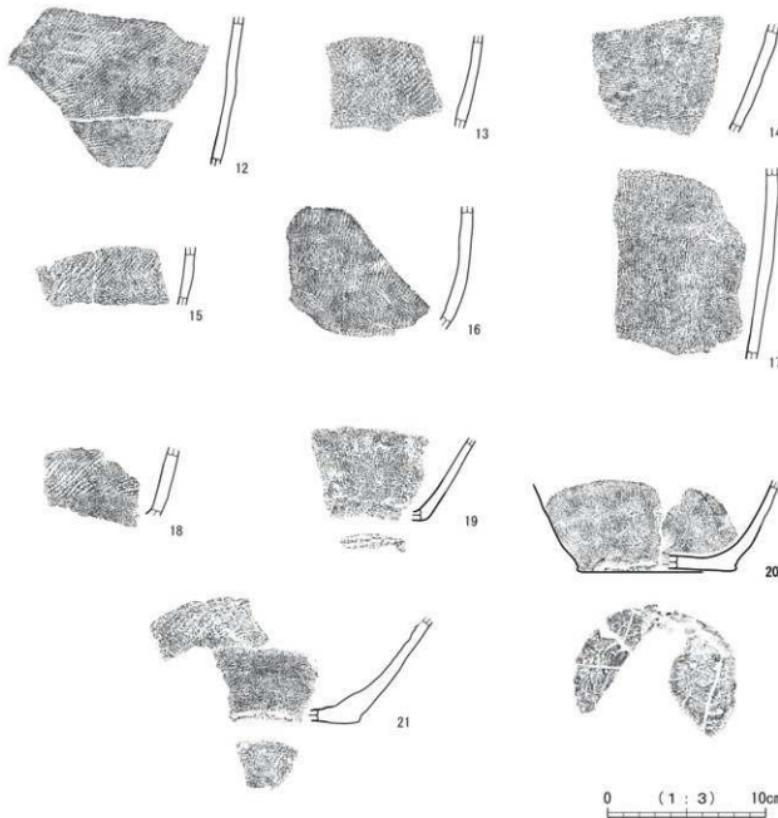
古代検出面IVa、IVb層及びその直下のV層から出土した弥生土器片、总数36点を掲載した。器種内訳は、甕21点、壺2点、甕もしくは壺と考えられるもの3点、鉢6点、蓋2点、高坏2点である。1~7は、胴部と口縁部の境にくびれを持ち、口縁部は短く外反する。胴部と口縁部の境のくびれ部分よりやや下位に、列点文を施す。地文はLR繩文である。9の甕は、無節の斜行繩文である。10~16、18~23の甕は、斜行もしくは縱走のLR繩文を施す。17~19の甕は、植物茎回転文を施す。20~22は、甕もしくは壺と考えられる。20は、縱走のRL繩文である。24の甕底部には網代痕が観察される。25~26は壺である。25は、植物回転文を施し、四角文を施す、その後施文区

画内を磨り消している。27・28は、高坏とした。27は坏部を考えた。植物茎回転文を施し、錨形文を施し、区画内を磨り消したものである。28は地文にはLR繩文を施し、その後四角文を施し、区画内を磨り消したものである。29～34は鉢とした。29～31は、鉢の口縁部であろう。29はLR繩文を施し、その後錨形文を施し、区画内を磨り消したものである。30は、LR繩文を施しその後四角文を施し、区画内を磨り消したものである。31は、沈線文を施し、補修孔がある。32は鉢の体部であろう。層波文か、LR繩文を充填する。33は底部片でLR斜行繩文を施し、工字文風の施文、赤彩がある。35、36は蓋とした。



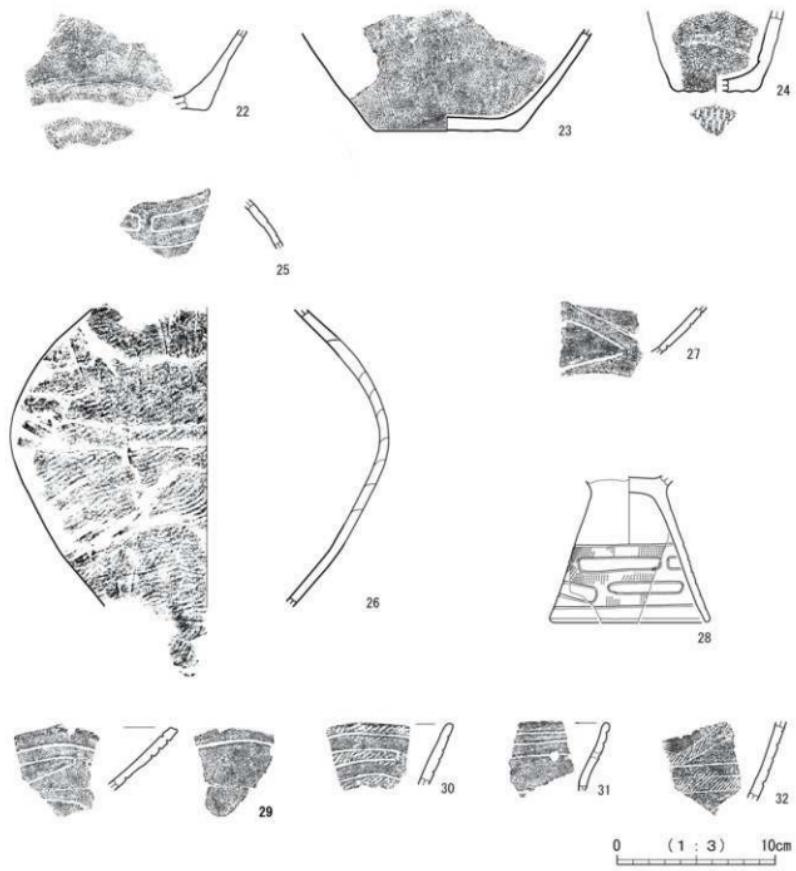
第257図 IV層・V層出土遺物(1)

団版	登録番号	出土遺物	種別	面種	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 撮影
1	B-057	2B1K 12G N	Ⅱa型	海生土器	裏 1ガリ	1ガリ、削落		82
2	B-060	2B1K 12G N	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)→円点文(右→左)、1唇面施文有	1ガリ	内外面炭化物付着	82
3	B-061	2B1K 18G N	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)→円点文(右→左)、1唇面施文有	1ガリ		82
4	B-063	2B1K 27G N	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)→円点文(右→左)	1ガリ		82
5	B-066	2B1K 17G N	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)、円点文(右→左)	1ガリ		82
6	B-079	2B1K 17G N	Ⅱa型	海生土器	裏 植物茎回転文→円点文(左→右)	1ガリ	内外面炭化物付着	82
7	B-101	3A IV T G	V型	海生土器	裏 植物茎回転文→円点文(左→右)、1唇面施文有	1ガリ		82
8	B-068	2B1K 20G N	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)	1ガリ	外表面炭化物付着	82
9	B-070	2B IV 区	Ⅱa型	海生土器	裏 無地1文字(斜行)	1ガリ	外表面炭化物付着	82
10	B-072	2B IV 区	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)、3名	1ガリ		82
11	B-077	2B1K 17G 蓋	Ⅱa型	海生土器	裏 LR繩文(斜行)	1ガリ	内外面炭化物付着	82



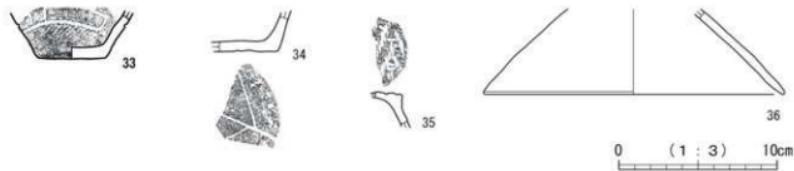
第258図 IV層・V層出土遺物(2)

登録番号	出土遺物	種別	器種	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	行 列號
12	B-078 2B区3G西 N'a層	陶土器	甕	LR繩文(斜行)	1方牛		82
13	B-080 2B区7T N'a層	陶土器	甕	LR繩文(斜行)	1方牛	外周灰化物付着	82
14	B-082 2B区7T N'a層	陶土器	甕	LR繩文(斜行)	1方牛	外周灰化物付着	82
15	B-100 3A区F層 V層	陶土器	甕	LR繩文(斜行)	1方牛	外周灰化物付着	82
16	B-084 2B区12G西 N'a層	陶土器	甕	LR繩文(斜行, 縱丸)	1方牛		83
17	B-102 3A区F層 V層	陶土器	甕	植物茎葉印文	1方牛		82
18	B-104 3A区F層 V層	陶土器	甕	LR繩文(斜行), 3方牛	1方牛	外周灰化物付着	82
19	B-054 2B区12G西 N'a層	陶土器	甕	植物茎葉印文	1方牛	網代灰	83
20	B-058 2B区12G西 N'a層	陶土器	甕or壺	LR繩文(縱丸)	1方牛	本葉面	83
21	B-059 2B区3G東 N'a層	陶土器	甕	LR繩文(斜行)→横筋文	調査		83



第259図 IV層・V層出土遺物(3)

番号	出土地點	種別	器種	外觀調整・文様	内面調整・文様	編号	参考
22	B-065 2B14 19G 東	石器	磨生土器	更or四 エガタ、L字彫文(斜行)	エガタ、洞鑿	10	
23	B-075 2B14 15G 西	石器	磨生土器	更 エジ彫文(斜行)、底部トガリ	エガタ、底部ケツリ	83	内面炭化物付帯
24	B-066 2A14 5号	石器	磨生土器	更 エジ彫文(斜行)	エガタ	83	側代張
25	B-066 2B14 9号	石器	磨生土器	更 植物葉柄文→四角文→摺消	エガタ	83	
26	B-076 2B14 17G 東	石器	磨生土器	更 L字彫文(斜行)	エガタ、洞鑿	83	
27	B-081 2B14 7号	石器	磨生土器	底 孔眼、植物葉柄文、頭卯文、摺消	エガタ	83	
28	B-069 2B05	石器	磨生土器	底 内面、L字彫文(斜行)、頭走	エガタ	83	内面炭化物付帯
29	B-067 2B14 27G 東	石器	磨生土器	底 頭卯文、L字彫文(斜行)→沈痕→摺消、底部、13号面施文有 沈痕 1条	内面炭化物付帯	83	内面炭化物付帯
30	B-071 2B14 23G 東	石器	磨生土器	底 頭卯文、L字彫文(斜行)→沈痕、摺消	エガタ	83	
31	B-074 2B14 19G 東	石器	磨生土器	底 孔眼、頭卯孔	エガタ	83	
32	B-083 2B14 15G 西	石器	磨生土器	底 孔眼→L字彫文(斜行)先端	内面炭化物付帯	83	



第260図 IV層・V層出土遺物(4)

図版 番号	登録番号	出土遺物	種別	器種	背面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 回数	
33	B-062	2B区21G東	N-a層	抛光土器	鉢	二字文周、1反魂文(斜行)、磨擦、小形	1ガ年	外面部化物付着	83
34	B-073	2B区25G東	N-a層	抛光土器	鉢	1ガ年	本漆面	83	
35	B-064	2B区25G西	N-a層	抛光土器	盆	植物多回転文	1ガ年	側代漆	83
36	B-103	3A区下層	V層	抛光土器	盆	1ガ年	外面部化物付着	83	

#### b. 石器・石製品(第261~264図)

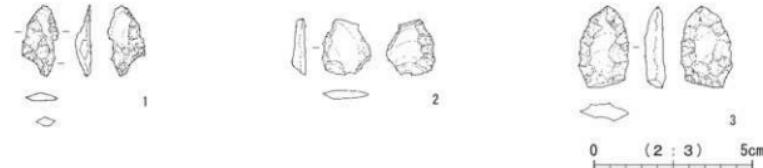
IV層(95点)とV層(226点)から出土した石器のうち、168点の資料を掲載した。このうち68点が接合して28個体となった。これらは、剥片剥離作業に関わるものと考えられ、新たに個体別資料として、実測図・遺物観察表の他に、模式図及び剥片剥離工程表を記載した。

##### ① 打製石器

###### 石鎌

有茎式石鎌のI類、アメリカ式石鎌のII類、平基式石鎌のIII類に分けられる。これらは身の長さから、A種：2.7cm以上、B種：2.5cm未満に分けられる。I類・II類は幅厚比(厚さ÷幅)から、1種：幅厚比0.40以上、2種：幅厚比0.40未満に分けられる。

IV層では、I類：1点、III類：2点の計3点出土している(第261図)。1はI類B1種である。両面を平坦剥離で整形されており、両面の上半部には素材剥片の剥離面を残している。両面の中央の後は器軸に沿っていない。断面形は中間部が薄い凸レンズ状で、基部は薄い菱形を呈する。石材は玉髓である。2はIII類B2種である。先端部は折損している。平坦剥離で周縁を整形されており、両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は薄い凸レンズ状を呈する。石材は流紋岩である。3はIII類B2種である。平坦剥離で周縁を整形されており、両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は薄い凸レンズ状を呈する。石材は流紋岩である。

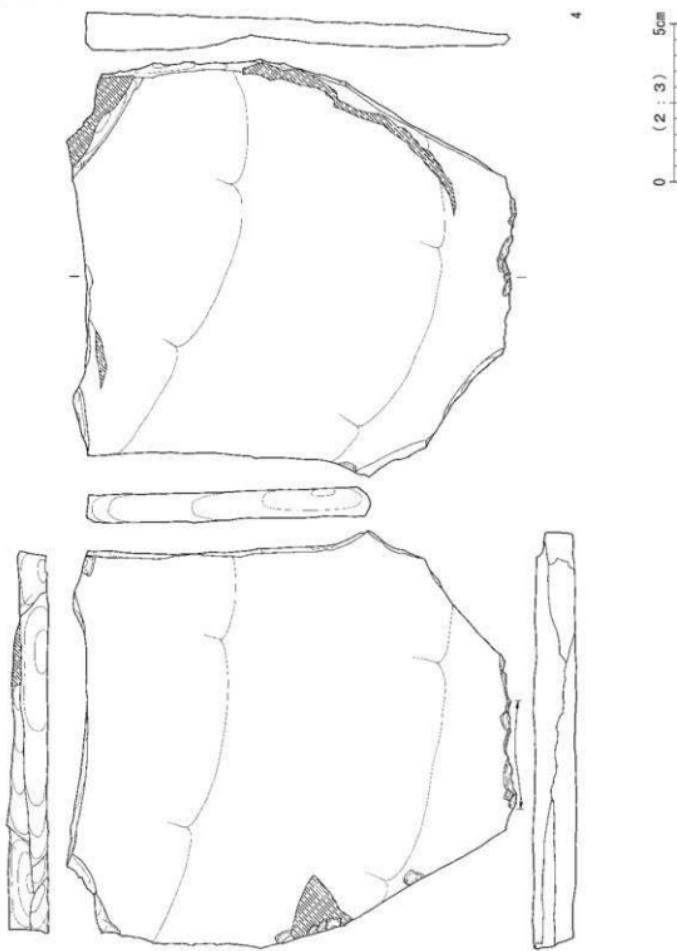


第261図 IV層・V層出土遺物(5)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-041	—	ガル層	2B	打製石器	石鎌	I B1	2.1×1.0×0.5	0.57	玉髓	有茎式、基部欠損、幅厚比0.45、素材面残す	84
2	Ka-042	—	ガル層	2B	打製石器	石鎌	III B2	1.8×1.5×0.4	0.79	流紋岩	半基式、先端部欠損、幅厚比0.26、素材面残す	84
3	Ka-045	—	ガル層	2B	打製石器	石鎌	III B2	2.5×1.6×0.6	2.07	流紋岩	半基式、完形、幅厚比0.37、素材面残す	84

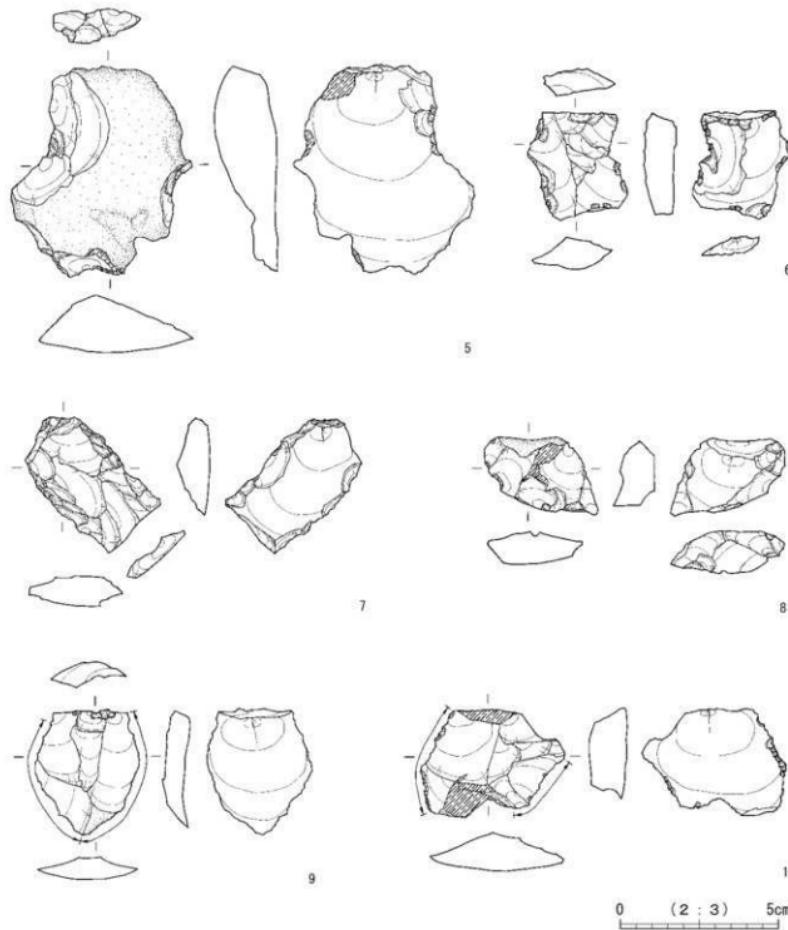
板状石器(大型直線刃石器 I 類)

属性の観察は、刃部長・刃角・各側縁の状態・微細剥離の有無について行った。V層から1点出土している(第262図)。4は残存刃部長4.4cmで、刃角72°～81°である。刃部はスナップ剥離が生じている。左右上側縁を折損している。石材は安山岩である。



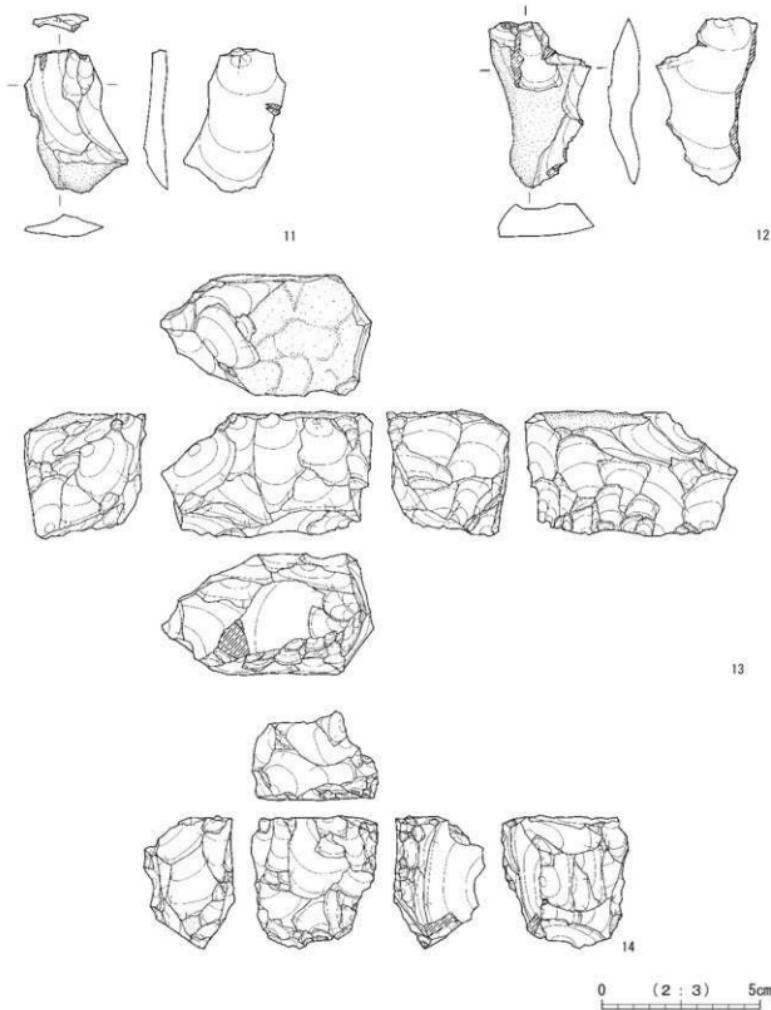
第262図 IV層・V層出土遺物(6)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	施区	種別	器種	分類	員径×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	写真 枚数
4	Ka057	—	道標候泊面	2H	打製石器	板状石器	—	13.6×12.6×1.3	327.36	安山岩	刃部長4.4cm、刃角72°～81°、下側縁加工、右側縁折損、左側縁折損	84



第263図 IV層・V層出土遺物(?)

国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
5	Ka049	—	Ⅳa層	2B	打制石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	6.4×5.0×2.0	55.16	流紋岩	切子打削、溝離角139°、背面+腹面加工、側縁に一次加工あり、自然面あり	84
6	Ka056	—	遺構後田舎	2B	打制石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	3.4×2.6×1.1	10.28	流紋岩	打削部加工、背面+腹面加工、側縁に二次加工あり	84
7	Ka059	—	遺構後田舎	2B	打制石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	3.2×3.3×1.1	14.54	珪質頁岩	平面打削、溝離角133°、背面+腹面加工、二側縁に一次加工あり	84
8	Ka060	—	遺構後田舎	2B	打制石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	2.8×3.2×1.3	9.32	流紋岩	平面打削、溝離角147°、背面+腹面加工、二側縁に一次加工あり、自然面あり	84
9	Ka044	—	Ⅳa層	2B	打制石器	微細剥離のある剥片	Ⅱ	4.0×3.3×0.8	8.65	凝灰質頁岩	平面打削、溝離角137°、二側縁に微細剥離あり	84
10	Ka050	—	V層	3A	打制石器	微細剥離のある剥片	Ⅱ	3.4×4.2×1.3	14.65	流紋岩	無打削、二側縁に微細剥離あり	84



第264図 IV層・V層出土遺物(8)

圖版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量g	石材	備考	写真 回数
11	Ka-102	—	Na層	2B	打製石器	薄片	—	4.5×2.6×0.8	8.49	流紋岩	刃打面、剥離角12°、自然面あり。06と接合	84
12	Ka-142	—	遺構検出面	2B	打製石器	薄片	—	5.2×3.0×1.0	14.19	流紋岩	削打面、自然面あり。Ka-080と同一母岩	84
13	Ka-043	—	Na層	2B	打製石器	石核	I	3.8×6.5×3.8	113.26	流紋岩	砸击材、打撃移動あり、自然面あり	84
14	Ka-058	—	遺構検出面	2B	打製石器	石核	III	4.1×3.6×2.5	45.23	流紋岩	未明、打撃移動あり	84

## 二次加工のある剥片

打面形状・剥離角・二次加工の加工面・微細剥離・自然面の有無について観察・計測を行った。二次加工の加工面によりⅠ～Ⅲ類に分けられる。

- I類：背面に加工があるもの
- II類：腹面に加工があるもの
- III類：背面と腹面に加工があるもの

IV層とV層では、III類：4点が出土している（第263図）。石材は3点が流紋岩で1点が珪質頁岩である。

## 微細剥離のある剥片

打面形状・剥離角・微細剥離分布範囲・自然面の有無について観察・計測を行った。微細剥離の分布範囲によりⅠ・Ⅱ類に分けられる。

- I類：一個縦に微細剥離があるもの
- II類：二側縦に微細剥離があるもの

IV層とV層では、II類：2点が出土している（第263図）。石材は9が凝灰質頁岩で10が流紋岩である。

## 剥片

打面形状・剥離角・自然面の有無について観察・計測を行った。IV層とV層では、2点が出土している（第264図）。石材は11が流紋岩で12は珪質頁岩である。

## 石核

剥片剥離作業時の打面転移の有無・素材・自然面の有無について観察・計測を行った。素材からⅠ～Ⅲ類に分けられる。

- I類：礫素材のもの
- II類：剥片素材のもの
- III類：剥片剥離作業が進行し素材が特定できないもの。

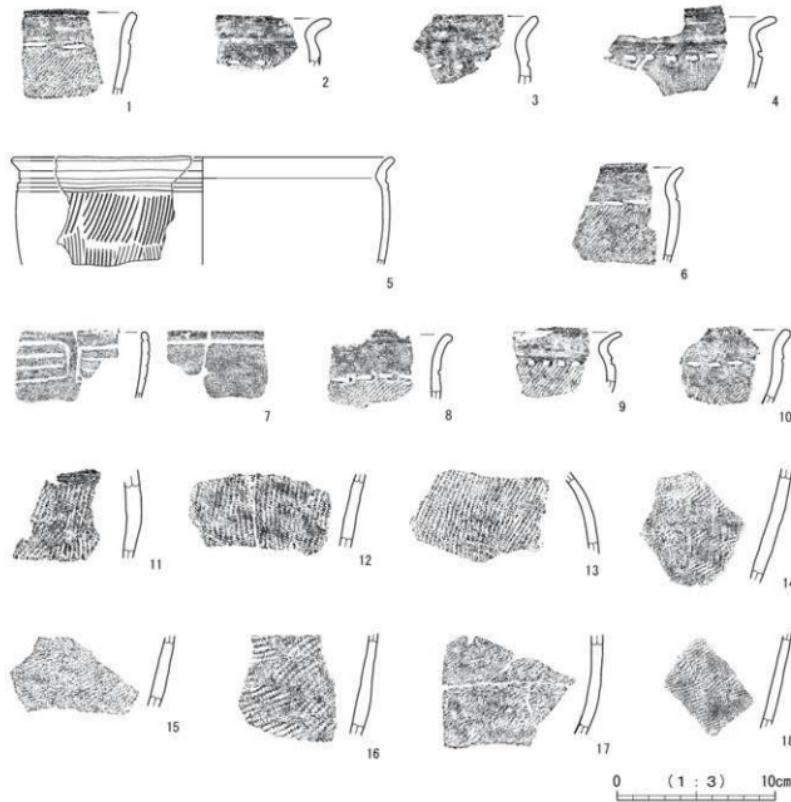
IV層とV層では、I類：1点、III類：1点が出土している（第264図）。13・14は打面転移が頻繁に行われている。石材はいずれも流紋岩である。

## ② その他の弥生時代の出土遺物

古代の遺構が検出された基本土層IV層は、層厚50cmに満たない箇所が大半であるため、古代遺構を構築する際には弥生時代の包含層を盛んに搅乱していた。よって古代遺構の調査においても、その埋土中から弥生時代の遺物が多く出土している。本項では、下位の弥生時代層に起因するものの、原位置不明と言わざるを得ない出土遺物を一括し報告する。

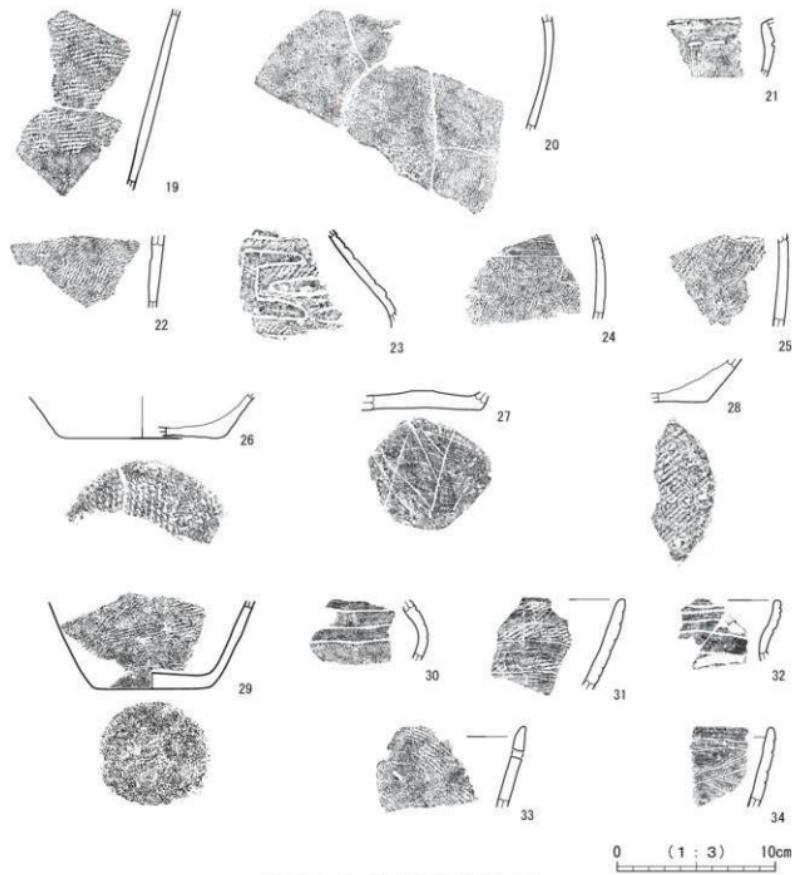
### a. 土器(第265～267図)

ここで一括としたのは、竪穴建物をはじめとする古代の遺構内埋土及び現代の搅乱から出土した弥生土器片である。1～29は甕、30は、壺、31～44は鉢、45・46は蓋とした。1～6及び8～10は、甕Ⅰ類である。胴部と口縁部の境にくびれを持ち、口縁部は短く外反する。胴部と口縁部の境のくびれ部分よりやや下位に、列点文を施す。大部分の地文はLR縄文である。5のLR縄文は2条撚り、15・17・21は植物茎回転文である。7は、最大径を胴部上位に持ち、口縁部は、長めでやや内湾しながら直立する器形であろう。工字風文を施す。30は、沈線区画内部に植物茎回転文を充填している。31・34は、LR縄文を施し、沈線の施文後、磨り消している。35・36・39は、逆に沈線文、層波文の施文後区画内にLR縄文を充填する。



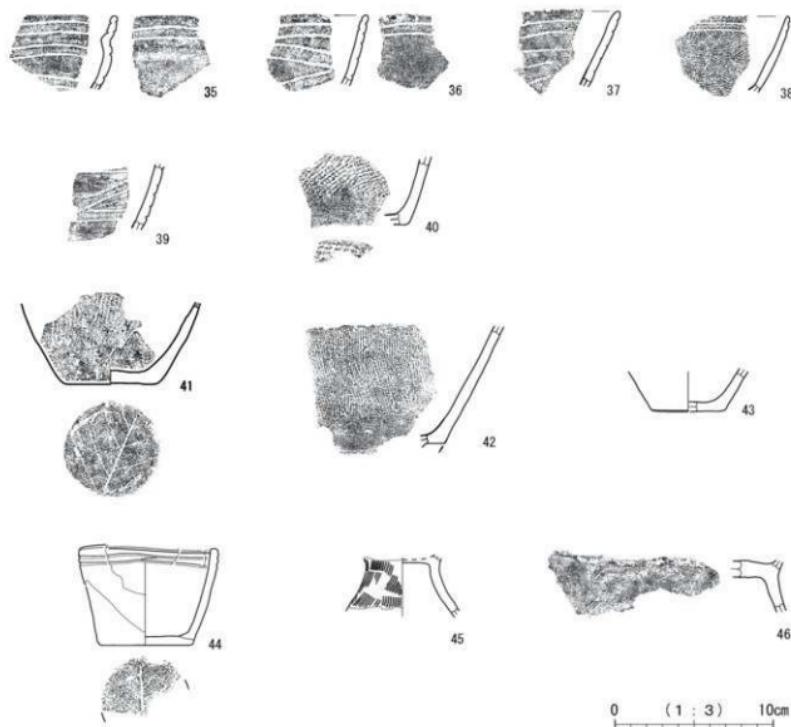
第265図 その他の弥生時代出土遺物(1)

品番	登録番号	出土遺物	種 别	器 特 性	外 表 調 査・文 緑	内 面 調 査・文 緑	備 考	参考 頁数
1	B-004	S6	1層	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)→再点文(右→左)	ナガ		88
2	B-006	S7	灰土	弥生土器	L.R.横文(斜行)→再点文(左→右)	ナダ, 涼薄	外面部生漆	88
3	B-018	SD12	振り方	弥生土器	L.R.横文(点文(左→右))	ミガキ		88
4	B-021	SD12	灰土	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)→再点文(左→右)	ミガキ		88
5	B-027	SD13	3層	弥生土器	要 L.R.横文(各部, 斜行)→沈縞	ミガキ		88
6	B-031	SD15	17層	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)→再点文(左→右)	ナダ, 涼薄		88
7	B-033	SD22	灰土	弥生土器	要 工字文施	ミガキ		88
8	B-040	SD19	2層	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)→再点文(左→右)	ミガキ		88
9	B-043	SD11	灰土	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)→再点文(左→右), L1侧面施文有 再点文(左→右), L.R.横文(斜行)	ミガキ	外面部炭化物付着	88
10	B-044	SD13	11層	弥生土器	要 再点文(左→右), L.R.横文(斜行)	ミガキ		88
11	B-051	SI1	1層	弥生土器	要 L.R.横文(斜行), ミガキ	ミガキ(剥落)		88
12	B-002	SI1	4層	弥生土器	要 L.R.横文(斜行, 縦走), 弦彫	ミガキ		88
13	B-006	S6	灰土	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)	ミガキ		88
14	B-009	SB8	3層	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)	ミガキ		88
15	B-010	SB9	振り方	弥生土器	要 製作系縦走文	ナダ		89
16	B-011	SB9	床面	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)	沈縞2条, ミガキ?		89
17	B-013	SB9	弥生土器	要 植物茎葉回文(縦走)	ナダ			89
18	B-015	SB9	振り方	弥生土器	要 L.R.横文(斜行)	ミガキ		89



第266図 その他の弥生時代出土遺物(2)

図版 番号	登録番号	出土遺物	種別	部類	外面調整・文様	内面調整・文様		備考	写真 回数
						内面	調査・文様		
19	B-028	SD13	床面	陶土器	束	LR縦文(斜行)	ミガキ	網代板	89
20	B-037	SD22	2層	陶土器	束	LR縦文(斜行)	ミガキ		89
21	B-038	SD7	3層	陶土器	束	植物茎葉文→向右文(左)(△)	ミガキ	木葉板	89
22	B-039	SD26	1層	陶土器	束	LR縦文(斜行)	ミガキ		89
23	B-043	2B16.7T	1層	陶土器	束	丁子文・束面・LR縦文(斜行)光面	ミガキ	北前2番	89
24	B-065	SD23	底土	陶土器	束	平行波紋・LR縦文(斜行)	ミガキ	内面炭化物付着	89
25	B-066	SD61	底土	陶土器	束	LR縦文(斜行)	ミガキ		89
26	B-029	SD13	床面	陶土器	束	地文×司紋	ミガキ		89
27	B-030	SD13	4層	陶土器	束	ミガキ	網面	網代板	89
28	B-041	SD26	底土	陶土器	束	地文×司紋	ケズリ	木葉板	89
29	B-068	SD17	底土	陶土器	束	LR縦文(斜行)	ミガキ		89
30	B-016	SD10	底土	陶土器	束	沈縮・植物茎葉文・文化斑	ミガキ		89
31	B-003	SD6	8層	陶土器	束	LR縦文(斜行)→沈縮→暗消	ナゲ	外面炭化物付着	89
32	B-005	SD6	底土	陶土器	束	ミガキ	沈縮1番	内面炭化物付着	89
33	B-007	SD7	底土	陶土器	束	LR縦文(斜行)・横移孔	ミガキ		89
34	B-014	SD9	P1	陶土器	束	LR縦文・沈縮→暗消	ミガキ	外内面炭化物付着	89



第267図 その他の弥生時代出土遺物(3)

出目版 番号	登録番号	出土遺物	種別	器種	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 枚数
35	B-017	SI12	I型	弥生土器	鉢 北端→植物系斜光地	ミガラ		39
36	B-025	SI13	I型	弥生土器	鉢 直波文、LR織文光地	ミガラ、消落		39
37	B-026	SI22	理土	弥生土器	鉢 菱形干子文、LR織文(斜行)光地	ミガラ		39
38	B-042	SD10	理土	弥生土器	鉢 LR織文(斜行)→北端2条	消落	副代表	39
39	B-026	SI12	理土	弥生土器	鉢 直波文、LR織文光地	ミガラ		39
40	B-020	SI12	I型	弥生土器	鉢 LR織文(斜行)	ミガラ		39
41	B-022	SI12	I型	弥生土器	鉢 LR織文(斜行)	ミガラ		39
42	B-023	SI12	偏口	弥生土器	鉢 菱形系斜波文	ミガラ	内外面灰化物付着	39
43	B-032	SI22	理土	弥生土器	鉢 1.直	ミガラ	内外面灰化物付着	39
44	B-067	SI05	床面	弥生土器	鉢 平行沈縮(分倉)、ミガラ	ミガラ		39
45	B-019	SI12	I型	弥生土器	鉢 LR織文(斜行)、赤跡	チヂ	本裏板	39
46	B-034	SI19	理土	弥生土器	蓋 「まみ頭の形」、ミガラ→LR織文(斜行)	チヂ	裏板板	39

## b. 石器・石製品(第268~298図)

古代の遺構が検出された基本土層Ⅳ層は、層厚50cmに満たない箇所が大半であるため、古代遺構を構築する際には弥生時代の包含層を盛んに搅乱していた。よって古代遺構の調査においても、その埋土中から弥生時代の遺物が多く出土している。本項では、下位の弥生時代層に起因するものの、原位置不明と言わざるを得ない出土遺物を一括し報告する。93点を掲載し、このうち20点が接合して10個体となった。

### ① 打製石器

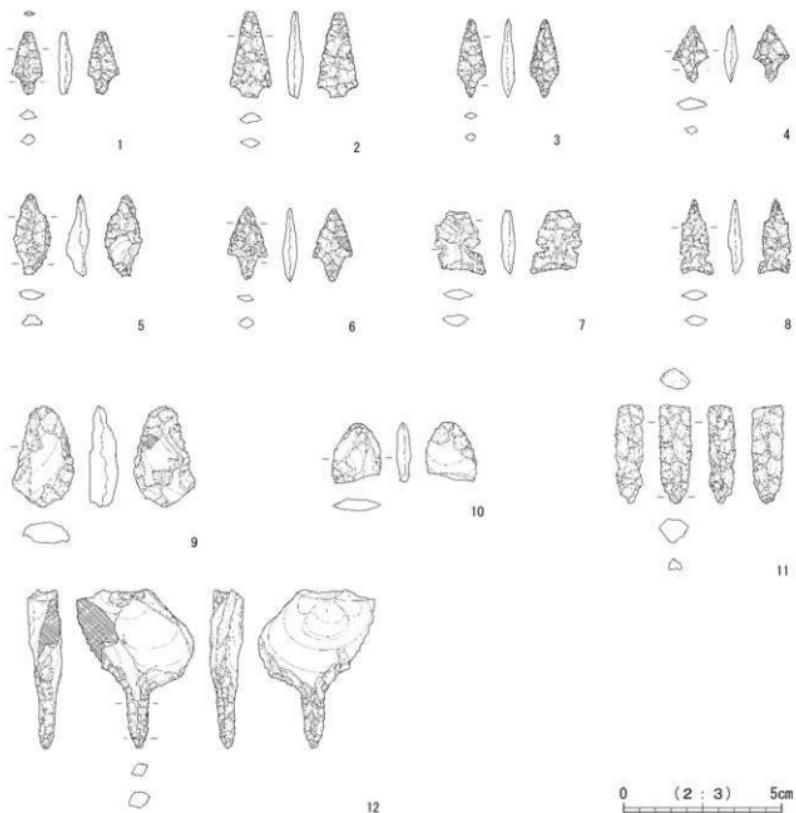
#### 石鎌

I類:6点、II類:2点、III類:1点、不明:1点の10点が出土している(第268図)。

1はI類B2種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右異なる。両面の中央の稜は粗雑ではあるが器軸に沿っている。断面形は中間部・基部共には菱形を呈する。石材は珪質頁岩である。2はI類A2種である。基部を欠損している。両面を平坦剥離で整形されており、先端部に調整を施している。両面の中央の稜は粗雑ではあるが器軸に沿っている。断面形は中間部が凸レンズ状で基部は菱形を呈する。石材は凝灰質頁岩である。3はI類B1種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右異なる。両面の中央の稜は粗雑ではあるが器軸に沿っている。断面形は中間部・基部共には菱形を呈する。石材は凝灰質頁岩である。4はI類B2種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右同じである。裏面に素材剥片の剥離面を残している。両面の中央の稜は器軸に沿っていない。断面形は中間部が凸レンズ状で基部は菱形を呈する。石材は玉髓である。5はI類B1種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右異なる。両面の中央の稜は器軸に沿っていない。断面形は中間部が凸レンズ状で基部は台形状を呈する。石材は凝灰質頁岩である。6はI類B2種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右異なる。両面の中央の稜は器軸に沿って直線的である。断面形は中間部が薄い凸レンズ状で基部は菱形を呈する。石材はチャートである。7はII類B2種である。先端部を折損している。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右同じである。両面の中央の稜は粗雑ではあるが器軸に沿っている。断面形は中間部・基部共に凸レンズ状を呈する。石材は流紋岩である。8はII類B2種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右同じである。両面の中央の稜は粗雑ではあるが器軸に沿っている。断面形は中間部・基部共に凸レンズ状を呈する。石材は流紋岩である。9はIII類A1種である。周縁を平坦剥離で整形している。断面形は中間部・基部共に厚い凸レンズ状を呈する。石材は玉髓である。10は大きく基部を欠損している。周縁を平坦剥離で整形している。両面に素材剥片の剥離面を残している。断面形は中間部が凸レンズ状を呈する。石材は凝灰質頁岩である。

#### 石錐

2点が出土している(第268図)。11は錐部のみである。錐部は全面域に加工が施されている。石材は流紋岩である。12は完形品である。つまみ部は全周に加工が施されている。錐部は全面域に加工が施されている。石材は流紋岩である。



第268図 その他の弥生時代出土遺物(4)

回数	登錄番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重量(g)	石 砂	備 考	写真 回数
1	Ka-011	P97	1層	2B	打製石器	石鏟	I B2	2.0×1.0×0.3	0.49	磨耗質 有茎式、先端部欠損、幅厚比0.3	90	
2	Ka-016	SB6	埋土	2B	打製石器	石鏟	I A2	2.7×1.3×0.5	1.11	磨耗質 有茎式、先端部及(?)茎部欠損、幅厚比0.38	90	
3	Ka-017	SB8	1層	2B	打製石器	石鏟	I B1	2.5×0.9×0.4	0.68	磨耗質 有茎式、完形、先端角28°、幅厚比0.44	90	
4	Ka-022	SB9	脈々方埋土	2B	打製石器	石鏟	I B2	1.8×1.1×0.4	0.55	玉砂岩 有茎式、完形、先端角54°、幅厚比0.36、自然 面手彫り	90	
5	Ka-023	SB12	1層	2B	打製石器	石鏟	I B1	2.5×1.1×0.7	1.23	磨耗質 有茎式、完形、先端角44°、幅厚比0.63	90	
6	Ka-024	SB12	2層	2B	打製石器	石鏟	I B2	2.3×1.2×0.4	0.67	チャート 有茎式、完形、先端角44°、幅厚比0.33	90	
7	Ka-030	P11	1層	3A	打製石器	石鏟	II B2	1.9×1.4×0.4	0.89	泥灰岩 アメリカ式、先端部及(?)茎部欠損、幅厚比 0.29	90	
8	Ka-032	P130	埋土	2B	打製石器	石鏟	II B2	2.4×0.9×0.3	0.52	泥灰岩 アメリカ式、完形、幅厚比0.33	90	
9	Ka-027	SB3	4層	2B	打製石器	石鏟	III A1	3.2×1.8×0.8	4.25	玉砂岩 茎部欠損、先端角46°、幅厚比0.44、薺村面 残す	90	
10	Ka-063	—	—	2B	打製石器	石鏟	—	1.8×1.6×0.4	0.76	磨耗質 茎部欠損、先端角57°、幅厚比0.25、薺村面 残す	90	
11	Ka-039	SB2	埋土	2B	打製石器	石鏟	—	3.1×1.0×0.8	2.67	泥灰岩 欠損品、鏽部3.1×1.0×0.8、円周長 7.07cm、両面加工	90	
12	Ka-065	—	—	2B	打製石器	石鏟	—	5.0×2.3×1.0	11.6	泥灰岩 充填品、鏽部1.7×0.7×0.5、円周長 1.07cm、両面加工	90	

### 板状石器(大型直線刃石器 I 類)

1 点出土している(第269図)。13は残存刃部長8.6cmで、刃角76°～88°である。刃部はスナップ剥離が生じている。左右側縁を折損している。上側縁は二次加工を施している。石材は安山岩である。

### 二次加工のある剥片

I 類:2点、II 類:3点、III 類:6点が出土している(第270～271図)。Ka-037・040・067は微細剥離が観察できる。石材は9点が流紋岩で1点が黒曜石、1点が珪質頁岩である。

### 微細剥離のある剥片

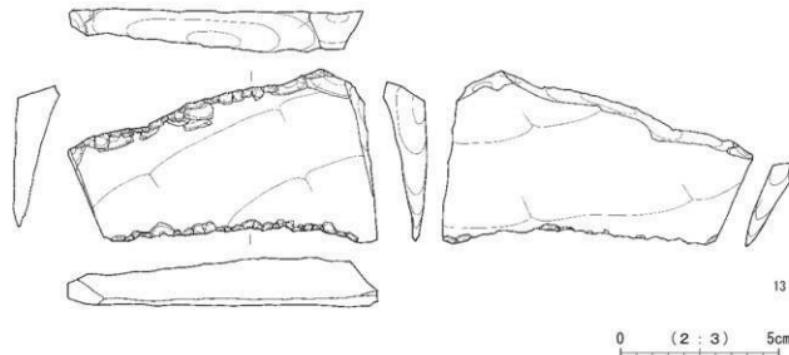
I 類:2点、II 類:4点が出土している(第272～273図)。石材は5点が流紋岩で1点が珪質頁岩である。

### 剥片

1 点出土している(第273図)。石材は珪質頁岩である。

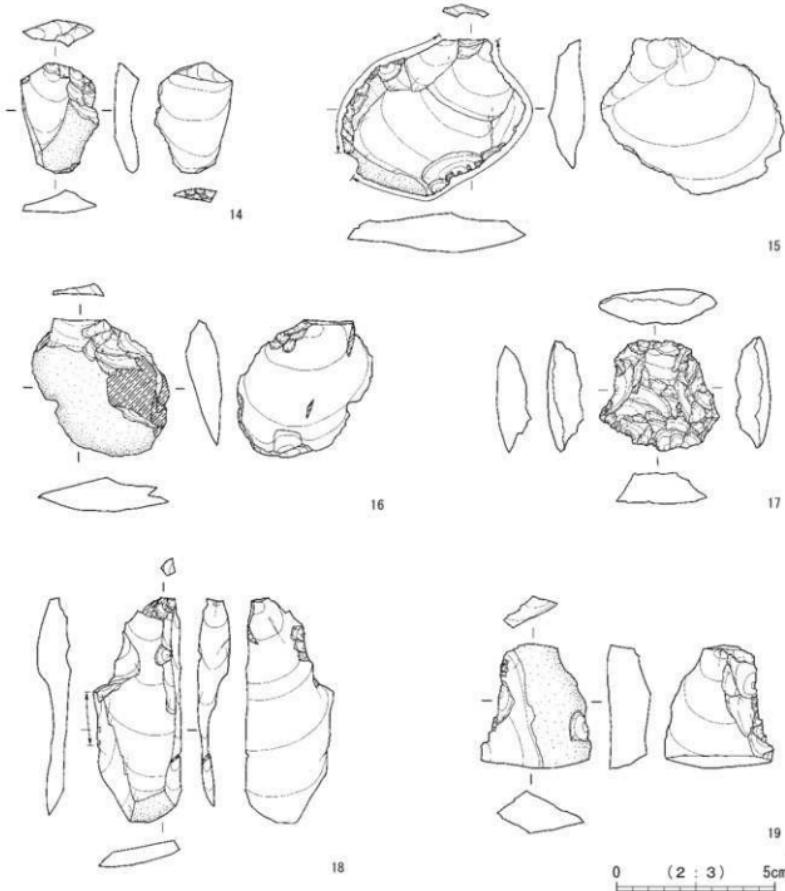
### 石核

I 類:6点、II 類:2点、III 類:2点が出土している(第274～277図)。石材はKa-003が珪質頁岩で他は全て流紋岩である。



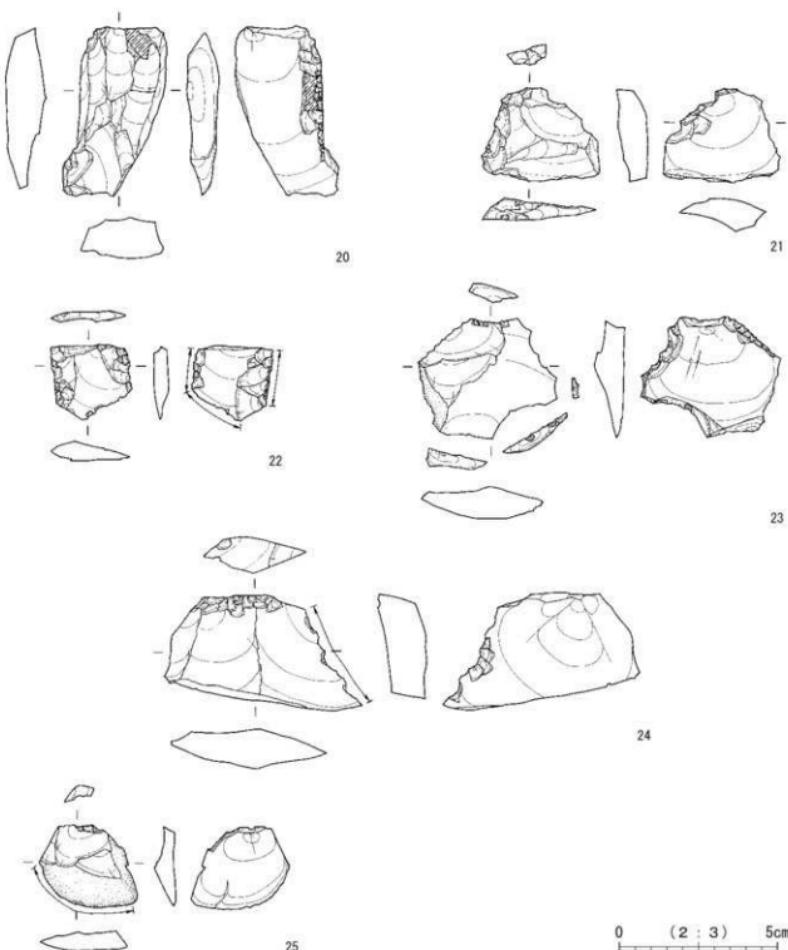
第269図 その他の弥生時代出土遺物(5)

団体 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 形	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 品	備 考	写真 番号
13	Ka-028	SH4	埋土	2B	打制石器	板状石器	—	5.1×9.4×1.3	63.32	安山岩	刃部長8.6cm、刃角76°～88°、下側縁加工、右側縁折れ、左側縁折れ、上側縁折れ、二次加工	90



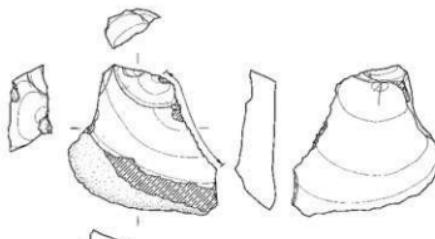
第270図 その他の弥生時代出土遺物(6)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
14	Ka-018	SB8	3層	2B	打製石器	二次加工のある調片	I	3.5×2.3×1.0	5.73	流紋岩	打痕折れ、背面加工。一側縁に二次加工あり。	90
15	Ka-067	—	—	3A	打製石器	二次加工のある調片	I	4.7×5.6×1.3	29.38	流紋岩	平坦打面、剥離角102°。背面加工。一側縁に二次加工あり。同側縁に微細剥離のあり。自然端あり	90
16	Ka-004	SD10	堆土	2B	打製石器	二次加工のある調片	II	4.3×4.2×1.1	17.58	流紋岩	平坦打面、剥離角102°。背面加工。一側縁に二次加工あり。自然端あり	90
17	Ka-035	SE5	堆土	3A	打製石器	二次加工のある調片	II	3.4×3.7×1.1	12.03	逆斑岩	平坦打面、剥離角134°。背面加工。周縁に二次加工あり。自然端あり	90
18	Ka-069	—	899	2B	打製石器	二次加工のある調片	II	7.0×2.7×1.0	15.11	流紋岩	平坦打面、剥離角128°。周面加工。一側縁に二次加工あり。自然端あり	90
19	Ka-025	SB3	1層	2B	打製石器	二次加工のある調片	III	3.9×3.4×1.4	15.21	流紋岩	平坦打面、剥離角138°。背面・周面加工。一側縁に一次加工あり。自然端あり	90

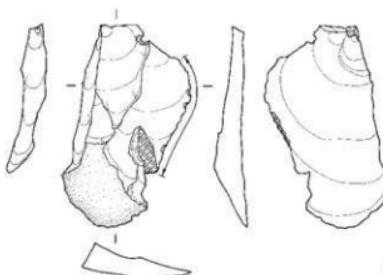


第271図 その他の弥生時代出土遺物(7)

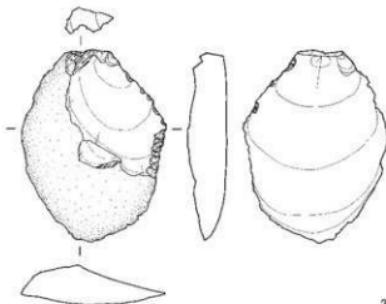
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石種	備考	参考 頁数
20	Ka026	SI13	2層	2B	打製石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	5.3×2.6×1.3	20.68	流紋岩	平坦打面、剥離角138°、背面・腹面加工、二側縁に二次加工あり	90
21	Ka031	SI19	埋土	2B	打製石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	2.9×3.7×1.0	9.91	流紋岩	切子打面、剥離角132°、背面・腹面加工、二側縁に二次加工あり	90
22	Ka037	SI74	埋土	3A	打製石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	2.4×2.4×0.6	3.10	珪質頁岩	打面部分削れ、背面・腹面加工、同側縁に微細加工	90
23	Ka038	SI74	16層	3A	打製石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	3.8×4.3×1.0	12.76	流紋岩	平坦打面、剥離角106°、背面・腹面加工、周縁に二次加工あり、自然面あり	90
24	Ka040	SI2	埋土	2B	打製石器	二次加工のある剥片	Ⅲ	3.4×5.7×1.4	25.55	流紋岩	切子打面、剥離角120°、背面・腹面加工、二側縁に二次加工あり、同側縁に微細加工あり	90
25	Ka032	SI19	埋土	2B	打製石器	微細剥離のある剥片	I	2.6×2.8×0.7	4.74	珪質頁岩	平坦打面、剥離角112°、側縁に微細剥離	90



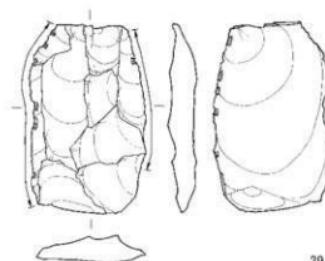
26



27



28

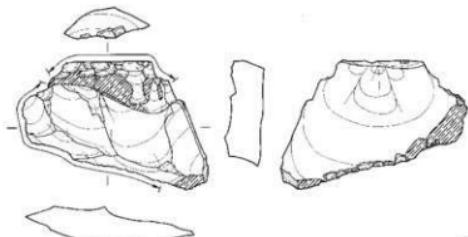


29

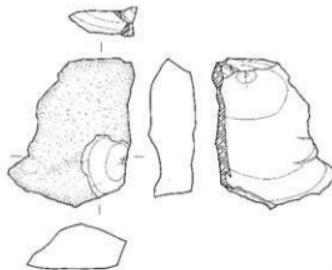
0 (2 : 3) 5cm

第272図 その他の弥生時代出土遺物8)

図版 番号	登錄番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
26	Ka-061	—	—	2B	打製石器	微細剥離のある薄片	I	4.3×4.5×1.5	24.83	流紋岩	切子打面、剥離角132°、背面・腹面加工。一側面に放散剥離あり、自然面あり	90
27	Ka-061	SD6	堆土	2B	打製石器	微細剥離のある薄片	II	6.4×3.5×0.8	16.91	流紋岩	平坦打面、剥離角118°、一個縁に微細剥離あり、自然面あり	90
28	Ka-002	SD7	堆土	2B	打製石器	微細剥離のある薄片	II	6.0×4.5×1.2	31.59	流紋岩	平坦打面、剥離角118°、一個縁に微細剥離あり、自然面あり	90
29	Ka-020	SB9	塗り方	2B	打製石器	微細剥離のある薄片	II	6.0×3.6×1.3	21.64	流紋岩	底面打面、剥離角135°、二側面に微細剥離あり	90



30



31

0 (2 : 3) 5cm

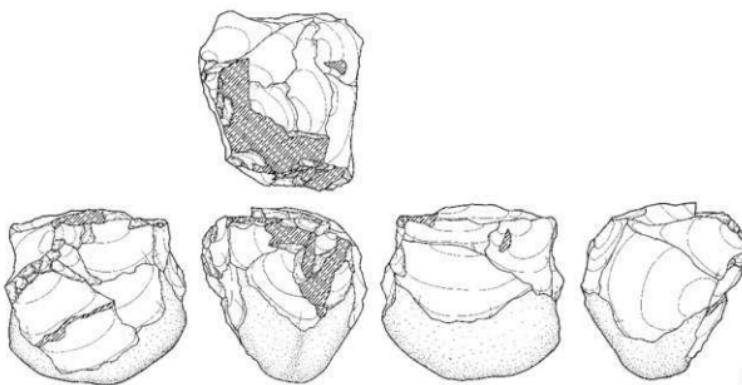
第273図 その他の弥生時代出土遺物(9)

登録番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	基準	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石種	備考	右側 写真
30	Ka-064	—	—	2B	打制石器	圓錐剥離のある剥片	II	3.8×5.3×1.2	21.85	流紋岩	平底打岱、剥離角130°、背面+腹面加工、二 側縁に微細剥離あり	90
31	Ka-080	S38	2層	2B	打制石器	剥片	—	4.6×3.7×1.5	26.63	珪質頁岩	平底打岱、剥離角134°、自然面あり、Ka- 142と同一経緯	90

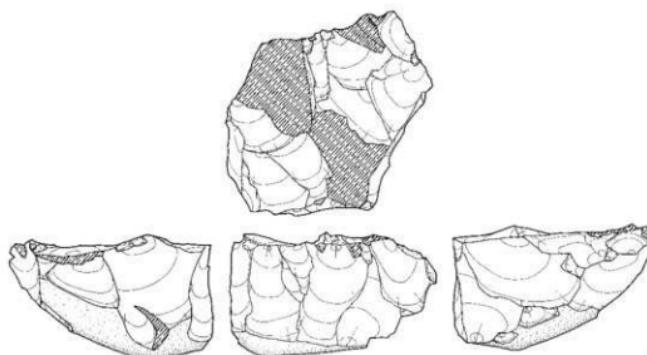
0 (2 : 3) 5cm

第274図 その他の弥生時代出土遺物(1)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 别	器 物	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 番号
22	Ko-003	SD9	耕土	2B	打削石器	石核	I	10.7 × 11.5 × 7.1	1072.22	珪質頁岩	礫素材、打削動作あり、自然面あり	90



33

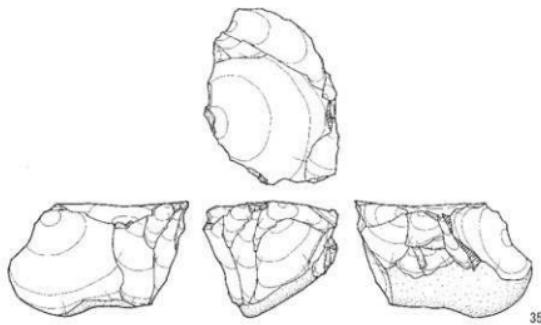


34

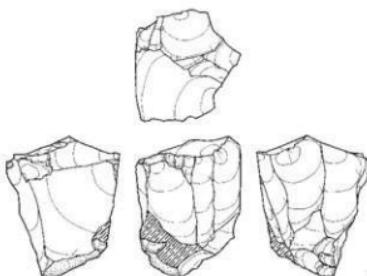
0 (2 : 3) 5cm

第275図 その他の弥生時代出土遺物(1)

国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石質	備考	写真 回数
33	Ka014	S14	耕土	2B	打制石器	石核	I'	5.6×5.1×5.7	188.18	泥炭材、打山脈産あり、自然山あり	94	
34	Ka029	S19	耕土	2B	打制石器	石核	I	3.8×5.5×5.6	155.20	泥炭材、打山脈産あり、自然山あり	94	



35

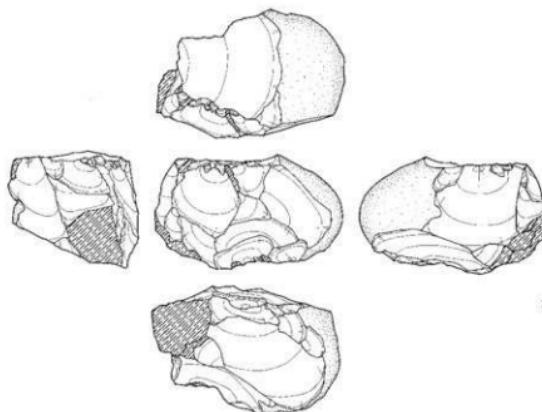


36

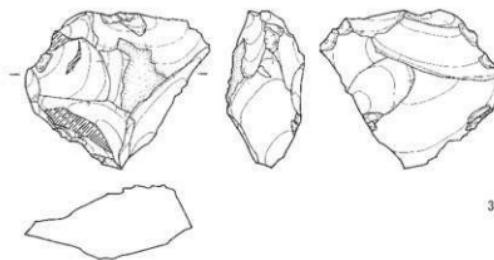
0 (2 : 3) 5cm

第276図 その他の弥生時代出土遺物12

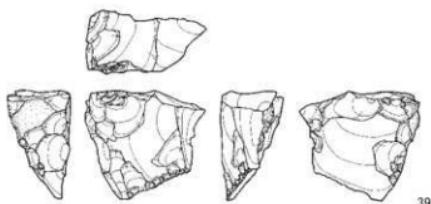
組別 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 别	器 様	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石 材	備 考	参考 文献
35	Ka-030	SH9	堆土	2B	打製石器	石核	I	3.7×4.2×6.1	74.76	泥質岩	擦剥材、打山和持あり、自然面あり	95
36	Ka-034	SE20	2層	2B	打製石器	石核	I	4.2×3.3×3.5	46.96	泥質岩	擦剥材、打山和持あり、自然面あり	95



37



38



39

0 (2 : 3) 5cm

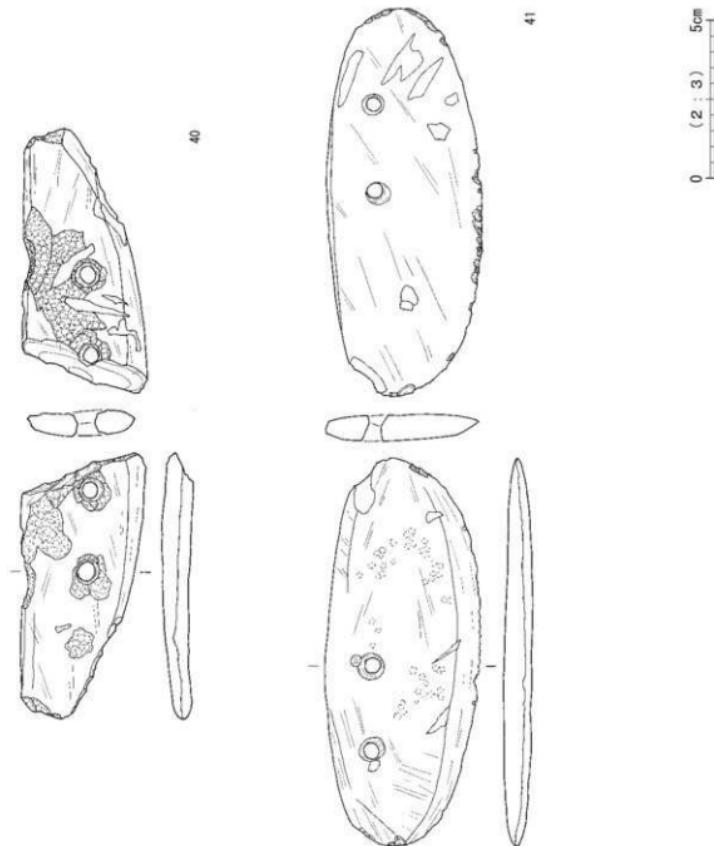
第277図 その他の弥生時代出土遺物(3)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石材	備考	写真 掲載
37	Ku.002	—	—	2B	打削石器	石核	I	3.4×5.8×3.5	87.54	鍛造材、打削面あり、自然面あり	94	
38	Ku.015	SAS	埋土	2B	打削石器	石核	II	5.0×5.2×2.3	47.97	鍛造材、打削面あり、自然面あり	94	
39	Ku.019	SAS	3層	2B	打削石器	石核	II	3.5×3.8×1.8	20.07	鍛造材、打削面あり、自然面あり	94	

② 磨製石器

石磨丁

2点出土している(第278図)。40は折損品である。敲打のうち両面を研磨しており、孔は2箇所にある。外湾刃である。刃縁は激しく磨耗している。刃面は最大幅0.6cmである。石材は硬砂岩である。41は完形品である。敲打のうち両面を研磨しており、孔は2箇所にある。外湾刃である。刃縁には微細剥離が観察できる。刃面は最大幅0.8cmである。石材は粘板岩である。



第278図 その他の弥生時代出土遺物[14]

件号	登録番号	出土地	層位	施区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石材	備考	写真 回数
40	Kib-001	—	—	3人	磨製石器	石磨丁	—	3.9×7.5×0.8	34.16	硬砂岩	欠損品。刃部角62°～86°。孔内径0.6cm。孔外径0.7cm。孔間隔2.6cm。	92
41	Kib-002	SE3	振り方理土	3人	磨製石器	石磨丁	—	4.9×12.3×0.9	72.74	粘板岩	完形品。刃部角78°～82°。孔内径0.5cm。孔外径0.8cm。孔間隔2.7cm。	92

### ③ 確石器

礫石器にみられる使用痕跡には磨痕・凹痕・敲打痕の3つがあり、単独やこれらの組み合わせのものがみられる。凹痕の中には痕跡が僅かで、敲打痕との区別が困難なものも含まれていた。従って便宜上の判別基準として、凹面を形成しているものを凹痕、素材の形状を残し凸面であるものを敲打痕とした。使用痕跡は、その範囲・部位・数・程度について観察し、計測を行っている。

素材形状：円礫、楕円礫、棒状礫がある。

磨面数：面数と磨面の形状を示し、形状には凹面、凸面、平坦面がある。

凹面数：凹痕のみられる面の数。

凹形態：各面に一つのまとまりをもった凹痕が単独で存在するものを「單」、複数存在するものを「複」とし、2面にみられる場合は「+」で連結している。

凹深さ：凹痕の深さを「深」・「浅」・「微」で表し、二面にみられる場合は「+」で連結している。

敲箇所：礫形状の長軸側の側面を「先」、短軸側の側面を「側」で表し、数字は箇所数を示している。

敲程度：全体を通して見た敲打による破損の程度を「激」・「強」・「弱」で表している。

磨・凹・敲石 磨痕・凹痕・敲打痕の組み合わせから、以下のように分類される。

I類：磨痕のみのもの

II類：凹痕のみのもの

III類：敲痕のみのもの

IV類：磨痕と敲痕がみられるもの

V類：磨痕と凹痕がみられるもの

VI類：凹痕と敲痕がみられるもの

VII類：全てがみられるもの

I～VII類は素材形状からA～C種に細分される。

A：円礫素材のもの

B：楕円礫素材のもの

C：棒状礫素材のもの

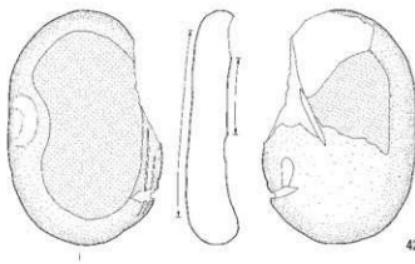
I類B種：3点、I類C種：1点、II類A種：2点、II類B種：5点、III類B種：1点、III類C種：2点、V類A種：1点、V類B種：3点、VI類A種：1点、VI類B種：3点、VI類C種：2点、VII類A種：1点出土している（第279～294図）。磨痕・凹痕は、礫の表か裏面或いは両面に認められる。敲打痕は主に円礫の側面、長軸側の先端部、短軸側の先端部にみられる。石材は14点が凝灰岩で、11点が石英安山岩である。

石皿

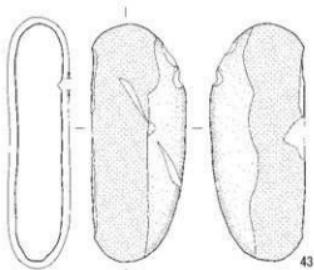
1点が出土している（第294図）。楕円礫を素材とし、周縁を形成している。石材は凝灰岩である。

台石

4点が出土している（第295～298図）。石材はKc-008・015が石英安山岩で、Kc-007・028が凝灰岩である。



42



43

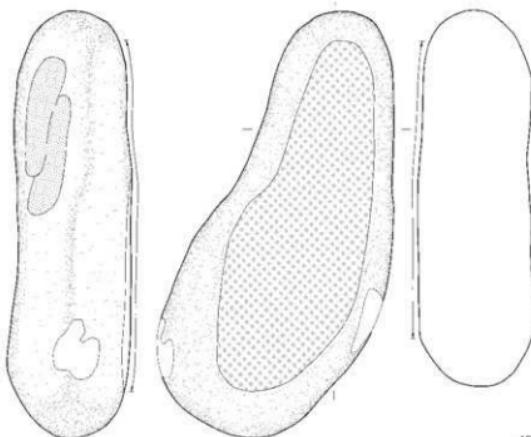


44

0 (1 : 2) 5cm

第279図 その他の弥生時代出土遺物15)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	写真 枚数
42	Ke-013	SH3	1層	2B	砾石器	砾石	1B	9.9×6.5×2.2	88.70	麻沢岩	欠損品、椎円錐、削二面(平・凹)	93
43	Ke-021	SD38	所土	3A	砾石器	砾石	1B	10.0×4.0×2.1	59.90	麻沢岩	欠損品、椎円錐、削二面(平)	93
44	Ke-024	SH45	所土	3A	砾石器	砾石	1B	7.3×7.2×3.7	123.52	麻沢岩	欠損品、椎円錐、削一面(凹)	93



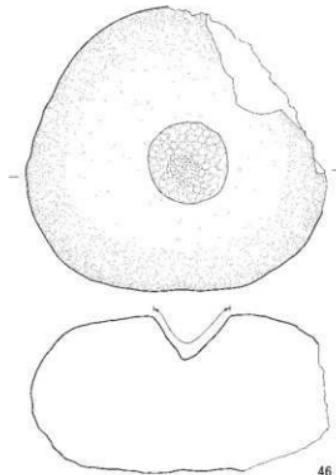
45



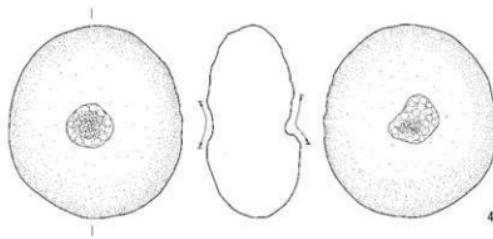
0 (1 : 2) 5cm

第280図 その他の弥生時代出土遺物16

国歴 番号	登録番号	出土地点	解説	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量g	石種	備考	石色 斑駁
45	Kc 002	SD6	地土	2B	砾石器	磨石	IC	18.0 × 9.1 × 5.2	1101.27	石英安山岩	丸形品、棒状鉢、磨二面(平+凹)	90



46

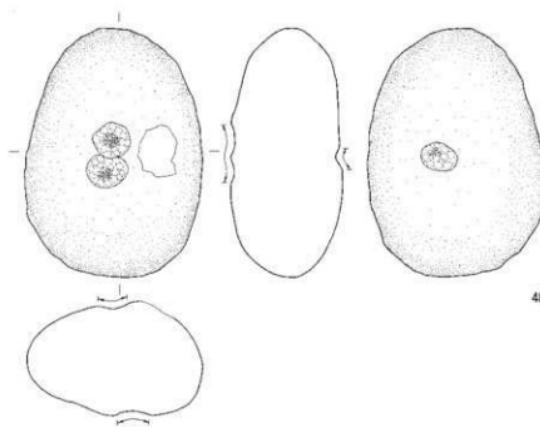


47

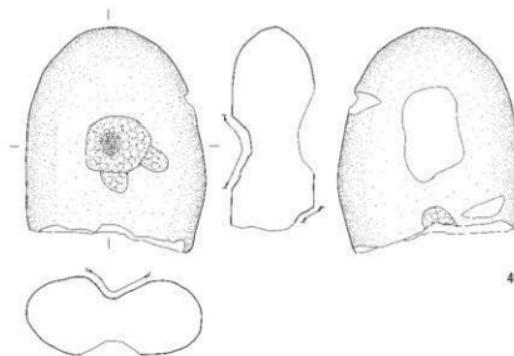
0 (1 : 2) 5cm  
比例尺

第281図 その他の弥生時代出土遺物(1)

回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	写真 回数	
46	Kc-005	SD04	庶土	3	磨石器	四石	B A	12.0 × 12.6 × 6.6	656.26	麻风岩	欠損品、円錐、凹一面(单)	度き(実)	80
47	Kc-014	SH4	7層	2B	磨石器	四石	B A	8.1 × 7.1 × 3.9	259.85	石英安山岩	完形品、円錐、凹二面(单+单)	度き(実)	93



48

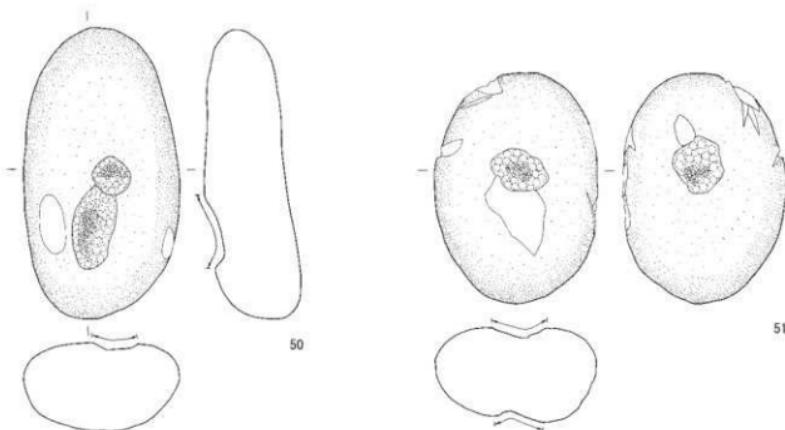


49

0 (1 : 2) 5cm

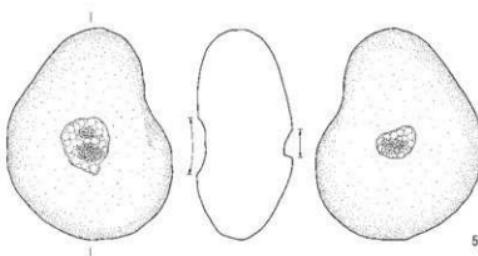
第282図 その他の弥生時代出土遺物18

回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 别	器 形	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石 料	備 考	参考 例
48	Kc-003	SD12	1層	2B	磨石器	四石	B B	10.4 × 7.3 × 4.8	486.01	石英安山岩	完形品、椎円錐、凹一面(板・单)深さ(浅)	93
49	Kc-004	SD15	1層	2B	磨石器	四石	B B	8.5 × 7.4 × 2.5	209.49	霞灰岩	欠損品、椎円錐、凹一面(板・单)深さ(浅)	93



50

51

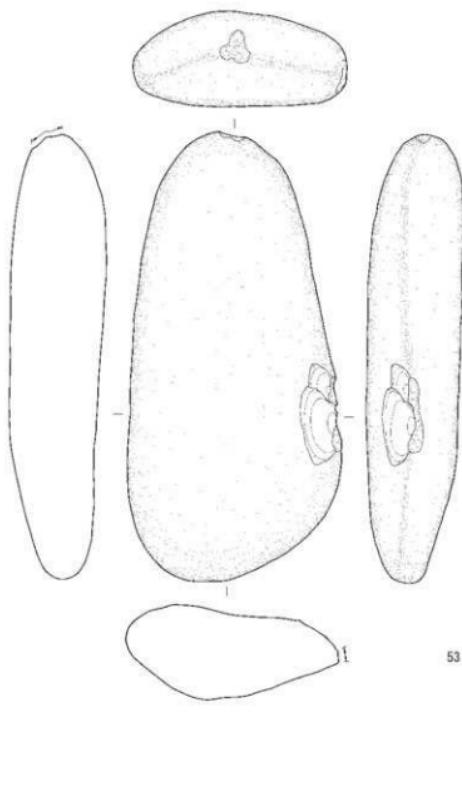


52

0 (1 : 2) 5cm

第283図 その他の弥生時代出土遺物[9]

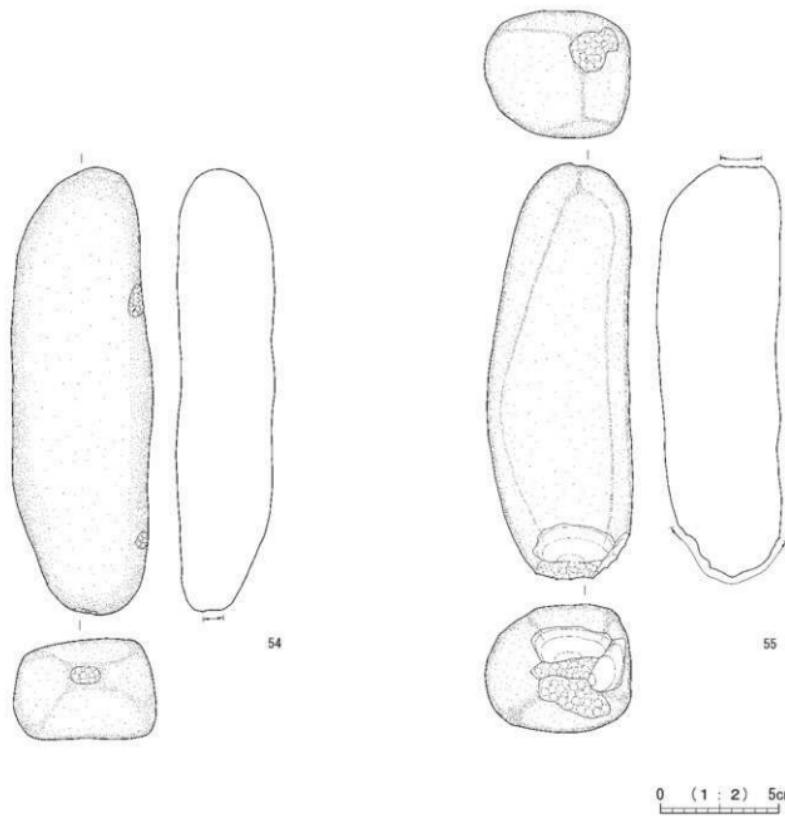
図版番号	登錄番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	参考 文献
50	Kc-011	S6	—	2B	禮石器	四石	B B	12.3 × 6.6 × 4.1	241.80	凝灰岩	丸形扁、横円縁、凹二面(右)深さ(左)	93
51	Kc-033	—	—	3A	禮石器	四石	B B	8.8 × 6.8 × 4.1	212.54	凝灰岩	丸形扁、横円縁、凹二面(右)・(左)深さ(左)	93
52	Kc-034	—	—	2B	禮石器	四石	B B	8.8 × 6.6 × 4.0	279.25	石英安山岩	丸形扁、横円縁、凹二面(右)・(左)深さ(左)	94



0 (1 : 2) 5cm

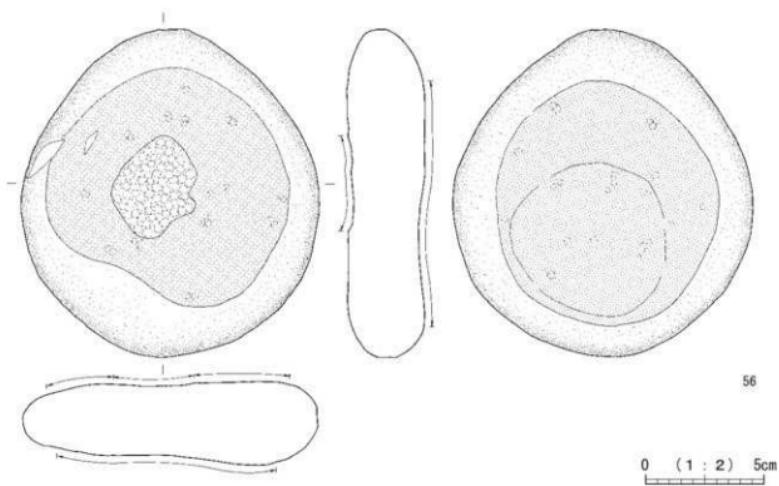
第284図 その他の弥生時代出土遺物20

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 特	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石 材	備 考	写真 回数
53	Ke-006	SK12	地土	3A	礫石器	礫石	ⅢB	14.6×9.0×4.0	882.05	石英安山岩 (搬)	完形品、椎円錐、縫(先)箇所+側1箇所程度	94



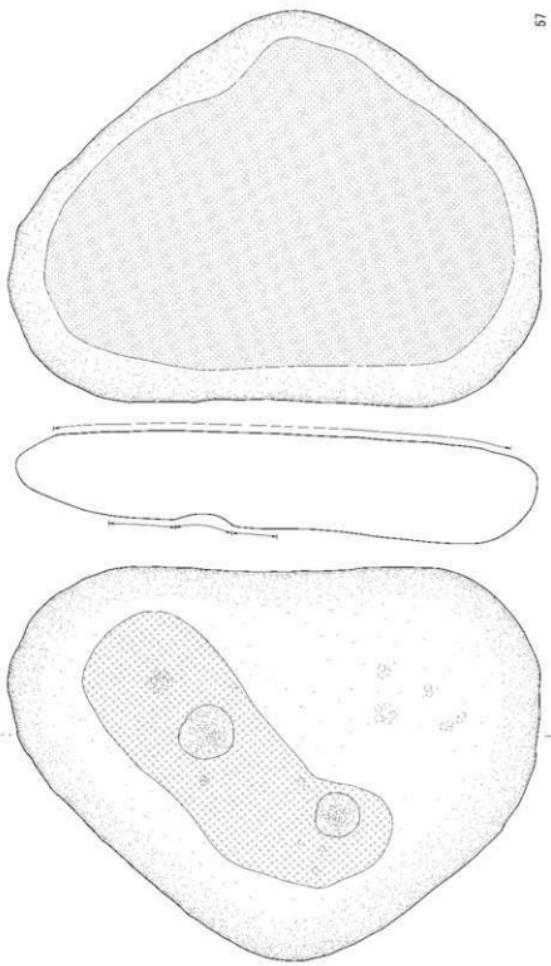
第285図 その他の弥生時代出土遺物2)

出所 番号	登録番号	出土地	層位	地	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
54	Kc-017	SD30	理土	3A	砾石器	砾石	ⅢC	18.8×5.9×4.2	726.05	石英安山岩 (32)	空形品、棒状縫、縫(先1箇所+側2箇所)程度	94
55	Kc-020	SD30	—	3A	砾石器	砾石	ⅢC	17.6×6.0×5.3	842.36	石英安山岩	空形品、棒状縫、縫(先2箇所)程度(側)	94



第286図 その他の弥生時代出土遺物22

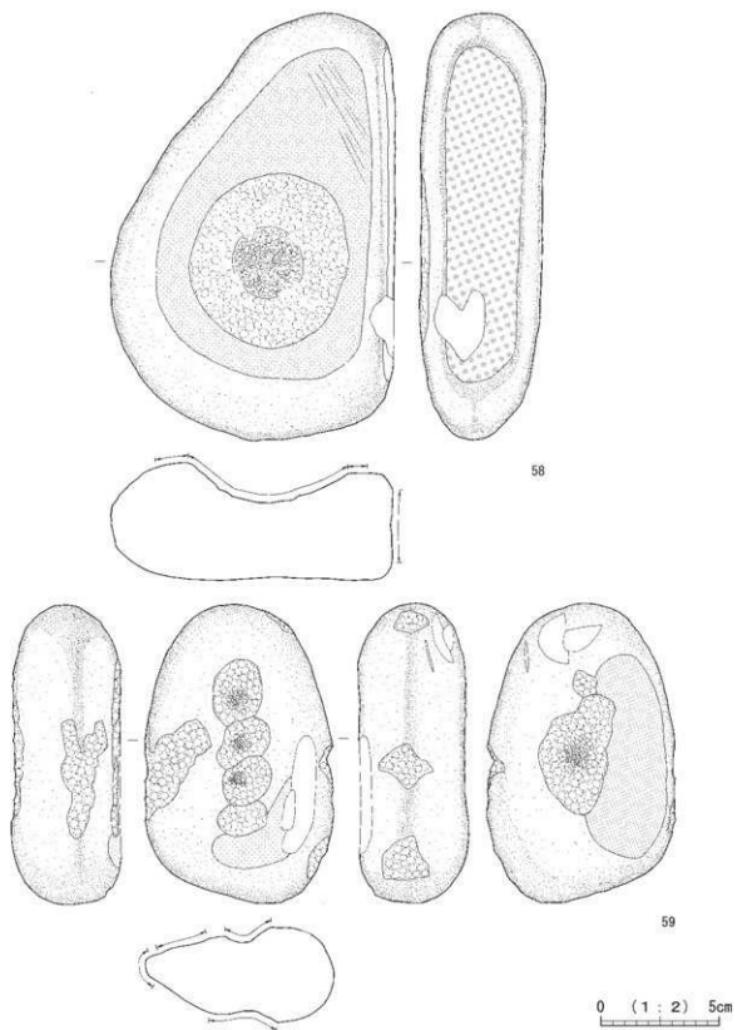
国版 番号	登録番号	出土場所	層位	地区	種 別	器 形	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石 材	備 考	写真 回数
56	Kc-026	SII-6	地土	3A	磨石器	削+凹	V.A	13.8×12.6×3.5	536.71	燧灰岩	丸形品、円錐、磨二面(平+凹)、凹一面(単)深さ(浅)	94



0 (1 : 2) 5cm

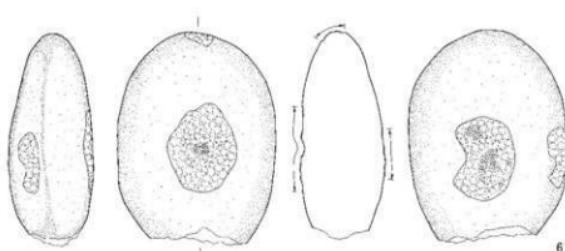
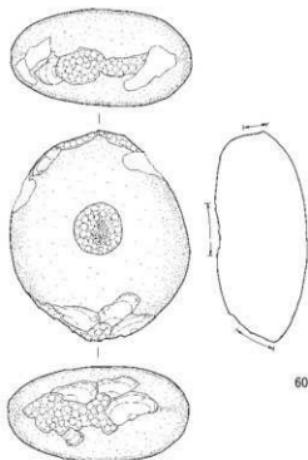
第287図 その他の弥生時代出土遺物23

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地 区	材 質	器 種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重 量 g	石 材	備 考	写真 番號
57	Ke-001	SM44	埋土	3人	磨石器	磨+凹	VII	22.3×16.4×4.3	2556.88	石英安山岩 一面(手)	充形品、横円錐、凹二面(手・單)深さ(浅)、磨	36



第288図 その他の弥生時代出土遺物24

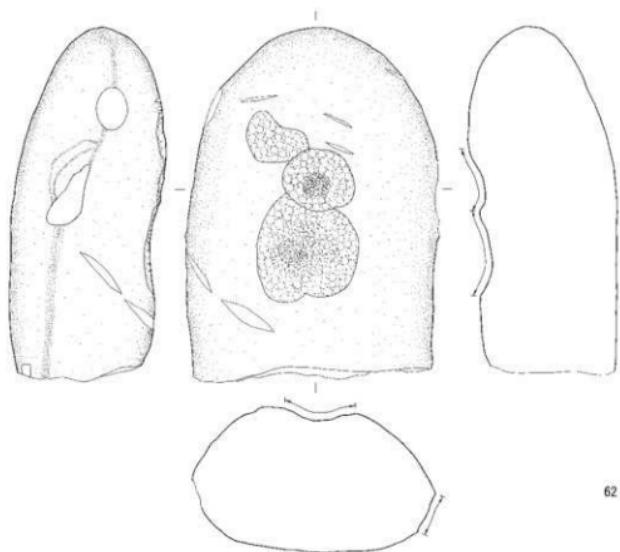
回数 番号	登録番号	出土地點	層位	地区	種別	基種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石目	備考	行番 順位
58	Kc-025	SI46	埋土	3A	縛石器	縛+四	VB	17.6 × 11.9 × 5.0	906.92	縛灰岩 (鉄)	丸形品、横凹縛、縛二面(平)、凹一面(单)深合 (鉄)	96
59	Kc-036	—	—	2B	縛石器	縛+四	VB	11.4 × 7.9 × 4.6	391.31	縛灰岩	丸形品、横凹縛、縛一面(平)、凹二面(縛+单) (鉄)、縛(矢4箇所)程度(鐵)	96



0 (1 : 2) 5cm

第289図 その他の弥生時代出土遺物25

登録番号	出土地点	層位	地区	修 署	器 形	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石 材	備 考	写真 番号
60	Kc-035	—	—	2B	磨石器	凹+竪	8.6×7.4×3.9	309.30	石英安山岩 (凸)程度(深)	火打品、凹面、凹一面(竪+凹)深さ(深)、竪(先2面) (凸)程度(深)	36
61	Kc-012	S6	埋土	2B	磨石器	凹+竪	8.9×6.6×3.5	298.36	石英安山岩 (先)盛所+側1箇所)程度(深)	火打品、横円窓、凹二面(凹+凹)深さ(浅)、竪 (先)盛所+側1箇所)程度(深)	36

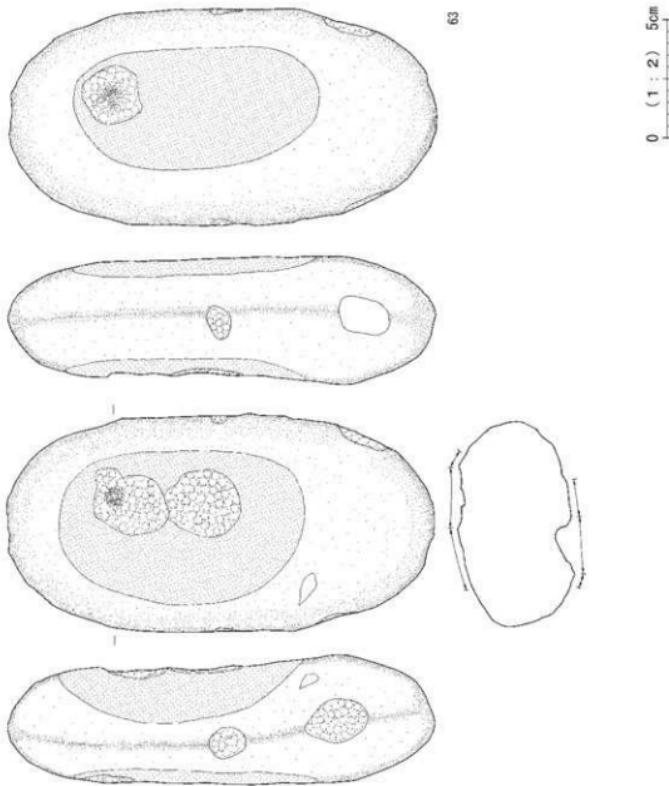


62

0 (1 : 2) 5cm

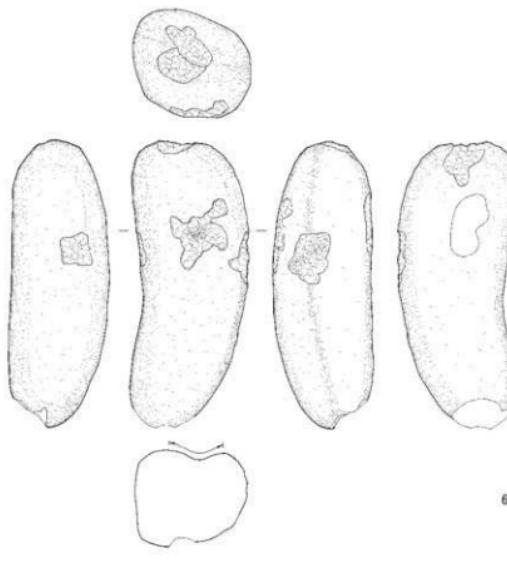
第290図 その他の弥生時代出土遺物26

出 版 年 号	登 録 番 号	出 土 地 点	層 位	地 区	種 別	器 種	分 類	長 さ × 幅 さ (cm)	重 量(g)	石 材	備 考	写 真 版
62	Kc-022	SD9	埋土	3A	稚石器	四+面	VI B	14.4 × 10.6 × 6.1	933.77	鹿灰岩 (鷹羽石) 程度(個)	欠損品 枚田繩、四一面(側)深さ(深)、縫(側) 96	96



第291図 その他の弥生時代出土遺物27

出典 番号	登録番号	出土地	層位	施	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
63	Kc-029	SD4	埋土	3A	磨石器	磨+研	VI B	18.0 × 9.1 × 5.2	746.58	凝灰岩	定期品。横円錐、頂二面(凸)、底二面(凹+单) 底さ(深)、底(側+面所)程度(深)	96

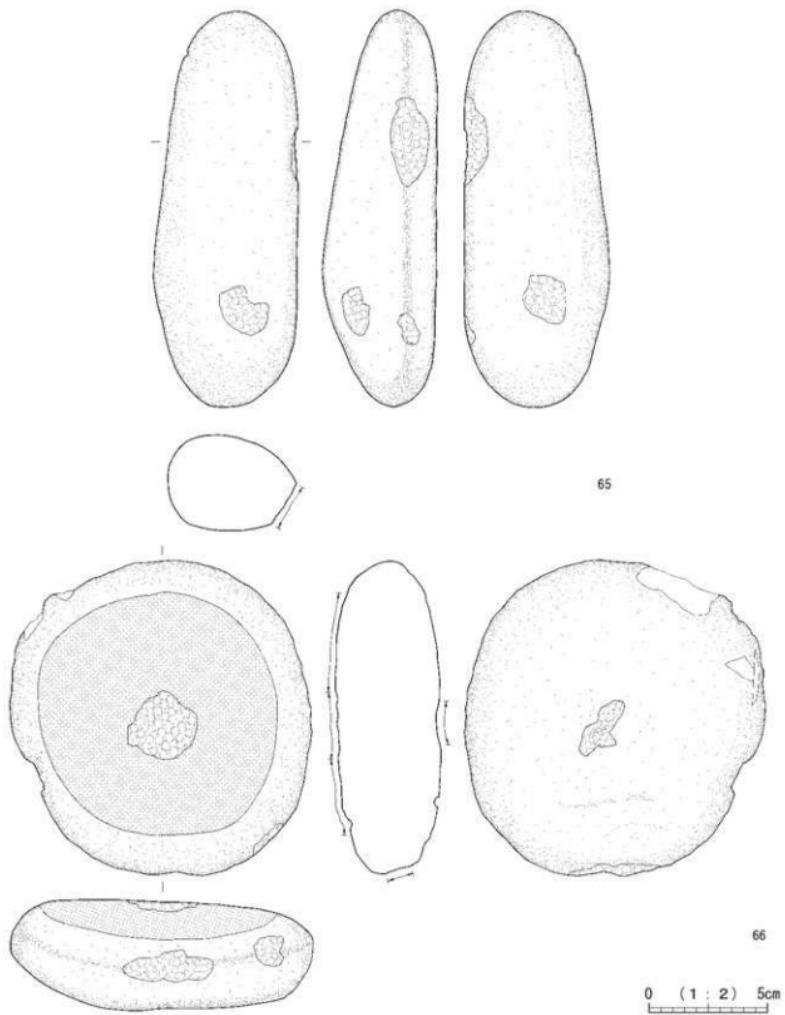


64

0 (1 : 2) 5cm

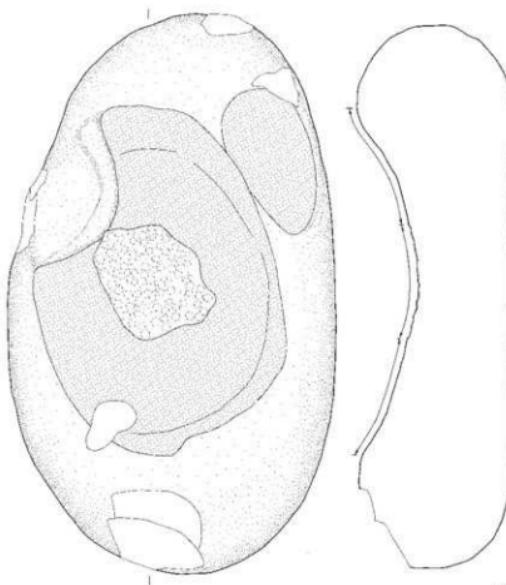
第292図 その他の弥生時代出土遺物28

国版 番号	登録番号	出土場所	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石材	備考	写真 回数
64	Ke-016	SD0	地土	3A	石器	四+端	貝C	12.1×4.8×4.2	224.94	凝灰岩	完形品、棒状錐、圓一曲(頭)深さ(頭)、底(先) 頭(先)+側2箇(左)程度(頭)	96



第293図 その他の弥生時代出土遺物29

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量g	石材	備考	写真 出典
65	Kc-030	SD5	灰土	3A	砾石器	四+晶	VIC	16.7×6.1×4.7	601.46	石英安山岩	丸形品、棒状縫、凹二面(单+单)深さ(浅)、端 (側2面)程度(深)	66
66	Kc-018	SD3	7層	3A	砾石器	質+四+晶	VIA	13.3×12.7×4.4	592.41	霞灰岩	丸形品、円錐、磨一面(凸)、凹二面(单+单)深 さ(浅)、端(先2面)程度(深)	66

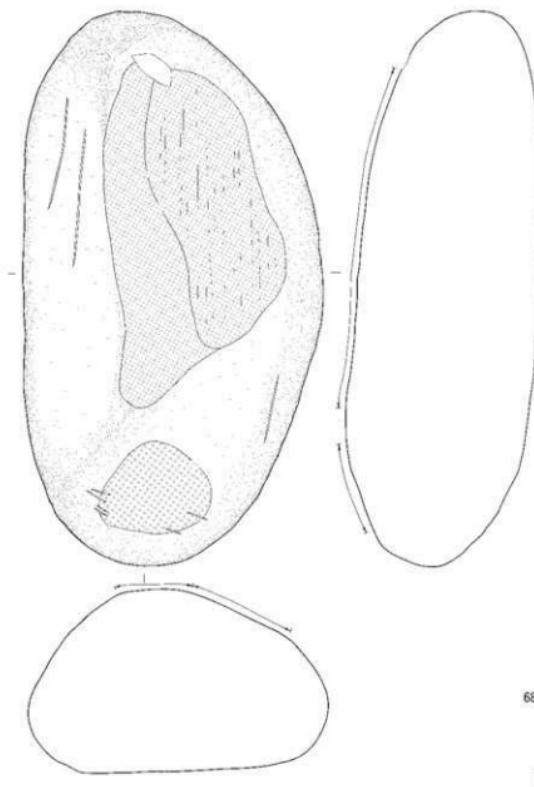


67

0 (1 : 2) 5cm

第294図 その他の弥生時代出土遺物30

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	基種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量g	石種	備考	写真 番号
67	Kc-027	S149	2層	3A	輝石器	石頭	—	23.6 × 13.8 × 6.5	1643.06	輝灰岩	完形品、角円錐、周縁あり、磨二面(平・凹)、凹曲(单)底さ(浅)	96

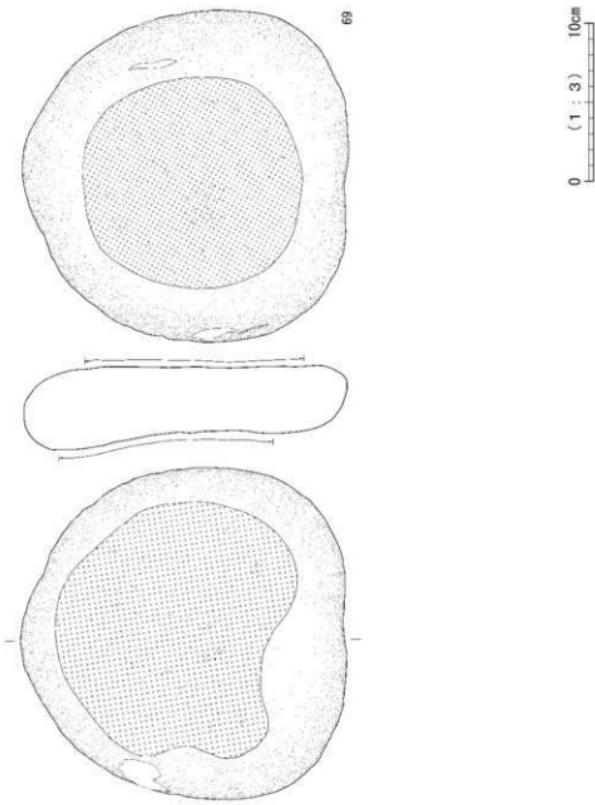


68

0 (1 : 2) 5cm

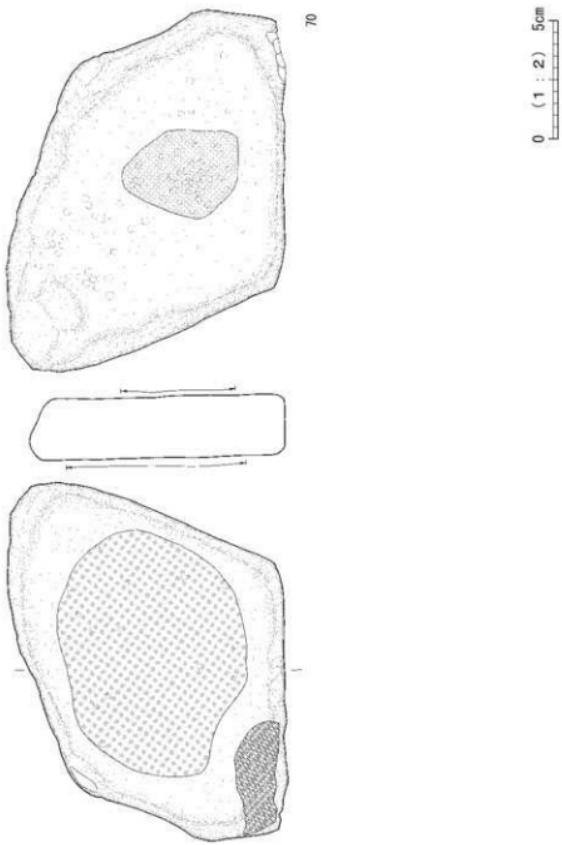
第295図 その他の弥生時代出土遺物3)

形態 番号	登錄番号	出土地點	層位	施区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石材	備考	写真 回数
68	Kc-007	SII	床面	2B	砾石器	台石	—	23.3×12.6×7.9	1846.84	麻灰岩	丸形品、横円錐、底二面(△)	96



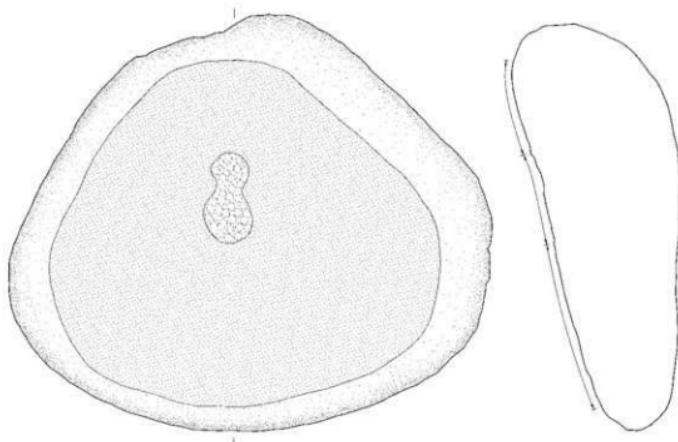
第296図 その他の弥生時代出土遺物32

国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 特	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 番號
69	Kc-008	S14	床面	2B	磨石器	台石	—	15.4×21.0×5.2	3609.18	石英安山岩	完形品。円錐、削二面(平・凹)	97



第297図 その他の弥生時代出土遺物33

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石材	備考	写真 番號
70	Kc-015	SD26	耕土	3A	磨石器	台石	—	11.6×13.3×2.6	781.05	石英安山岩	空形品、側面縁、撫二面(平)	97



71

0 (1 : 2) 5cm

第298図 その他の弥生時代出土遺物34

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 番号
71	Ke-028	飯牛方底湖	3		磨石器	台石	—	17.5 × 30.2 × 7.0	1778.96	麻灰石	完形品、椎円錐、第1面(平)、第2面(平)深さ (高)	97

### (3) 接合資料

#### 個体別資料2

石核1点と剥片2点が接合した(第299～300図)。1・2は、3の同一打面から剥ぎ取ったものである。石材は凝灰質頁岩である。

#### 個体別資料4

剥片2点が接合した(第301図)。Ka-117・130は、折面で接合したものである。石材の質が悪く腹面は摂理面である。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料5

剥片2点が接合した(第301図)。4は、5より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料6

石核1点と剥片6点の計7点が接合した(第302図)。石材は流紋岩である。確認される打面及び剥離は以下の順序で行われている。

【打面1】 打面はb面(自然面)、作業面はa面で、剥片1～3を剥離している。

6は剥片2である。

【打面2】 90°の打面転移が行われる。打面はa面(自然面)、作業面はc面で、剥片4～10を剥離している。

7は剥片6、8は剥片10である。

【打面3】 90°の打面転移が行われる。打面はc面(剥離面)、作業面はa面で、剥片11～14を剥離している。

9は剥片12、10は剥片14である。

【打面4】 90°の打面転移が行われる。打面はd面(剥離面)、作業面はc面で、剥片15・16を剥離している。

11は剥片16である。12は残核である。

#### 個体別資料7

剥片2点が接合した(第305図)。13は、14より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料8

剥片2点が接合した(第306図)。15は、16より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料10

石核1点と剥片1点が接合した(第307図)。17は、18より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料12

微細剥離のある剥片3点と剥片3点の計6点が接合した(第308図)。剥離は剥片1～6の順序で行われている。22は二次加工のある剥片Ⅲ類である。20は微細剥離のある剥片Ⅰで23は微細剥離のある剥片Ⅱ類である。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料14

剥片3点が接合した(第310図)。剥離は剥片1～3の順序で行われている。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料17

微細剥離のある剥片1点と剥片1点が接合した(第310図)。Ka-119・118は、折面で接合したものである。Ka-118は、微細剥離のある剥片Ⅰ類である。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料19

微細剥離のある剥片1点と剥片1点が接合した(第311図)。28が剥ぎ取られた後、90°の打面転移が行われ、29が剥ぎ取られている。29は微細剥離のある剥片Ⅰ類である。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料20

微細剥離のある剥片 2 点が接合した(第311図)。Ka-099・151は、折面で接合したものである。Ka-099は、微細剥離のある剥片 I 類、Ka-151は微細剥離のある剥片 II 類である。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料21

二次加工のある剥片 1 点と微細剥離のある剥片 1 点が接合した(第311図)。30は、31より先に剥ぎ取ったものである。31は二次加工のある剥片 II 類、30は微細剥離のある剥片 I 類である。石材は珪質頁岩である。

#### 個体別資料22

剥片 2 点が接合した(第312図)。Ka-101・103は、折面で接合したものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料23

二次加工のある剥片 1 点と剥片 1 点が接合した(第312図)。32は、33より先に剥ぎ取ったものである。33は二次加工のある剥片 III 類である。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料24

剥片 2 点が接合した(第313図)。34は、35より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料25

剥片 2 点が接合した(第313図)。36は、37より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料26

剥片 2 点が接合した(第314図)。38は、39より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料27

石核 1 点と剥片 1 点が接合した(第315図)。40は、41の一端を剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料29

剥片 2 点が接合した(第316図)。42は、43より先に剥ぎ取ったものである。石材は凝灰質頁岩である。

#### 個体別資料31

剥片 2 点が接合した(第316図)。44は、45より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料33

剥片 2 点が接合した(第317図)。46は、47より先に剥ぎ取ったものである。石材は凝灰質頁岩である。

#### 個体別資料34

二次加工のある剥片 2 点が接合した(第318図)。48は、49より先に剥ぎ取ったものである。48は二次加工のある剥片 II 類、49は二次加工のある剥片 III 類である。石材は珪質頁岩である。

#### 個体別資料35

剥片 2 点が接合した(第318図)。Ka-115・127は、折面で接合したものである。石材は凝灰質頁岩である。

#### 個体別資料36

剥片 2 点が接合した(第319図)。Ka-074・121は、折面で接合したものである。石材は流紋岩である。

#### 個体別資料38

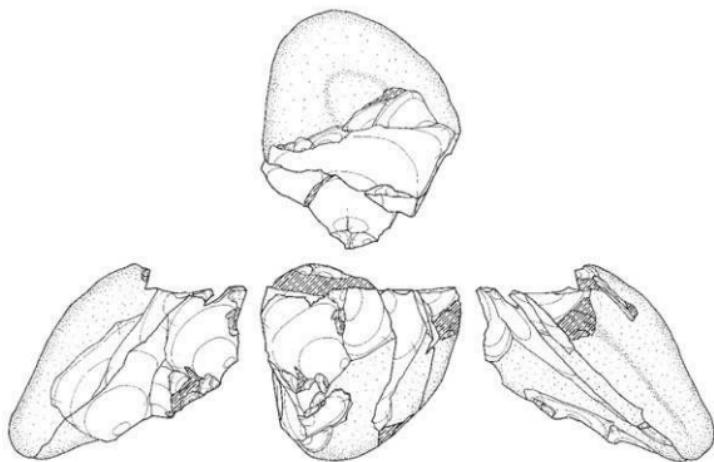
剥片 2 点が接合した(第319図)。Ka-106・141は、折面で接合したものである。石材は凝灰質頁岩である。

#### 個体別資料39

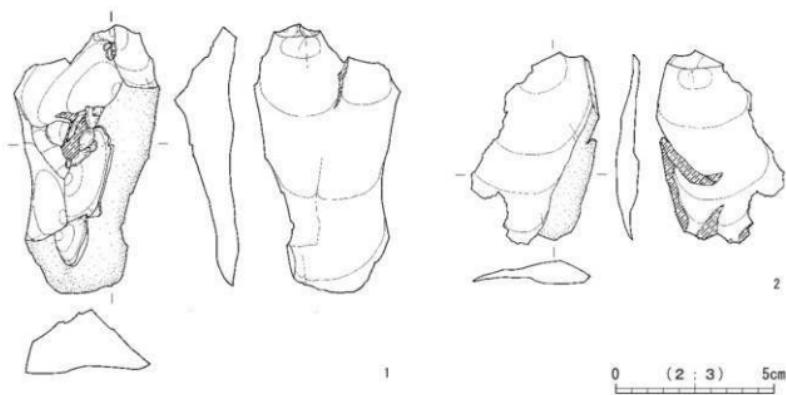
剥片 3 点が接合した(第319図)。Ka-128・137は、折面で接合したものである。1は、Ka-109より先に剥ぎ取ったものである。石材は凝灰質頁岩である。

#### 個体別資料40

微細剥離のある剥片 1 点と剥片 1 点が接合した(第320図)。50は、51より先に剥ぎ取ったものである。51は微細剥離のある剥片 II 類である。石材は流紋岩である。



個体別資料2

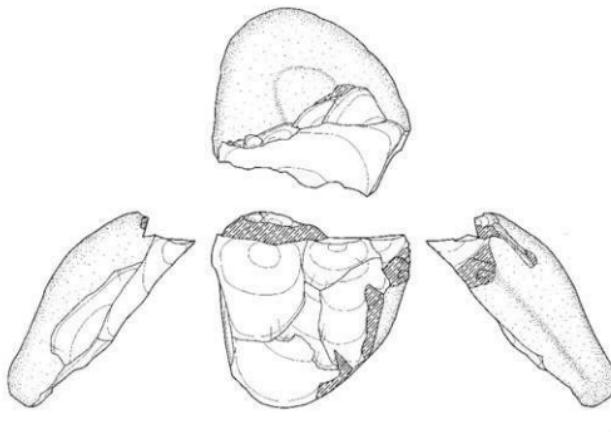


第299図 接合資料(1)

回数	登録番号	出土地点	層位	地区	種類	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Ka-047	—	Ba層	2B	打擊石器	調片	—	8.3×4.5×2.1	32.25	鹿灰質貝岩	個体別資料2.切子刃面、剥離角142°、自然面あり
2	Ka-048	—	Ba層	2B	打擊石器	調片	—	5.9×2.7×0.7	11.32	鹿灰質貝岩	個体別資料2.平照打面、剥離角145°、自然面あり

個体別資料 調片剥離工程表

個体別資料 登録NO.	打面	作業面	調片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	剥離角	打京の 有無	自然面 の有無	備考	
2	打面転移なし			1 2 3	Ka-047 Ka-048 Ka-046	8.3 5.9 6.2	4.5 3.7 6.2	2.1 0.7 2.5	142° 145° —	○ ○ ×	○ ○ ○	残核

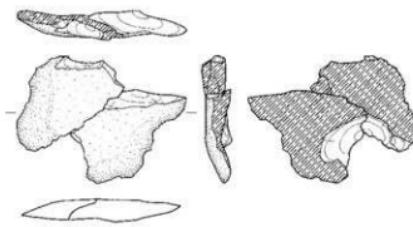


3

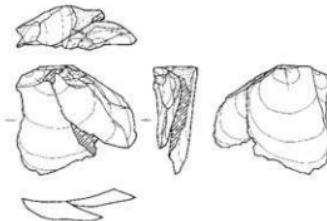
0 (2 : 3) 5cm

第300図 接合資料(2)

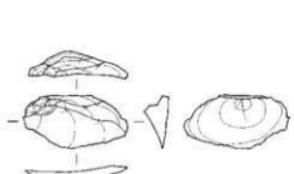
国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	基 構	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 有	備 考	写真 国版
3	Ka096	—	左 x層	2B	打削石器	石核	I	6.2×6.2×2.5	130.80	離灰質白岩	複合資料2. 種表材、打削物様あり、自然面あり	81



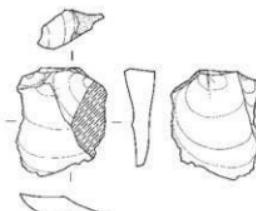
個体別資料4



個体別資料5



4



5

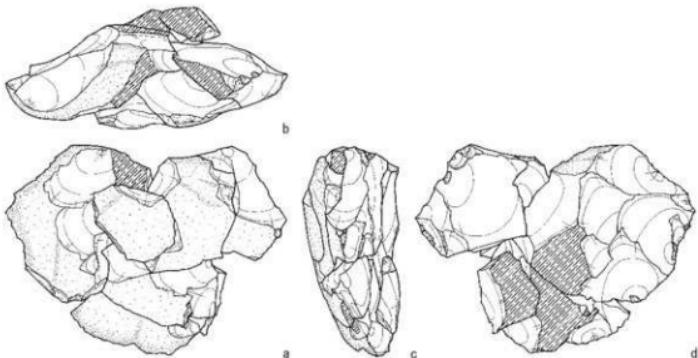
0 (2 : 3) 5cm

第301図 接合資料(3)

回数	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 様	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石 材	備 考	写真 回数
4	Ka-129	—	遺構検出面	2B	打削石器	調片	—	1.7×3.2×0.8	2.60	流紋岩	個体別資料5.標打面,調離角10°,自然面あり	85
5	Ka-083	SB9	擦り方	2B	打削石器	調片	—	3.4×2.8×1.0	7.33	流紋岩	個体別資料5.平打面,調離角11°,自然面あり	85

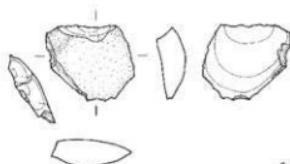
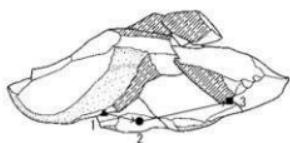
個体別資料 測定測量工程図

個体別資料 登録番号	打 面	作 業 面	調片番号と 調離の順番	石器No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	調離角	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
4			1 2	Ka-117 Ka-130	0.60 0.80	0.91 0.51	0.6 0.6	108° —	○ —	○ ○	斜面接合
5	打面左右に移動		1 2	Ka-129 Ka-083	1.7 3.4	3.2 2.8	0.8 1.0	98° 114°	○ ○	○ ○	



個体別資料6

打面①



6

- 割片は検出されているものの、長さと幅がわからるもの
- △ 割片は検出されていないが、その長さがわかるもの
- ▲ 割片は検出されていないが、その幅がわかるもの
- 割片は検出しておらず、長さと幅がわからないもの

※各割片の番号は、それぞれの割片剥離工程表の割片番号を示す

※打点のないものについては推定であり、打点の有無は剥片剥離工程表に示している

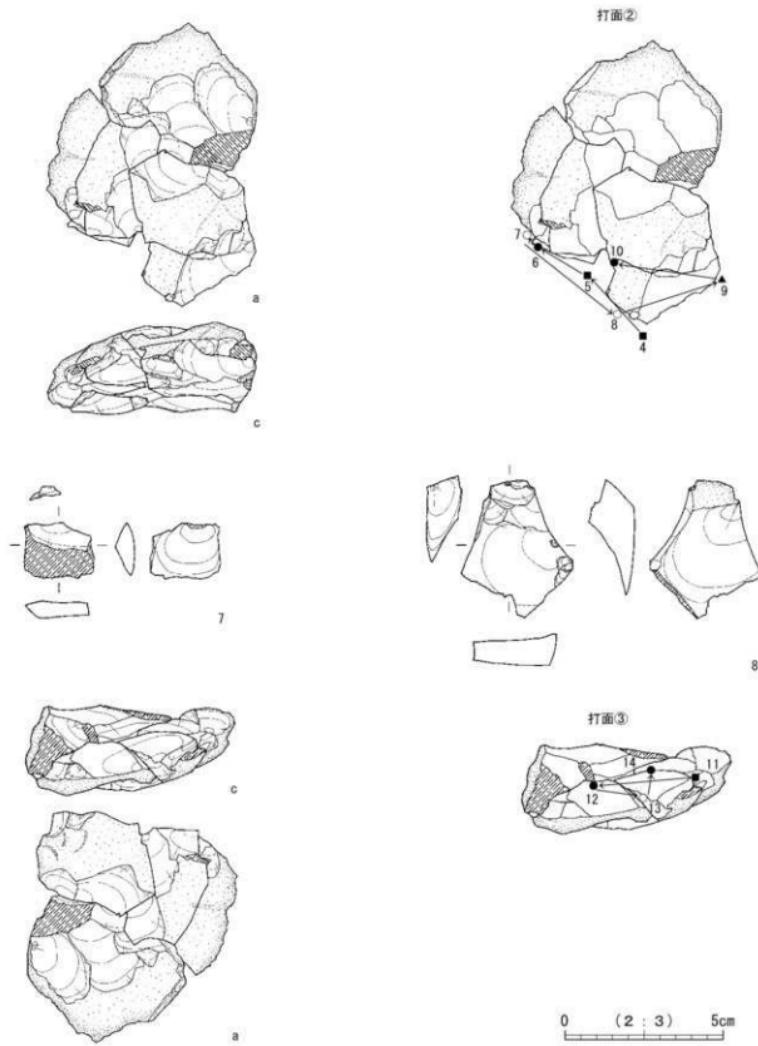
0 (2 : 3) 5cm

第302図 接合資料(4)

国際登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 料	備 考	写真 番号
6 Ka085	SII	2層	2B	打削石器	剥片	—	2.4×2.3×0.9	5.34	流紋岩	個体別資料6.打削面剖析.自然面あり	85

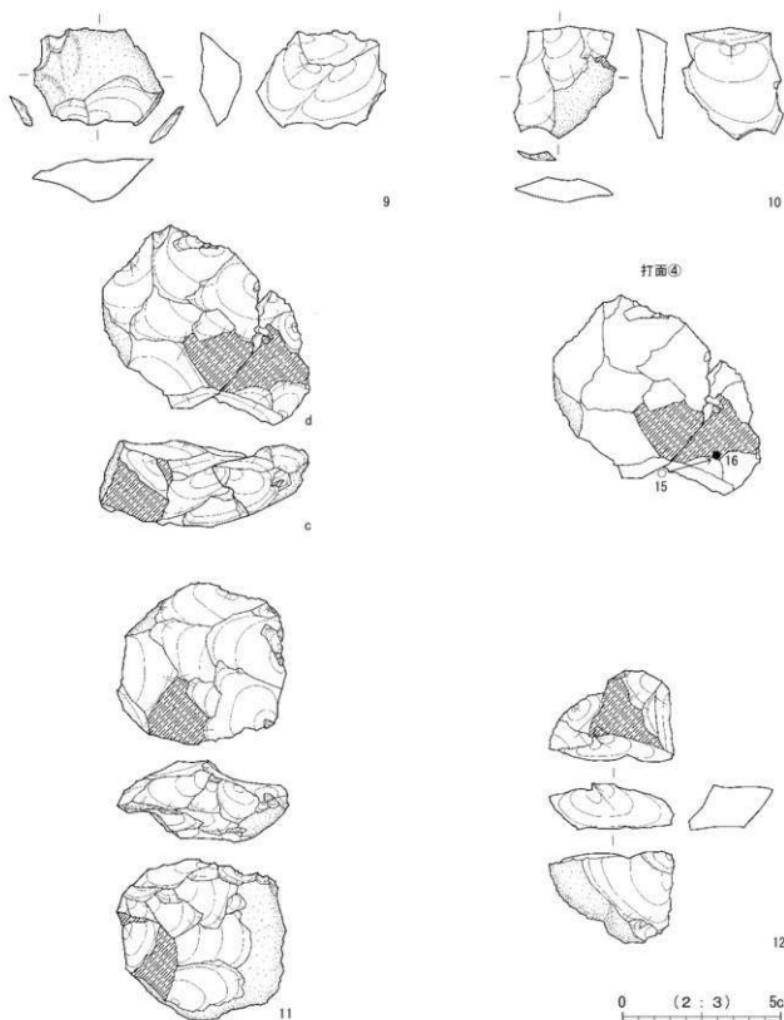
個体別資料 剥片剥離工程表

個体別資料 登録番号	打 面		作業面	剥片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	剥離角	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
	打面	裏面										
6	①	b面:自然面	a面:自然面 高さ6.2 幅6.7	1	—	2.0	(2.0)	—	—	○	○	
				2	Ka-085	(2.4)	(2.5)	0.9	—	×	○	
	99	a面	c面:自然面+剥離面 高さ2.7 幅6.6	3	—	(2.9)	(1.9)	—	—	×	○	
				4	—	(1.1)	(1.5)	—	—	×	×	
	②	a面:自然面	c面:自然面+剥離面 高さ2.7 幅6.6	5	—	(1.0)	(0.4)	—	—	×	×	
				6	Ka-124	(0.7)	2.2	0.6	—	×	×	
	③	c面:剥離面	a面:自然面 高さ2.2 幅6.3	7	—	1.4	1.2	—	—	×	○	
				8	—	0.9	1.5	—	—	○	×	
	99	a面:剥離面	c面:自然面+剥離面 高さ2.5 幅4.9	9	—	4.5	(0.3)	—	—	○	○	
				10	Ka-134	4.3	3.4	1.5	131°	○	○	
	④	a面:剥離面	c面:自然面+剥離面 高さ2.5 幅4.9	11	—	(1.0)	(2.4)	—	—	×	○	
				12	Ka-147	3.1	4.0	1.3	132°	○	○	
	99	c面:自然面+剥離面 高さ2.5 幅4.9	a面:自然面 高さ2.5 幅4.9	13	—	2.0	1.2	0.4	—	○	○	
				14	Ka-112	3.5	3.0	1.1	134°	○	○	
	99	a面:剥離面	c面:自然面+剥離面 高さ2.5 幅4.9	15	Ka-126	1.4	3.5	2.9	122°	○	○	
				16	—	(2.2)	(2.3)	—	—	○	×	
				17	Ka-033	2.6	5.3	3.1	—	×	○	残核



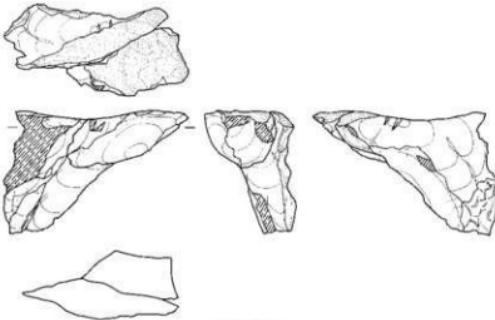
第303図 接合資料(5)

圖版 番号	登錄番号	出土地點	層位	地区	種 别	器 様	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 番号
7	Ka-124	—	遺跡換田面	2B	打製石器	刮片	—	1.7×2.2×0.6	2.44	流紋岩	側面剥離片6.打面部折れ	85
8	Ka-134	—	遺跡換田面	2B	打製石器	刮片	—	4.3×3.4×1.5	14.30	流紋岩	側面剥離片6.禮打面.剥離角131°.自然面あり	86

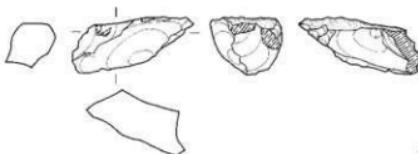


第304図 接合資料(6)

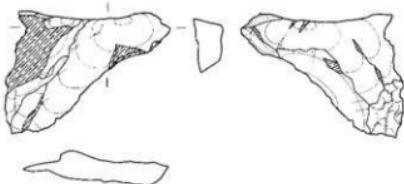
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 特	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 番号
9	Ka-147	—	遺構検出面	2B	打削石器	薄片	—	3.3×4.0×1.3	13.88	流紋岩	側面資料6.平面打削.適應角132°.自然面あり	85
10	Ka-112	—	Ⅲ' 6層	2B	打削石器	薄片	—	3.5×3.0×1.3	8.46	流紋岩	側面資料6.平面打削.適應角134°.自然面あり	85
11	Ka-033	SII9	埋土	2B	打削石器	石核	I	2.6×5.3×5.1	59.01	因縫岩	因縫岩資料6.禮文村.打削石核あり.自然面あり	85
12	Ka-126	—	遺構検出面	2B	打削石器	薄片	—	1.4×3.5×2.9	13.79	流紋岩	側面資料6.切子打削.適應角122°.自然面あり	85



個体別資料7



13



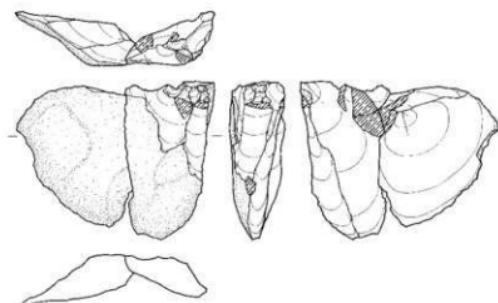
0 (2 : 3) 5cm

第305図 接合資料(7)

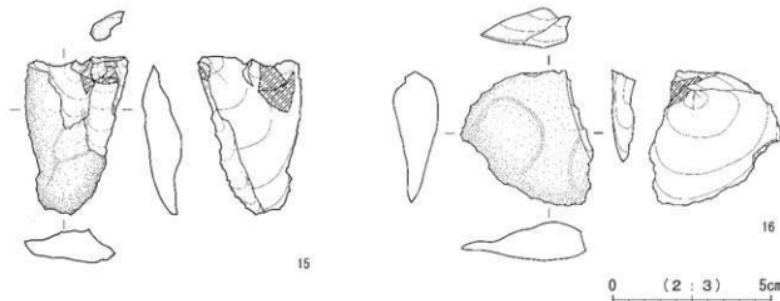
国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 国版
13	Ka-120	—	遺物検出面	2B	打製石器	調片	—	1.4×3.1×1.8	9.80	流紋岩	個体別資料7, 鐘打面, 調整角138°, 自然面あり	85
14	Ka-105	—	方a層	2B	打製石器	調片	—	3.8×4.4×1.2	15.19	流紋岩	個体別資料7, 鐘打面, 調整角126°, 自然面あり	85

個体別資料 調片削面工程表

個体別資料 登録番号	打面	作業面	調片番号と 調整の順番	石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	調整角	打点の 有無	自然面 の有無	備考
7	打面払修なし			1 2	Ka-120 Ka-105	1.4 3.8	3.1 4.4	1.8 1.2	138° 126°	○ ○	○ ○



個体別資料8



16

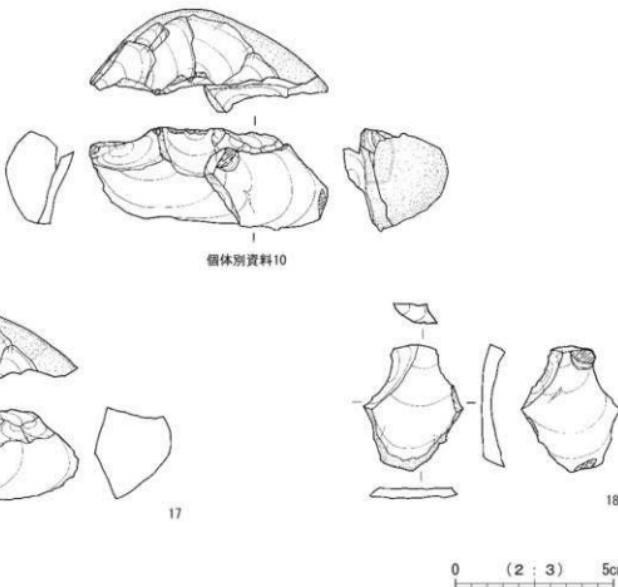
0 (2 : 3) 5cm

第306図 接合資料(8)

図版 番号	登録番号	出土地点	部位	地区	種	性	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石	備考	写真 枚数
15	Ka130	—	遺構検出面	2B	打削石器	調片	—	4.8×3.2×1.1	15.69	流紋岩	個体別資料8. 手打ち面. 調節角127°. 自然面あり	85
16	Ka079	S1B	3層	2B	打削石器	調片	—	4.3×3.9×1.4	18.01	流紋岩	個体別資料8. 切子打削. 調節角125°. 自然面あり	85

個体別資料 調片剥離工程表

個体別資料 番号(No.)	打面		作業面		剥離番号と 剥離の順番		石器No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	調節角	打点の 有無	自然面 の有無	備考
	打面	作業面	剥離番号	剥離の順番										
8	打面左右に移動		1	Ka130	4.8	3.2	1.1	127°	○	○				
			2	Ka079	4.3	3.9	1.4	125°	○	○				

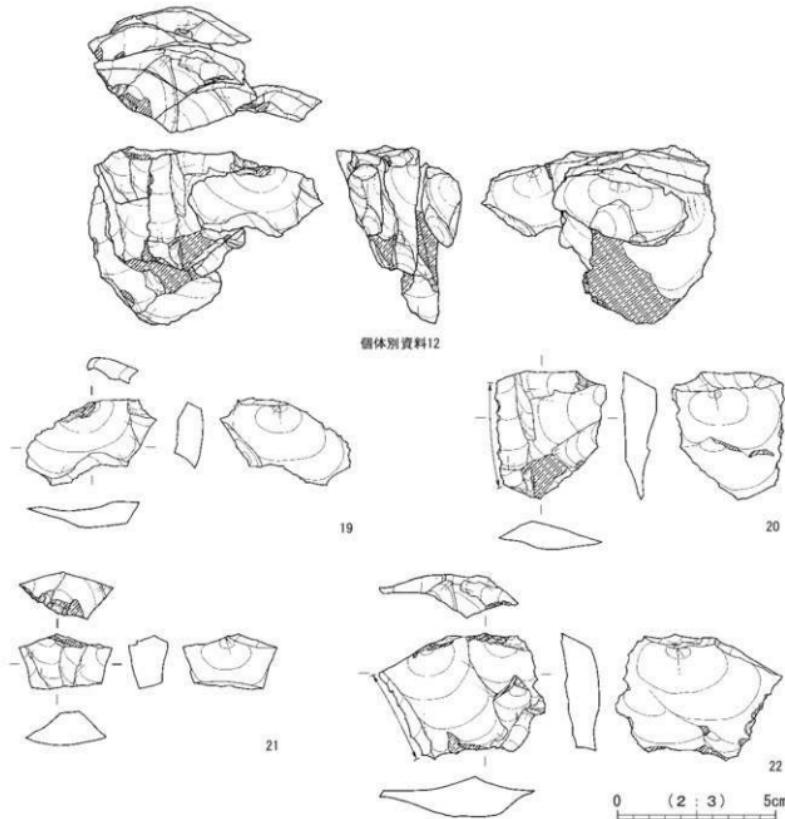


第307図 接合資料(9)

個体別 資料 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種	形	基 核	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石 材	備 考	写真 復元
17	Ka116	—	8a層	2B	打製石器	石核	II	3.1×6.8×2.4	47.37	流紋岩	個体別資料10. 洞片素面, 打面軋様あり, 自然面 あり	35	
18	Ka145	—	造礁複合面	2B	打製石器	洞片	—	4.0×3.1×0.6	5.16	流紋岩	個体別資料10. 平坦打面, 断面角97°, 自然面あり	35	

個体別資料 洞片測量工程表

個体別資料 登録番号	打 面	作業面	洞片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	剥離内	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
10	90°	—	1 2	Ka116 Ka145	3.1 4.0	6.8 3.1	2.4 0.6	— 97°	* ○ ○	○ ○	石核

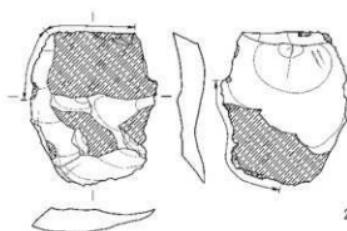


第308図 接合資料(10)

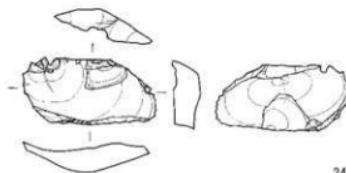
回版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種	性	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石	材	備考	写真 回版
19	Ka081	S9	床面	2B	打製石器	刮片	-	2.1×3.5×0.8	7.19	流紋岩	個別資料12、平用打削、剥離角118°	86	
20	Ka055	-	-	2	打製石器	微細剥離のある刮片	I	4.1×3.4×1.1	13.56	流紋岩	個別資料12、切子打削、剥離角138°、一側縁に 微細剥離あり	86	
21	Ka082	S9	地土	2B	打製石器	微細剥離のある刮片	I	1.6×2.9×1.4	5.70	流紋岩	個別資料12、切子打削、剥離角112°、一側縁に微 細剥離あり	86	
22	Ka066	-	-	2B	打製石器	二次加工のある刮片	III	3.2×5.1×1.4	20.19	流紋岩	個別資料12、切子打削、剥離角118°、背面+側 面加工+側縁縁に二次加工あり、他一側縁に微 細剥離あり	86	

個別資料 刮片剥離工程表

個別資料 登録NO.	打面		作業面	刮片番号と 剥離の順番		石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	剥離角	打点の有無	自然面 の有無	備考
	打面	面		1	2								
12	打面左右に移動			1 2 3 4 5 6	Ka081 Ka055 Ka082 Ka066 Ka072 Ka143	2.1 4.1 0.6 3.7 4.8 2.1	3.5 3.4 2.9 5.1 3.9 4.0	0.8 1.1 1.4 1.4 1.3 0.9	118° 138° 112° 118° 125° 137°	○ ○ ○ ○ ○ ○	× ○ × × ○ ×	微細剥離あり 二次加工あり 微細剥離あり	



23

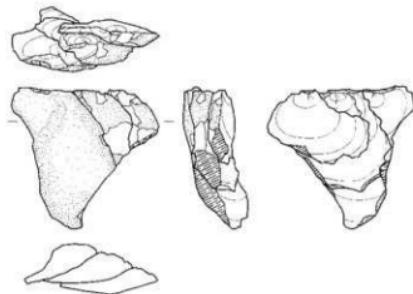


24

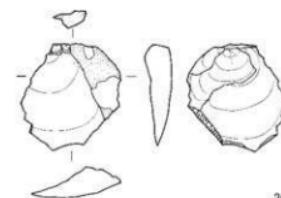
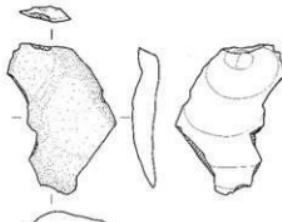
0 (2 : 3) 5cm

第309図 接合資料(1)

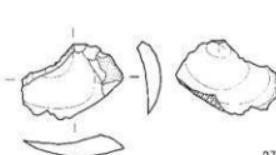
回復 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 物	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 No.
23	Ka-072	SD12	1層	2B	打製石器	微細剥離のある調片	II	4.8×3.9×1.1	19.58	流紋岩	側面資料12. 平坦打面. 剥離角125°. 周縁に微細剥離あり	86
24	Ka-140	—	遺構複合面	2B	打製石器	調片	—	2.1×4.0×0.9	7.81	流紋岩	側面資料12. 切子打面. 剥離角135°	86



個体別資料14



26



27



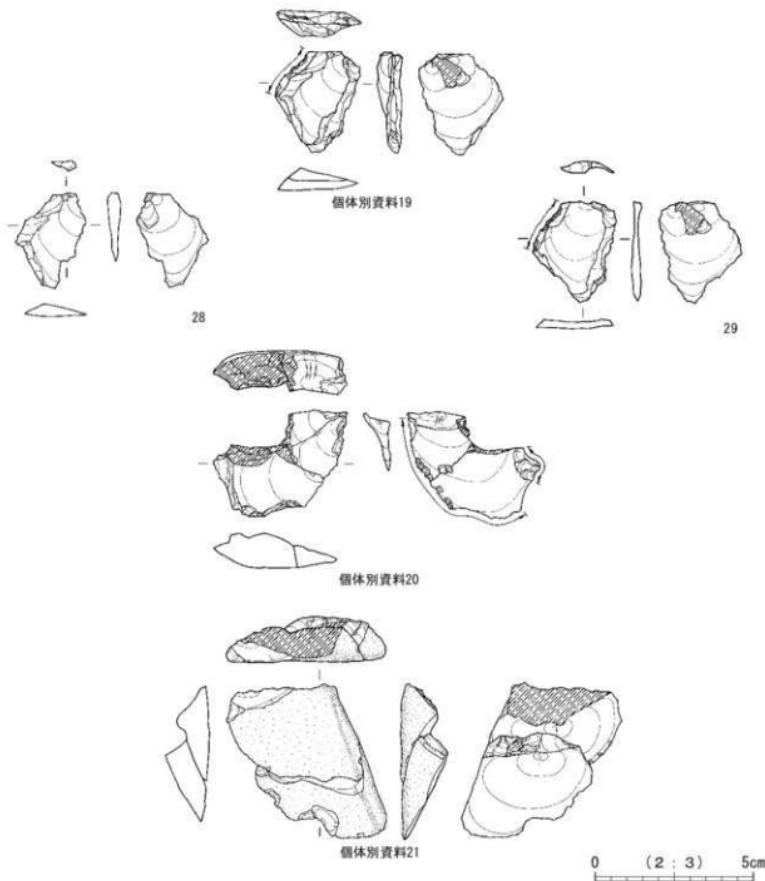
0 (2 : 3) 5cm

第310図 接合資料(12)

回収 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
25	Ka-123	—	遺構換出面	2B	打削石器	薄片	—	4.4×2.7×0.7	9.89	流紋岩	個体別資料14. 平坦打削、剥離角12°、自然面あり	86
26	Ka-131	—	遺構換出面	2B	打削石器	薄片	—	3.2×3.0×0.9	6.88	流紋岩	個体別資料14. 平坦打削、剥離角11°、自然面あり	86
27	Ka-113	—	5a層	2B	打削石器	薄片	—	2.2×3.1×0.7	3.34	流紋岩	個体別資料14. 点打削、剥離角13°、自然面あり	86

個体別資料 削片剥離工具表

個体別資料 登録NO.	打削面		作業面	剥片番号と 剥離の順番		石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	剥離角	柱立の 有無	自然面 の有無	備考
	打削移なし	打削移なし		1	2								
14				1 Ka-131	3.3	2.0	0.9	119°	○	○			
				3 Ka-113	2.2	3.1	0.7	132°	○	○			
17				1 Ka-119	2.01	2.63	1.0	112°	○	○	折面複合		
				2 Ka-118	2.81	2.9	1.0	-	*	○	微細剥離あり		

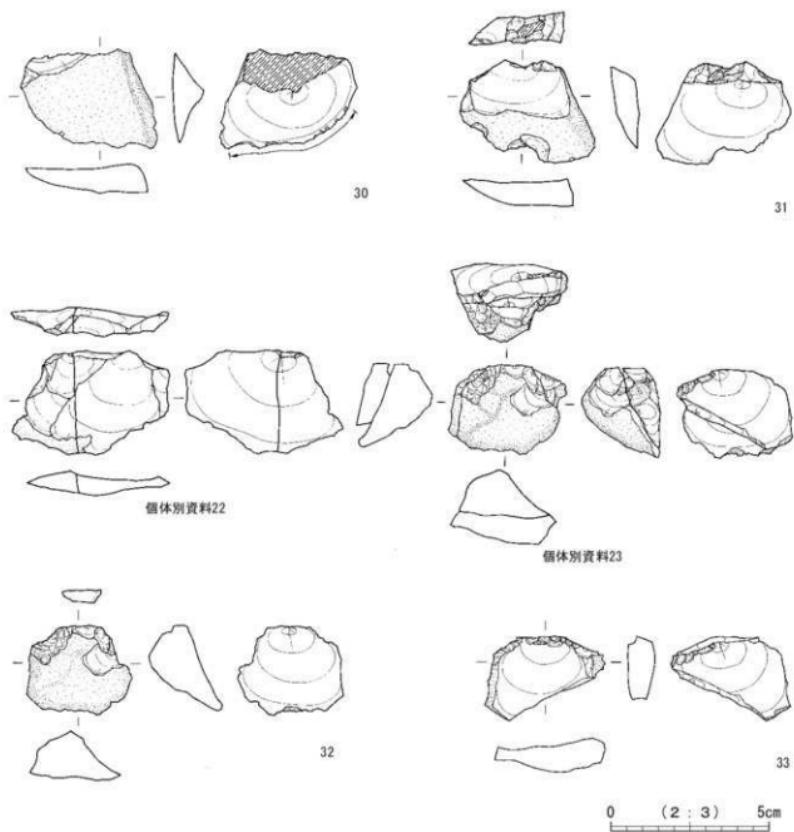


第311図 接合資料(13)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種類	断面	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 番号
28	Ka-087	SH12	1層	2B	打製石器	剥片	—	3.0×2.0×0.5	1.28	流紋岩	個体別資料19, 平坦打削, 断面角108°	86
29	Ka-138	—	遺構候出面	2B	打製石器	微細剥離のある剥片	I	3.2×2.5×0.3	2.34	流紋岩	個体別資料19, 切子打削, 断面角104°, 一側間に 微細剥離あり	86

個体別資料 剥片剥離工程面

個体別資料 登録番号	打削面	作業面	剥片番号と 剥離の相違	剥片番号と 剥離の相違				石器名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	断面角	打削の有無	自然面の有無	備考
				1	2	3	4								
19	打削拵なし			1	Ka-087	3.0	2.0	0.5	108°	○	×				
				2	Ka-138	3.2	2.5	0.5	104°	○	×	微細剥離あり			
20				1	Ka-099	2.2	2.0	1.1	-	×	×	研面接合, 微細剥離のあり			
				2	Ka-151	0.11	0.11	1.1	-	×	×	微細剥離あり			
21	打削拵なし			1	Ka-036	3.1	4.0	1.1	120°	○	○	微細剥離あり			
				2	Ka-152	3.2	3.8	1.1	122°	○	○	一次加工あり			

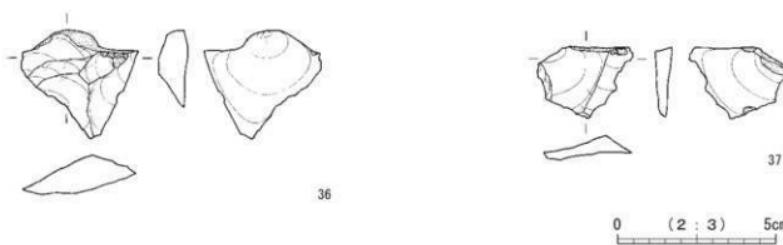
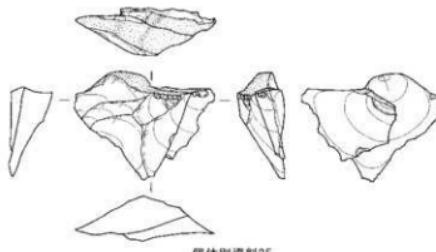
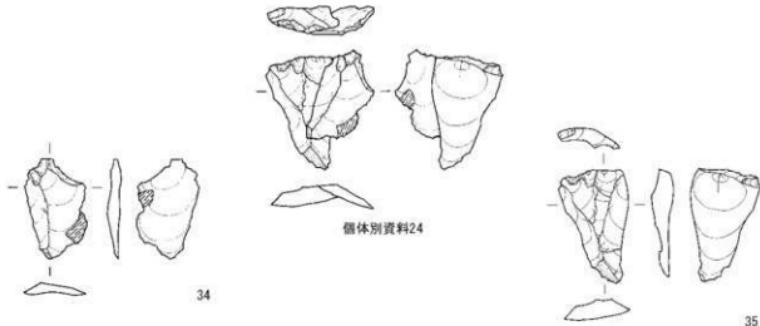


第312図 接合資料(14)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	基準	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石種	備考	写真 番号
30	Ka-036	S455	地土	3A	打製石器	面削剥離のある剥片	I	3.1×4.0×1.1	11.74	珪質頁岩	個体別資料21, 平坦打面, 清離角11°, 剥離に側面剥離あり, 自然面あり	86
31	Ka-152	—	遺構検査面	2B	打製石器	二次加工のある剥片	II	3.2×3.8×1.1	12.69	珪質頁岩	個体別資料22, 3D打面, 清離角12°, 俊面加工, 剥離に二次加工あり, 自然面あり	86
32	Ka-110	—	3a層	2B	打製石器	剥片	—	2.8×3.2×1.5	12.33	流紋岩	個体別資料23, 平坦打面, 清離角12°, 自然面あり	86
33	Ka-096	S412	—	2B	打製石器	二次加工のある剥片	III	2.4×3.6×0.9	7.69	流紋岩	個体別資料23, 平坦打面, 清離角13°, 俊面・俊面加工, 剥離に二次加工あり, 自然面あり	86

個体別資料 削片剥離工程表

個体別資料 登録NO.	打面		作業面	剥片番号と 剥離の順序	石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	清離角	打点の有無	自然面の有無	備考	
	打面	剥離											
22					1	Ka-101	3.2	2.0	0.8	11°	○	○	斜面合併
					2	Ka-103	3.3	3.1	0.9	11°	○	○	
					1	Ka-110	2.8	3.2	1.5	12°	○	○	
					2	Ka-096	2.4	3.6	0.9	13°	○	○	二次加工あり

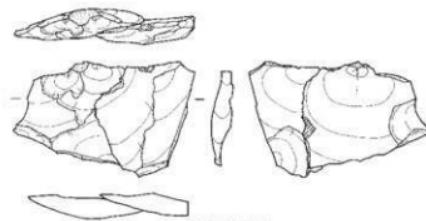


第313図 接合資料(15)

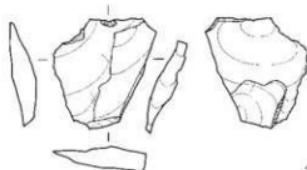
個体 番号	登録番号	出土地点	期位	地区	種 別	器 物	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 回数
34	Ka-148	—	遺構検出面	2B	打製石器	調片	—	3.2×1.9×0.4	1.75	流紋岩	個体別資料24. 打面削れ丸	87
35	Ka-084	S9	断り方	2B	打製石器	調片	—	3.5×2.1×0.7	3.91	流紋岩	個体別資料24. 平削り面、剥離角114°、自然面あり	87
36	Ka-125	—	遺構検出面	2B	打製石器	調片	—	3.3×3.6×1.1	8.09	流紋岩	個体別資料25. 壁打削、剥離角110°、自然面あり	87
37	Ka-140	—	遺構検出面	2B	打製石器	調片	—	2.3×2.7×0.6	2.85	流紋岩	個体別資料25. 打面削れ丸、自然面あり	87

個体別資料 採集測量工程表

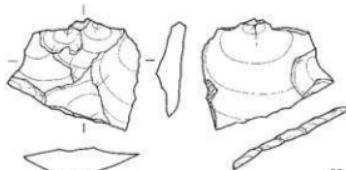
個体別資料 登録NO.	打 面	作 業 面	調片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	調査番 号	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
24	打面剥離なし		1 2	Ka-148 Ka-084	3.2 3.5	1.9 2.1	0.4 0.7	— 114°	×	○	
25	打面剥離なし		1 2	Ka-125 Ka-140	3.3 2.3	3.6 2.4	1.1 0.6	— 110°	○	○	



個体別資料26



38



39

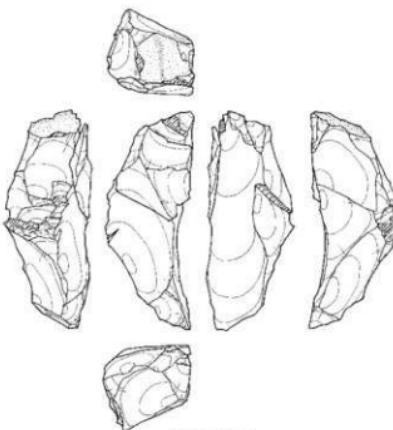
0 (2 : 3) 5cm

第314図 接合資料(16)

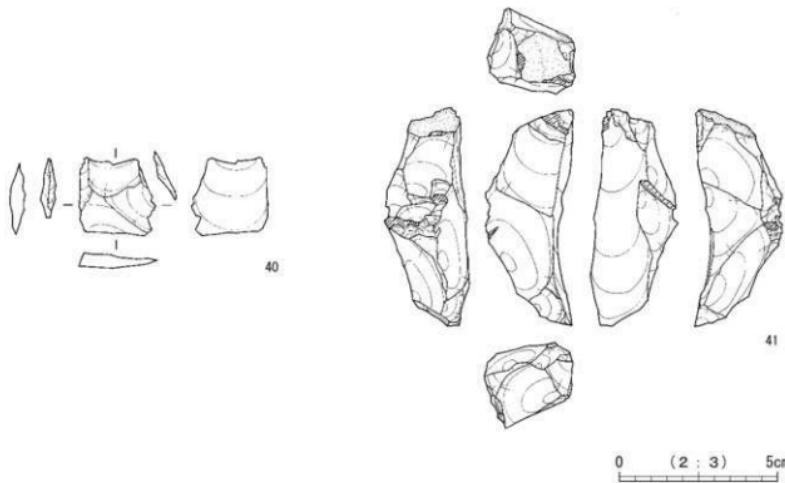
国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	芯 種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 番号
38	Ka-111	—	Ⅴa層	2B	打削石器	剥片	—	35×2.9×0.8	7.75	流紋岩	個体別資料26、打削部斜角	87
39	Ka-149	—	造形模出面	2B	打削石器	剥片	—	32×4.2×0.9	10.03	流紋岩	個体別資料26、標打削、剥離角117°、自然面あり	87

個体別資料 剥片剥離工程表

個体別資料 登録NO.	打 削	作 業	剥片番号と 剥離の順番	石器No.				打点の 有無	自然面 の有無	備 考
				1	2	3	4			
26	打削移なし			Ka-111	(2.5)	(2.9)	0.8	-	×	×
				Ka-149	32	4.2	0.9	117°	○	○



個体別資料27

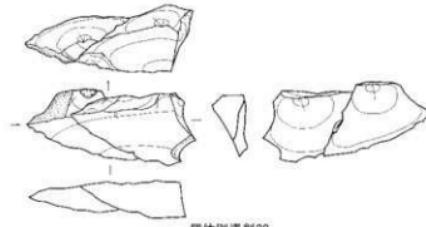


第315図 接合資料(17)

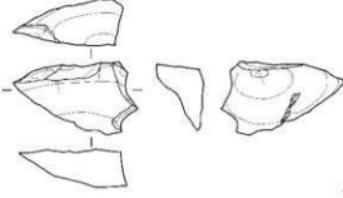
個体別資料 登録番号	出土地点	層位	地区	種別	基種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
40 Ka-133	—	遺構検出面	2B	打製石器	調片	—	2.3×2.4×0.5	2.66	流紋岩	個体別資料27、打面削跡有	35
41 Ka-136	—	遺構検出面	2B	打製石器	石核	II	6.8×2.3×2.0	37.40	流紋岩	個体別資料27、調片素材、打面軋移あり、自然面 あり	37

個体別資料 調片剥離工程表

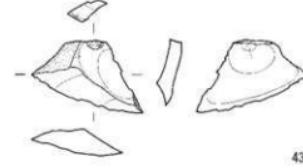
個体別資料 登録番号	打面	作業面	調片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	剥離面 有無	打点の 有無	自然面 の有無	備考
27	打面軋移なし		1 2	Ka-133 Ka-136	2.3 6.8	2.4 2.3	0.5 2.0	- -	* *○	* ○残核	



個体別資料29



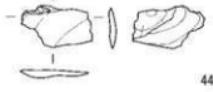
42



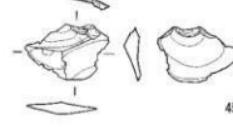
43



個体別資料31



44



45

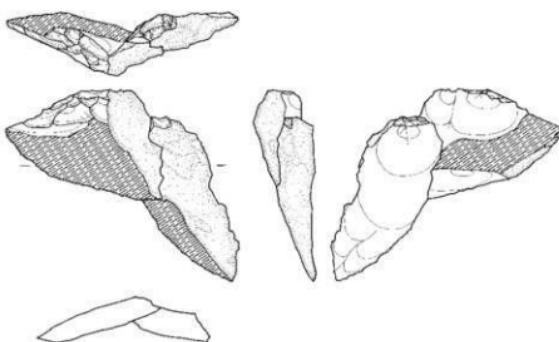
0 (2 : 3) 5cm

第316図 接合資料(38)

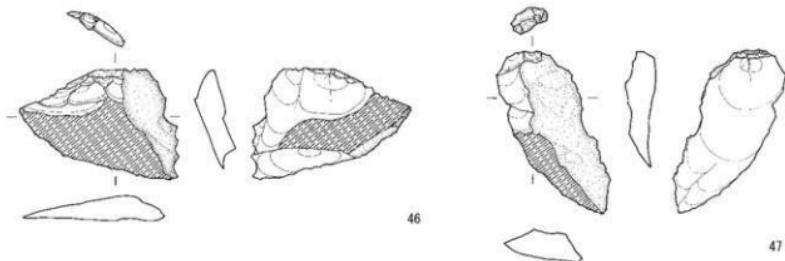
国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
42	Ka-146	—	遺構検出面	2B	打削石器	刮片	—	2.1×3.6×1.5	9.86	離灰質頁岩	個体別資料29, 平坦打削, 刮擦角138°	87
43	Ka-132	—	遺構検出面	2B	打削石器	刮片	—	2.1×2.3×0.8	3.97	泥灰岩	個体別資料29, 平坦打削, 刮擦角133°, 自然面あり	87
44	Ka-144	—	遺構検出面	2B	打削石器	刮片	—	1.3×2.1×0.3	0.67	泥灰岩	個体別資料29, 打削部折れ	87
45	Ka-104	—	至a層	2B	打削石器	刮片	—	1.8×2.4×0.4	1.14	泥灰岩	個体別資料29, 打削部折れ	87

個体別資料 刮片測量工程表

個体別資料 登録NO.	打面	作業面	刮片番号と 測量の順番	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	測量角	打点の 有無	自然面 の有無	備考	写真 回数
29	打面板厚なし		1 2 3 4	Ka-146 Ka-132 Ka-144 Ka-104	2.1 2.1 0.3 1.8	3.6 2.3 0.3 2.4	1.5 0.8 — 0.4	139° 137° — —	○ ○ × ×	○ ○ × ×		
31	打面板厚なし		1 2	Ka-144 Ka-104	0.3 1.8	2.3 2.4	0.3 0.4	— —	× ×	× ×		



個体別資料33



46

47

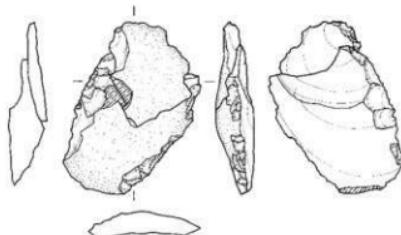
0 (2 : 3) 5cm

第317図 接合資料(19)

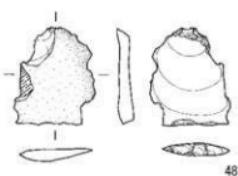
団版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	写真 番号
46	Ka.107	—	5a層	2B	打製石器	酒片	—	4.5×3.4×1.1	15.08	磨滅質質石	個体別資料33, 切子打面, 滅端角118°	87
47	Ka.089	SII2	地土	2B	打製石器	酒片	—	5.1×2.4×1.0	12.31	磨滅質質石	個体別資料33, 切子打面, 滅端角115°	87

個体別資料 製片側面工具表

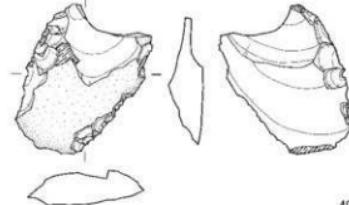
個体別資料 登録NO.	打面	作業面	調片番号と 調査の側面	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	滅端角	打痕の 有無	自然面 の有無	備考
33	打面無なし			1 2	Ka.107 Ka.089	4.5 5.1	3.4 2.4	1.1 1.0	118° 115°	○ ○	×



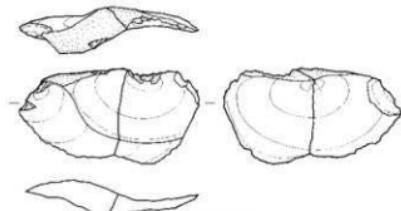
個体別資料34



48



49



個体別資料35

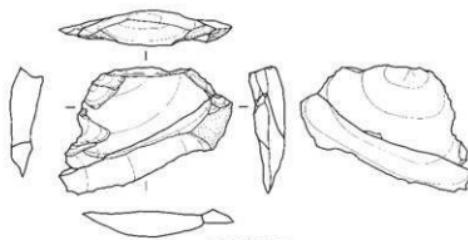
0 (2 : 3) 5cm

第318図 接合資料20

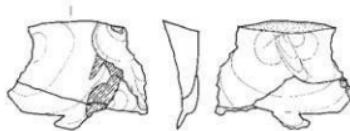
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 形	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石 斧	備 考	写真 番号
48	Ka-122	—	遺構検出面	2B	打削石器	二次加工のある剥片	II	3.1×2.4×0.4	3.31	非貫貫目	個体別資料34, 遺子付面, 表面角130°, 微面加工, 剥片に一次加工あり, 自然面あり	88
49	Ka-135	—	遺構検出面	2B	打削石器	二次加工のある剥片	III	4.6×3.7×1.2	17.21	非貫貫目	個体別資料34, 打削面折れ, 表面・微面加工, 剥片に一次加工あり, 自然面あり	88

個体別資料 剥片剥離工程表

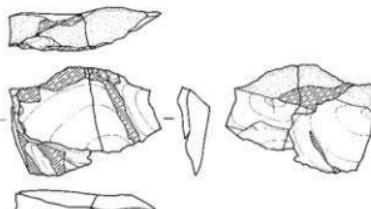
個体別資料 登録No.	打 斧	作 業 斧	剥片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	表面角	打斧の 有無	自然面 の有無	備 考
34	打削転移なし			1	Ka-122	3.1	2.4	0.4	130°	○	○ 二次加工あり
				2	Ka-135	4.6	3.7	1.2	-	*	○ 二次加工あり
35				1	Ka-115	(2.8)	(3.1)	1.0	118°	○	○ 新面複合
				2	Ka-127	2.9	(2.9)	(0.6)	118°	○	○ 同時剥離



個体別資料36



個体別資料38



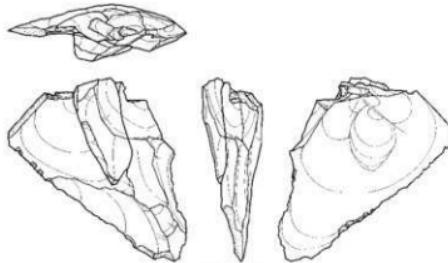
個体別資料39

0 (2 : 3) 5cm

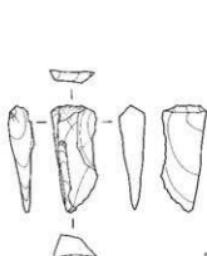
### 第319図 接合資料(2)

個体別資料 調片測量工程面

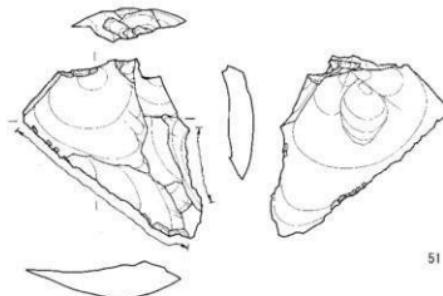
個体別資料 登錄No.	打 面	作業面	調片番号と 測量の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	測量角	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
36			1	Ka-074	0.39	0.11	0.91	108°	○	×	折面複合
			2	Ka-121	0.13	0.91	-	-	×	○	
38			1	Ka-106	0.60	0.01	1.2	110°	○	○	折面複合
			2	Ka-141	0.75	0.29	0.63	-	×	×	
39	打面転移なし		1	Ka-126	2.7	0.01	1.0	108°	○	○	
			2	Ka-137	0.60	0.41	0.83	-	×	○	
			3	Ka-109	2.9	0.51	0.9	124°	○	○	



個体別資料40



50



51

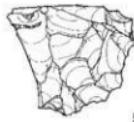
0 (2 : 3) 5cm

第320図 接合資料2

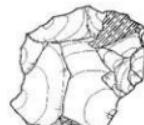
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 様	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 図版
50	Ka-114	—	5a層	2B	打製石器	剥片	—	3.3×1.4×0.8	293	流紋岩	個体別資料40. 平坦打面. 流部角131°	88
51	Ka-088	SH12	1層	2B	打製石器	微細剥離のある剥片	II	5.1×4.8×1.3	2450	流紋岩	個体別資料40. 削子打面. 流部角138°. 二無縫に 微細剥離あり	88

個体別資料 測定測量工程表

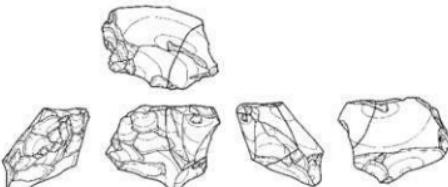
個体別資料 登録番号	打 面	作業面	剥片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	剥離角	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
40				1 2	Ka-114 Ka-088	0.31 5.1	0.4 4.8	0.8 1.3	131° 138°	○ ○	○ ○



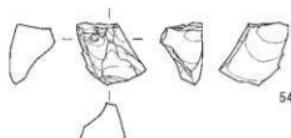
52



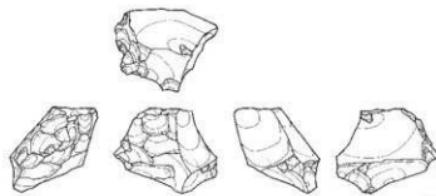
53



個体別資料3



54



55

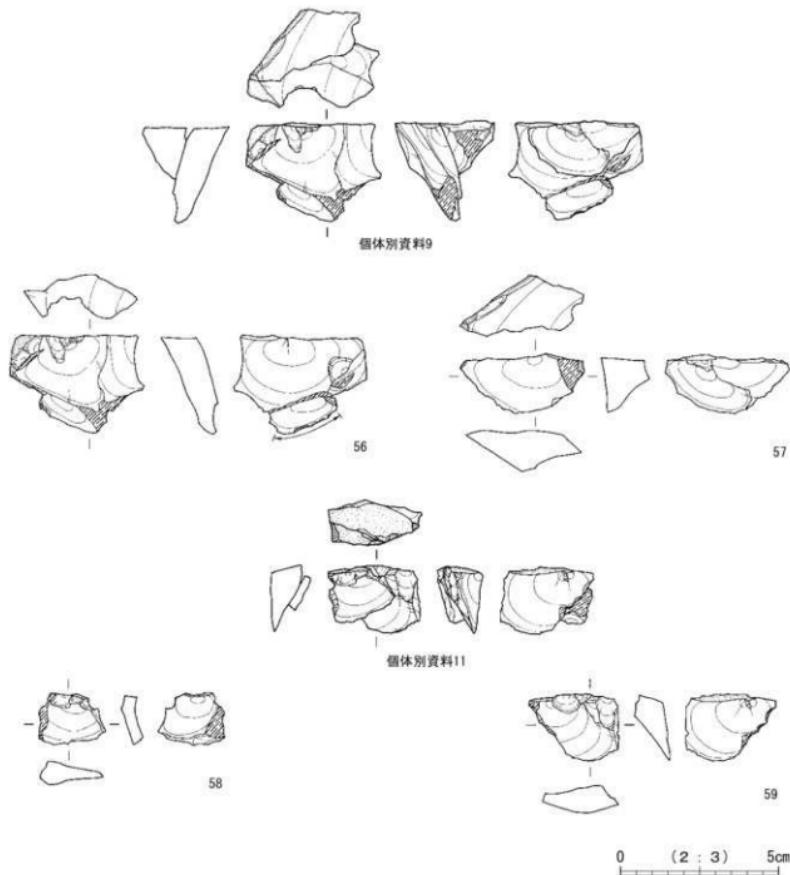
0 (2 : 3) 5cm

第321図 接合資料23

登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 級	備 考	写真 回数
52	Ka-013	SII	1層	2B	打削石器	石核	三	3.5 × 3.9 × 2.9	34.00	流紋岩 剥材不明、打削転移あり	96
53	Ka-021	SII	細り方	2B	打削石器	石核	三	2.0 × 4.0 × 3.9	30.59	流紋岩 剥材不明、打削転移あり	96
54	Ka-098	SII	2層	2B	打削石器	剥片	—	2.0 × 1.9 × 1.3	4.32	流紋岩 個体別資料3、平坦打削、剥離角90°	96
55	Ka-097	SII	2層	2B	打削石器	石核	三	2.7 × 2.2 × 1.6	14.53	流紋岩 個体別資料3、剥片素朴、打削転移あり	96

個体別資料 剥片剥離工程表

個体別資料 登録NO.	打 削	作 番	剥片番号 と剥離の順番	石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	剥離角	打削の 有無	自然面 の有無	備 考
3	打削転移なし		1 2	Ka-098 Ka-097	2.0 2.7	1.9 3.2	1.3 1.6	86° —	○ ×	×	残核

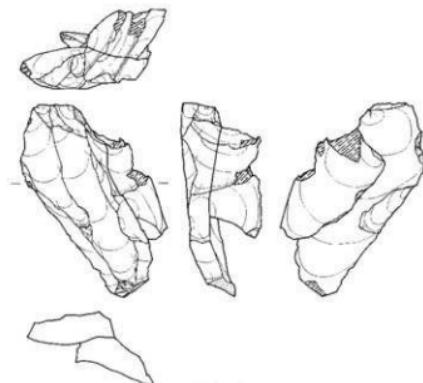


第322図 接合資料24

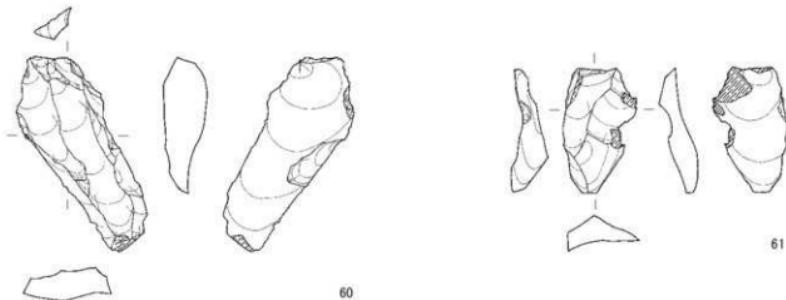
国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 様	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 図版
56	Ka-096	SI14	7層	2B	打削石器	微細刃部のある剥片	I	3.0×4.0×1.2	13.78	流紋岩	個体別資料9、平坦打面、剥離角121°、一側面に微細刃部あり、自然面あり	91
57	Ka-095	SI14	7層	2B	打削石器	剥片	—	1.7×3.8×1.7	8.31	流紋岩	個体別資料9、平坦打面、剥離角88°	91
58	Ka-078	S36	堆土	2B	打削石器	剥片	—	1.6×2.1×0.7	2.23	流紋岩	個体別資料11、幾打面、剥離角116°	91
59	Ka-077	S36	8層	2B	打削石器	剥片	—	2.1×2.8×1.3	4.76	流紋岩	個体別資料11、幾打面、剥離角99°、自然面あり	91

個体別資料 剥片剥離工程表

個体別資料 登録No.	打 面	作業面	剥片番号と 剥離の順序	石器No.				剥離角 (度)	打立の有無	自然面 の有無	備 考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	面形				
9	打面削除なし		1	Ka-096	3.0	4.0	1.2	121°	○	○	微細刃部あり
			2	Ka-095	1.7	3.8	1.7	88°	○	○	
11	打面削除なし		1	Ka-078	1.6	2.1	0.7	116°	○	○	
			2	Ka-077	2.1	2.8	1.3	99°	○	○	



個体別資料13



61

60

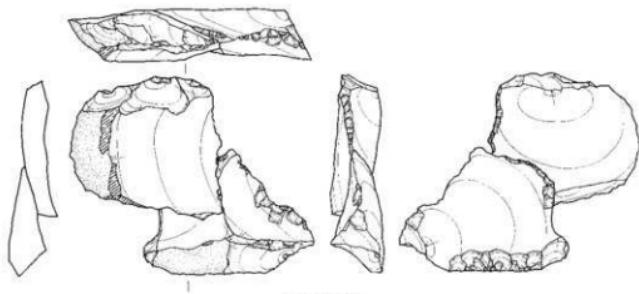
0 (2 : 3) 5cm

第323図 接合資料25

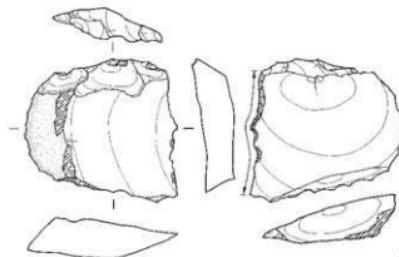
国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石種	備考	写真 国版
60	Ka-070	SD7	2層	2B	打製石器	二次加工のある調片	II	4.2×2.7×1.3	20.31	流紋岩	個体別資料13. 打面打面, 斜摩角132°, 裏面加工. 一側縁に二次加工あり	92
61	Ka-075	SD4	堆土	2B	打製石器	調片	—	3.9×2.2×1.2	8.85	流紋岩	個体別資料13. 打面剥離	98

個体別資料 調片測量工程表

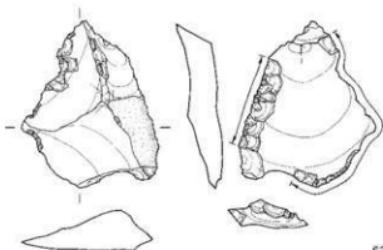
個体別資料 登録NO.	打面	作業面	調片番号と 調離の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	調離角	打点の 有無	自然面 の有無	備考
13	打面左右に移動		1 2	Ka-070 Ka-075	4.2 0.9	2.7 2.2	1.3 1.2	132°	○ ×	× ×	二次加工あり



個体別資料15



62



63

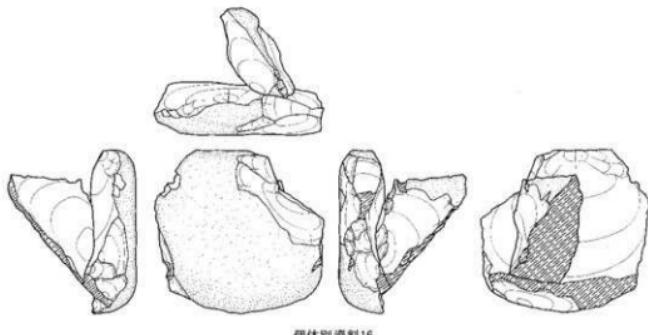
0 (2 : 3) 5cm

第324図 接合資料26

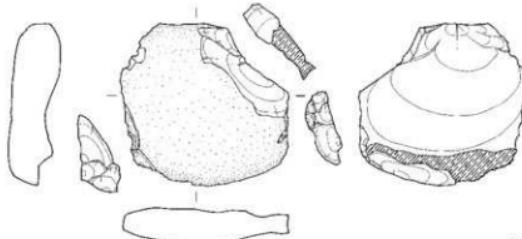
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石有	備考	石有 無
62	Ka068	—	複数	2	打製石器	二次加工のある消片	II	4.4×4.7×1.3	29.37	流紋岩	個体別資料15. 切子打面. 斜面角139°. 厚面加工. 一側縁に二次加工あり. 同一側縁に微細削離あり. 自然端あり	92
63	Ka005	SDH	複数	2B	打製石器	二次加工のある消片	III	5.3×4.2×1.4	21.75	流紋岩	個体別資料15. 平坦打面. 斜面角123°. 背面加工. 一側縁に二次加工あり. 同一側縁に微細削離あり. 自然端あり	92

個体別資料 消片削離工程表

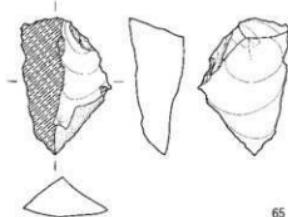
個体別資料 登録NO.	打面	作業面	調査番号と 消面の順番	石器No	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	斜面角	打点の 有無	自然面 の有無	備考
15	90°	—	1	Ka068	4.4	4.7	1.3	139°	○	○	二次加工あり
			2	Ka005	5.3	4.2	1.4	123°	○	○	二次加工あり



個体別資料16



64



65

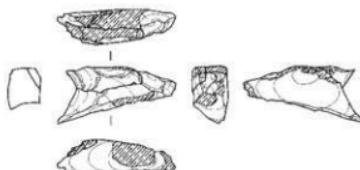
0 (2 : 3) 5cm

第325図 接合資料27

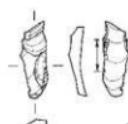
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石 素	備考	写真 番号
64	Ka-071	SD7	埋土	2B	打製石器	二次加工のある調片	I	5.1×2.3×1.6	48.29	流紋岩	個体別資料16、複打面、剥離角133°、背面加工、側縁に一次加工あり、自然面あり	64
65	Ka-100	SD9	埋土	2B	打製石器	調片	—	4.3×2.6×1.5	11.69	流紋岩	個体別資料16、平坦打面、剥離角129°、自然面あり	65

個体別資料 調片剥離工程表

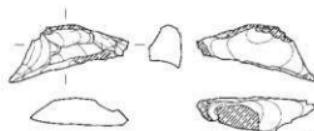
個体別資料 登録番号	打 面	作業面	調片番号と 剥離の順番	石器No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	剥離角	打点の有無	自然面 の有無	備考
16	90°	—	1 2	Ka-071 Ka-100	5.1 4.3	2.3 2.6	1.6 1.5	133° 129°	○ ○	○ ○	二次加工あり



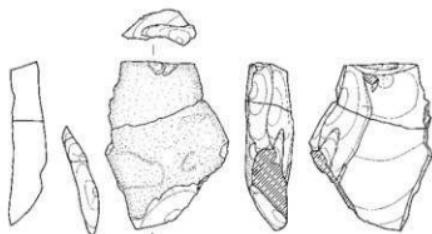
個体別資料18



66



67



個体別資料28

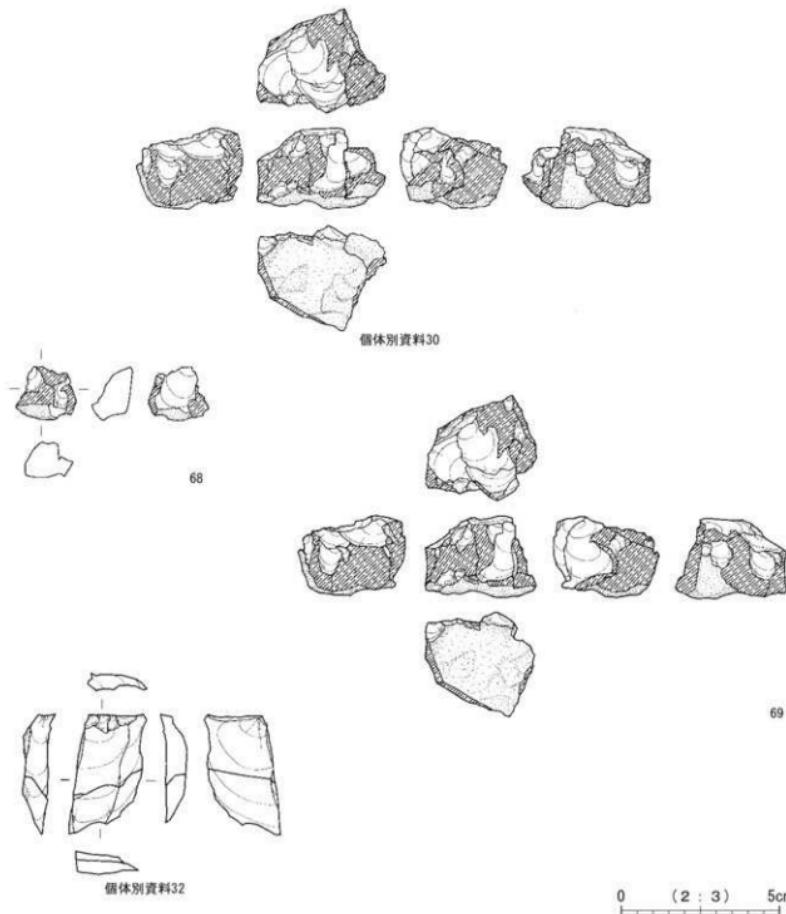
0 (2 : 3) 5cm

第326図 接合資料28

国際番号	登録番号	出土地点	層位	地区	性別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量g	石種	備考	写真 回数
66	Ka073	SK5	1層	2B	打製石器	微細剥離のある剥片	I	2.1×0.8×0.4	0.73	流紋岩	個体別資料18, 打面崩折れ、一側方に微細剥離あり	92
67	Ka092	SI12	4層	2B	打製石器	剥片	—	1.3×3.1×0.9	4.16	流紋岩	個体別資料18, 平坦打面、剥離角104°	92

個体別資料 剥片剥離工程表

個体別資料 登録NO.	打面		作業面	剥片番号と 剥離の順番		石器No	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	剥離角	打点の 有無	自然面 の有無	備考
	18	90°		1	2								
18				Ka-073	(2.1)	0.8	0.4	-	x	x	微細剥離あり		
28				Ka-092	1.3	3.1	0.9	104°	○	x			
				Ka-090	(2.2)	(1.1)	(0.3)	115°	○	○	表面剥離		
				Ka-091	(0.2)	2.8	1.4	-	x	○			



第327図 接合資料29

個体別資料 番号	登録番号	出土地点	層位	施 工	部 位	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石 材	備 考	写真 枚数	
68	Ka-094	SB4	堆土	2B	打製石器	剥片	—	1.6 × 1.8 × 1.3	2.95	流紋岩	個体別資料30, 表面剥離, 自然面あり	92
69	Ka-099	SB4	堆土	2B	打製石器	石核	I	2.6 × 3.5 × 3.1	23.95	流紋岩	個体別資料30, 継素材, 打面剥離あり, 自然面あり	87

個体別資料 測定測量工程表

個体別資料 登録NO.	打 面	作業面	測定番号と 測量の順番	石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	測量角	打点の 有無	自然面 の有無	備 考
30	打面軸移なし		1	Ka-094	0.60	1.8	1.3	-	x	○	
			2	Ka-093	2.6	3.5	3.1	-	x	○	残核
32			1	Ka-076	0.60	2.0	0.8	130°	○	x	断面接合
			2	Ka-153	0.80	0.91	0.61	-	x	x	

### 個体別資料 3

石核 1 点と剥片 1 点が接合した(第321図)。54は、55の一端を剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 9

微細剥離のある剥片 1 点と剥片 1 点が接合した (第322図)。56は、57より先に剥ぎ取ったものである。56は、微細剥離のある剥片 I 類である。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 11

剥片 2 点が接合した(第322図)。58は、59より先に剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 13

二次加工のある剥片 1 点と剥片 1 点が接合した (第323図)。60は、61より先に剥ぎ取ったものである。60は二次加工のある剥片 II 類である。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 15

二次加工のある剥片 2 点が接合した (第324図)。62が剥ぎ取られた後、90°の打面転移が行われ63が剥ぎ取られている。62は二次加工のある剥片 II 類、63は二次加工のある剥片 III 類である。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 16

二次加工のある剥片 1 点と剥片 1 点が接合した (第325図)。64が剥ぎ取られた後、90°の打面転移が行われ、65が剥ぎ取られている。64は二次加工のある剥片 I 類である。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 18

微細剥離のある剥片 1 点と剥片 1 点が接合した (第326図)。66が剥ぎ取られた後、90°の打面転移が行われ、67が剥ぎ取られている。66は微細剥離のある剥片 I 類である。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 28

剥片 2 点が接合した(第326図)。Ka-090・091は、折面で接合したものである。石材は珪質頁岩である。

### 個体別資料 30

石核 1 点と剥片 1 点が接合した(第327図)。68は、69の一端を剥ぎ取ったものである。石材は流紋岩である。

### 個体別資料 32

剥片 2 点が接合した(第327図)。Ka-076・153は、折面で接合したものである。石材は流紋岩である。

#### (4) 2B区下層調査(VII層～XII層)(第328～338図)

2区の試掘調査時に、第5・第6トレンチについては、古代の遺構面は失われていたものの、地表約4m下で、縄文時代の包含層を確認していた。そこで2B区に下層調査区を設定し、調査を行った。

##### ① 基本層序(第328図)

下層調査区の層序は大別16層、細別23層に分層した。VII層以下はほぼ水平堆積の様子がみられ、自然堆積層と思われる。また、下層調査区北壁面の観察で、調査区東側においてVIIb層中まで上層からの削平を受けている様子が伺える。VII層以下の層序を記述する。

VII層：4層に細分される。VIIa層は酸化鉄・マンガンを斑に含むオリーブ褐色の砂。VIIb層は酸化鉄・マンガンを斑に含む暗オリーブ褐色の砂で、下部層は厚さ2～3cmの酸化鉄集積層となっている。VIIc層は砂混じりの黄灰色砂質シルトで、酸化鉄集積が縞模様に入る。西壁での層厚は60cm。北壁面では暗黄灰色砂のVIIc'層が、層厚30～55cmみられる。VId層は灰オリーブ色砂と褐灰色粘土の互層である。

VIII層：3層に細分される。VIIIa層は黒色土が斑状に混入した褐灰色粘土質シルトである。灰色火山灰が中間層中にうすく入る。VIIIb層はVIIIa層の黒色土が入らない層である。VIIIc層は褐灰色粘土質シルトで、VIIIa層と類似する。

IX層：3層に細分される。当初2層に細分されていたが、遺物取上時のIXa層を、図面作成時にIXa・IXb層とした。IXa層は黒色粘土質シルト。IXb層も黒色粘土質シルトであるが、IXa層に比べわずかに明るい。IXc層も同じく黒色粘土質シルト。

X層：酸化鉄を斑に含む褐灰色粘土質シルトである。IXc層とXI層の漸移層。無遺物層である。

XI層：酸化鉄を斑に含む灰褐色粘土質シルトで、X層土がわずかに混じる。

XII層：XI層がわずかに混じる黒色粘土質シルトである。

XIII層：オリーブ黒色粘土質シルト。

XIV層：酸化鉄が斑に混入する緑黒色粘土質シルト。

XV層：暗緑灰色粘土質シルトで、上層部はグライ化が進む。

XVI～XVII層：暗青灰色の粘土・粘土質シルト。

XVIII～XIX層：粘土で、灰色・暗灰色・黒色。

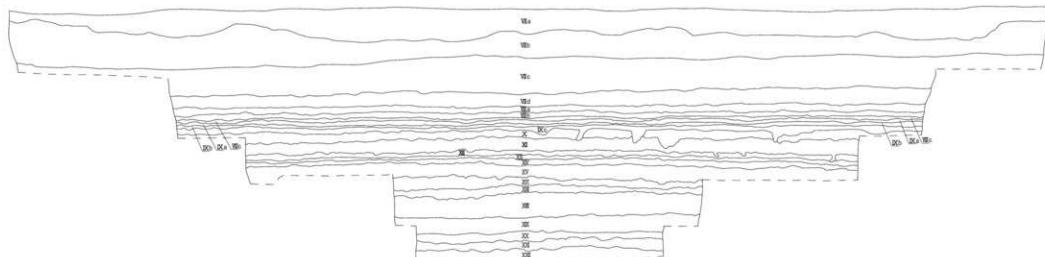
XII層：暗オリーブ灰色の砂層で、湧水がある。

XV層以下は無遺物層であった。

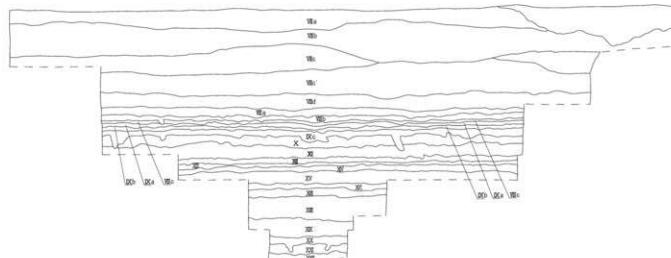
##### ② 縄文時代出土遺物(第331～338図)

出土遺物を概観すると、IX層出土のものは縄文時代晚期後葉の大洞A'式期、XI層～XVII層出土のものは縄文時代後期後葉に帰属するものと考えられる。これらの層位から出土した遺物を中心に、a.土器、b.石器・石製品に分け記述する。

## 2B区西壁

SP  
0 60m

## 2B区北壁

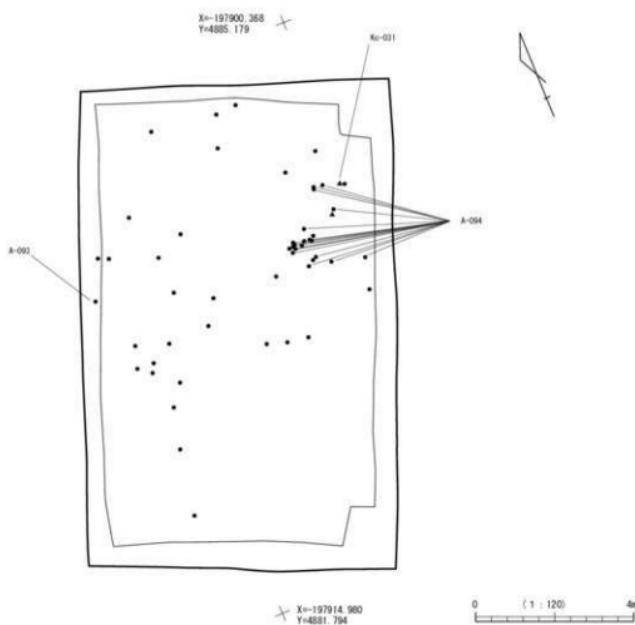
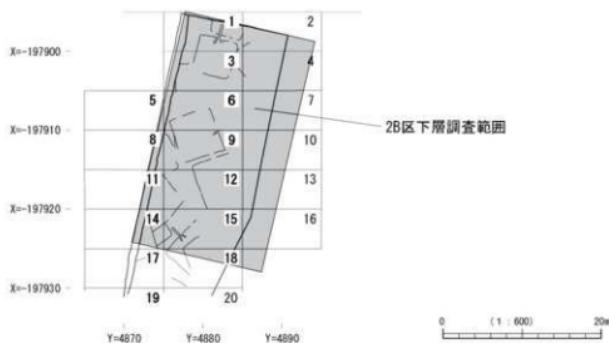
SP  
0 60m

下層土層目記表

層位	土色	土性	名号
W a	2.5Y4/6 オリーブ褐色	砂質	褐色鉄漿 2.5Y4/6
W b	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質	褐色鉄漿 2.5Y3/3 厚層に厚さ2~3cmの褐色鉄漿層
W c	2.5Y5/1 黄灰褐色	砂質シルト	砂混じり層 褐化鉄漿 2.5Y5/1 褐化鉄漿が褐色鐵漿状に入る
W d	2.5Y5/2 明黄灰褐色	砂質	部分的に10YR5/1褐色鉄漿シルトが 有る
W e	10TR4/1 褐灰褐色	粘土質シルト	3.5Y4/2暗オリーブ褐色と10YR5/1褐色 の互層 細粒砂状に入っている
W f	10TR4/1 褐灰褐色	粘土質シルト	10YR4/1黒色を挟む段成層、7.5Y4/1 褐色鉄漿層が交互するように入っている
W g	10TR4/1 褐灰褐色	粘土質シルト	10YR4/1黒色を挟む段成層、7.5Y4/1 褐色鉄漿層が交互するように入っている
W h	10TR4/1 褐灰褐色	粘土質シルト	10YR4/1黒色を挟む段成層、7.5Y4/1 褐色鉄漿層が交互するように入っている
W i	10YR4/1 褐灰褐色	粘土質シルト	10YR4/1黒色を挟む段成層、7.5Y4/1 褐色鉄漿層が交互するように入っている
W j	10YR4/1 黑色	粘土質シルト	10YR4/1黒色を挟む段成層、7.5Y4/1 褐色鉄漿層が交互するように入っている
W k	10YR4/1 黑色	粘土質シルト	10YR4/1黒色を挟む段成層、7.5Y4/1 褐色鉄漿層が交互するように入っている
W l	3Y2/2 オリーブ黒褐色	粘土質シルト	3Y2/2~2.5Y3/3褐色鉄漿シルト層に入る
W m	10GY2/1 褐黑色	粘土質シルト	褐色鉄漿層は、アラビカ化せず
W n	10GY2/1 褐黑色	粘土質シルト	褐色鉄漿層は、アラビカ化せず
W o	10BG4/1 明青灰色	粘土	グリ化せず
W p	10BG4/1 暗青灰色	粘土	グリ化せず
W q	10BG4/1 暗青灰色	粘土質シルト	砂混じり層 グリ化せず
W r	N2/	粘土	グリ化
W s	10Y2/1 黑色	粘土	グリ化
W t	5GY3/1 暗オリーブ褐色	砂	グリ化 混合あり

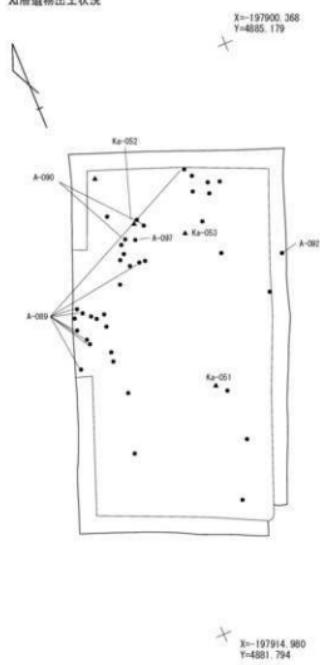
0 (1 : 60) 2m

第328図 下層調査土層堆積図

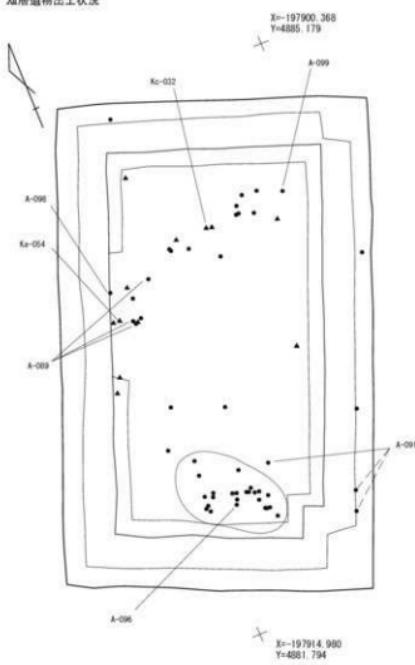


第329図 IX層遺物出土状況

XII層遺物出土状況



XII層遺物出土状況



第330図 XII層・XII層遺物出土状況

a. 土器(第331図～第332図)

IX層、及びXI層・XII層より縄文土器が出土した。

① IX層

調査区北東部に遺物集中箇所がみられた。2点を掲載した。1は壺の肩部から底部である。胸部上半に施文され、下半は無文である精製の壺である。肩部には工字文が施され、底部には3ヶ所に脚としての浮文状の貼付がある。器形は底部からやや強く外傾し、肩部を張りすぼまるやや長めの頸部を経て直立する口頭部にいたる。2は鉢の体部であろう。

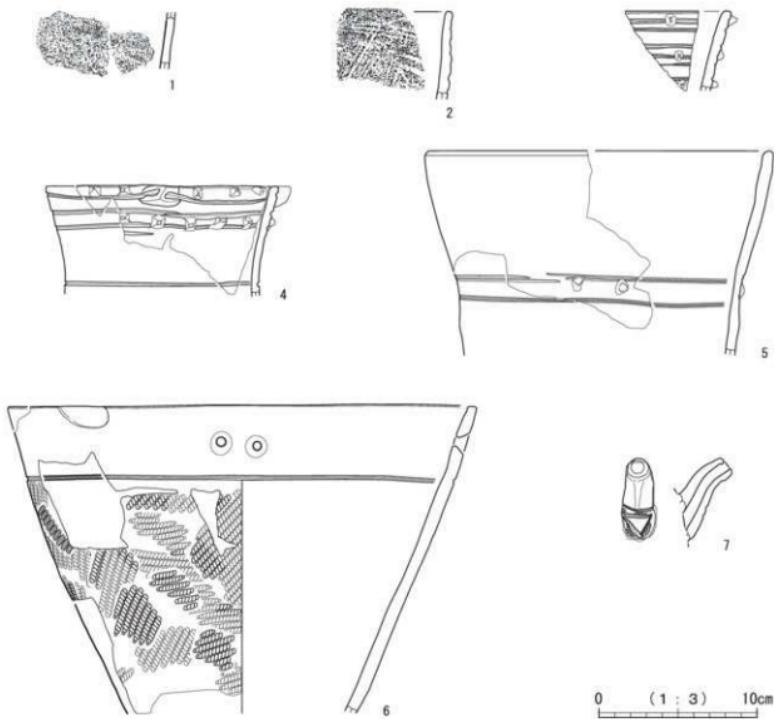


第331図 縄文時代出土遺物(1)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	種別	型種	外　面　調　整　・　文　様	内　面　調　整　・　文　様	備　考	写真 回数
1	A-094	2B区下層	Xc	縄文土器	壺	工字文、底脚貼付	ハラナギ、擦耗		98
2	A-093	2B区下層	Xb	縄文土器	壺	JLB縄文(斜行)	1ガ年		98

## ② XI層・XII層

XI層では調査区北側に遺物集中箇所がみられ、XII層では調査区南側に遺物集中箇所がみられた。7点を掲載した。1は鉢の胴部、2は鉢の口縁部である。1・2には撫歯状文がみられる。3・4は鉢の口縁部、5は鉢の口縁部から体部である。これらは縄文時代後期後半に盛行した、瘤付土器の範疇にとらえられるものである。沈線後、瘤状小突起の貼付がなされる。なお、5の破片はXI・XII層中より出土している。6はXII層より出土した、浅鉢の口縁部から胴部である。口縁部には焼成後穿孔が2孔ある。沈線より下半にLR縄文が施文されている。胴部下側は磨耗が強い。内面は仕上げが粗雑で、横方向のミガキから、胴部で縱方向のミガキへ変わる。7は注口土器の注口部分である。胴部との接合面にはアスファルトの付着がみられる。



第332図 縄文時代出土遺物(2)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	外面調整・文様	内面調整・文様	備考	写真 回数
1	A-090	2B区下層	XI	縄文土器	鉢	撫歯状文・削減	ミガキ		98
2	A-098	2B区下層	XI	縄文土器	鉢	撫歯状文	ミガキ・消落		98
3	A-092	2B区下層	XI	縄文土器	鉢	沈線文→瘤状小突起	ミガキ	外面炭化物付着	98
4	A-091	2B区下層	XI	縄文土器	鉢	沈線文→瘤状小突起	ミガキ	内面炭化物付着	98
5	A-089	2B区下層	XI	縄文土器	鉢	沈線文→瘤状小突起	ミガキ	内面炭化物付着	98
6	A-096	2B区下層	XII	縄文土器	鉢	沈線→LR縄文(済行)・焼成後穿孔(2孔)	ミガキ		98
7	A-099	2B区下層	XII	縄文土器	注口	LR縄文(済行)・沈線、ミガキ	ナシ	外面炭化物付着	98

b. 石器・石製品(第333～338図)

下層調査(X層:4点、XI層:4点、XII層:8点、XIII層:2点、XIV層:1点)から出土した19点の石器のうち、7点を掲載した。このうち2点が接合している。

① 打製石器

石鎌

XI層からI類:1点が出土している。

1はI類B2種である。両面を平坦剥離で整形されており、先端部及び基部に調整を施し、基部の剥離加工の順序は左右異なる。両面の中央の稜は器軸に沿っていない。断面形は中間部が薄い凸レンズ状で基部は菱形を呈する。石材は珪質頁岩である。

微細剥離のある剥片

XI層からII類:1点が出土している。打面は剥片剥離時に同時割れを起こし残っていない。腹面右上部には潜在割れの痕跡を残している。石材は流紋岩である。

個体資料1

XII・XIII層から石核1点と二次加工のある剥片1点が接合した(第334～335図)。3は、4の一端を剥ぎ取ったものである。3は二次加工のある剥片I類である。石材は流紋岩である。

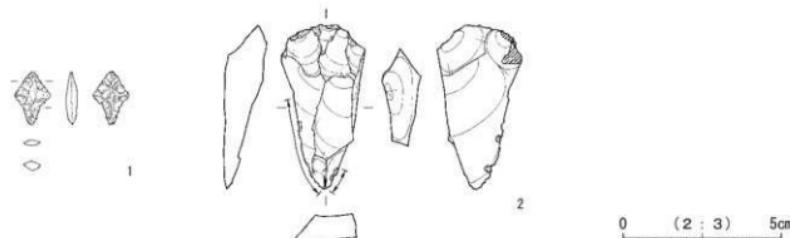
③ 磨石器

台石

XII・XIII層から2点が出土している。石材は5が石英安山岩で6が砂岩である。

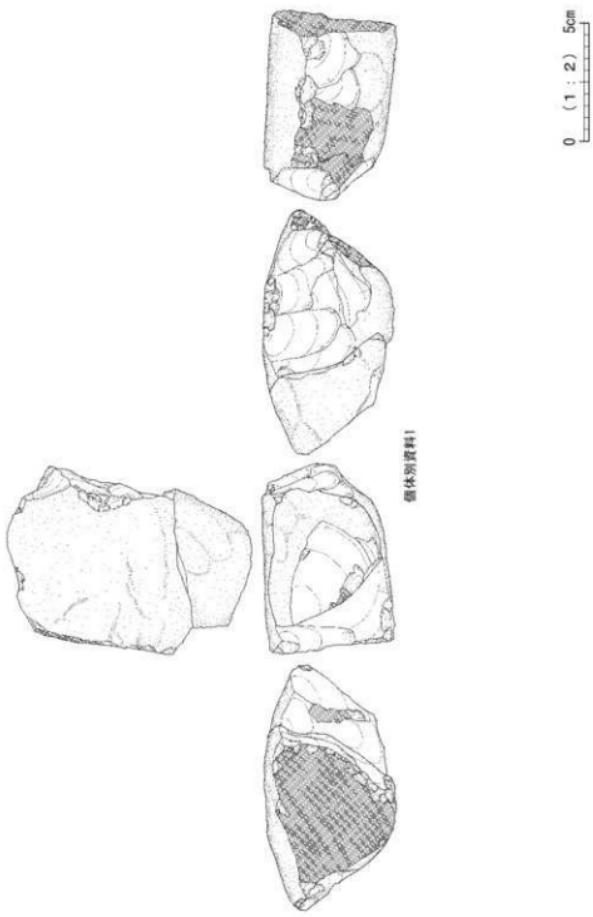
櫛器

IX層からI類が出土している。裏面からの連続的な剥離により刃部を形成している。右側面に平坦な磨面が観察できる。石材は閃緑岩である。

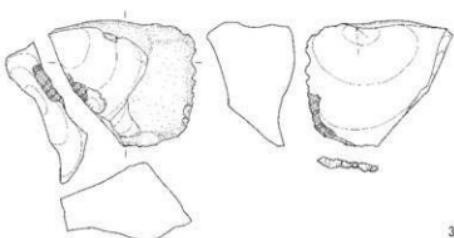


第333図 繩文時代出土遺物(3)

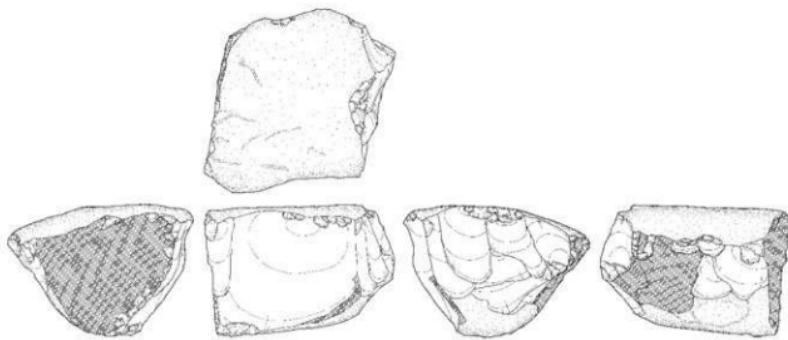
回数 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石材	備考	参考 図版
1	Ka051	7層調査区	XI層	2B	打製石器	石鎌	I B2	17×1.1×0.3	0.36	珪質頁岩	有本式、尖形、先端角切、輪厚比0.27	99
2	Ka052	7層調査区	XI層	2B	打製石器	微細剥離のある剥片	II	5.2×2.6×1.2	12.83	流紋岩	打面部折れ、二側面に微細剥離あり	99



第334図 縄文時代出土遺物(4)



3



4

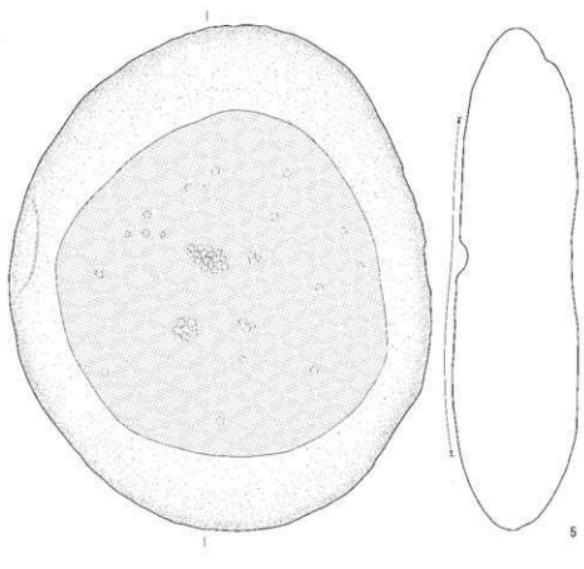
0 (1 : 2) 5cm

第335図 繩文時代出土遺物(5)

国際 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	行数 回数
3	Ka-054	F層調査区	X II層	2B	打製石器	二次加工のある剥片	I	5.9×6.7×4.0	141.46	流紋岩	側面削除有り、裏打削、剥離角102°、背面加工。— 裏面：二次加工あり	99
4	Ka-053	F層調査区	X I層	2B	打製石器	石核	I	6.1×8.8×8.2	545.09	流紋岩	側面削除有り、裏材、打削移りあり、自然面あり	99

個体別資料 剥片剥離工程表

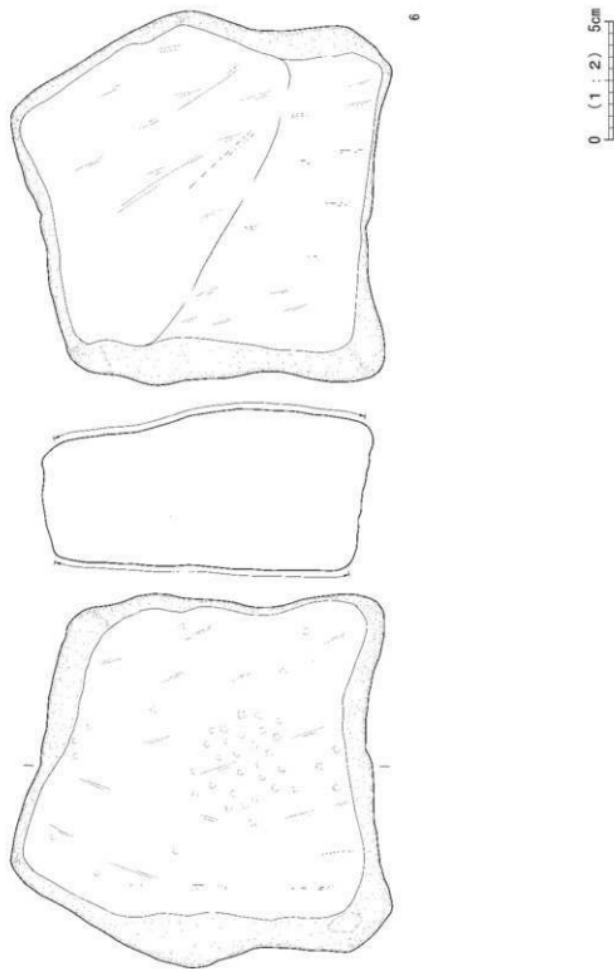
個体別資料 登録NO.	打面		作業面	剥離番号と 剥離の順番		石器No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	剥離角	打点の 有無	自然面 の有無	備考	
	1	2		1	2									
1	打削移なし					Ka-054	5.9	6.7	4.0	102°	○	○	二次加工あり	
						Ka-053	6.1	8.8	8.2	-	×	○	剥核	



0 (1 : 2) 5cm

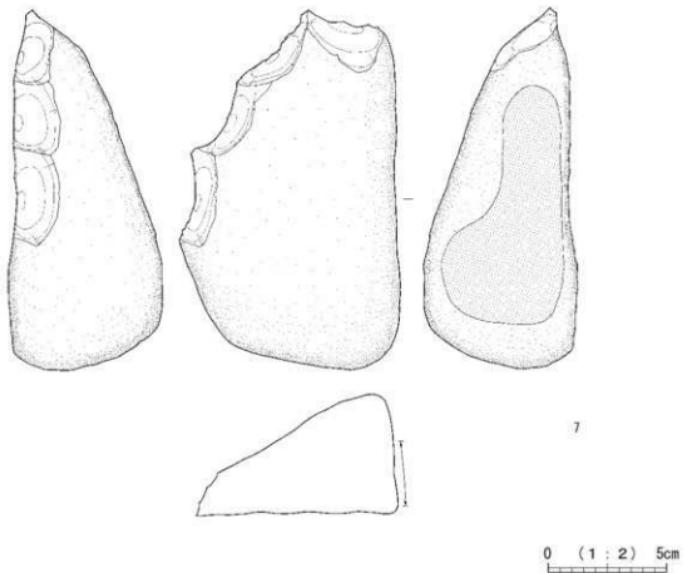
第336図 繩文時代出土遺物(6)

編號 番号	登録番号 登記番号	出土場所 出土地点	層位 層位	地区 地区	種別 種別	器種 器種	分類 分類	長さ×幅×厚さ 長さ×幅×厚さ cm	重量(g) 重量(g)	石材 石材	備考 備考	写真 写真
5	Kr-002	下野調査区	X II層	2B	磨石器	台石	—	21.2 × 17.7 × 3.3	3032.36	石英安山岩	完形品、円錐、磨一面(凸)	99



第337図 繩文時代出土遺物(7)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 面版
6	Kd-033	下利賀余区	XⅢ層下部	2B	稚石器	台石	—	15.4 × 15.6 × 7.2	2886.12	砂岩	完形品、单角禮、磨二面(平)	99



第338図 繩文時代出土遺物(8)

国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 国版
7	Kc-03H	下瀬調查区	古石層	2B	磨石器	複数	一	14.8×8.1×5.0	964.36	閃长岩	完形品。單角端、前一面(平)、一側端に二次加工 あり	99

## 第7章 自然科学分析

### I. 長町駅東遺跡 2 A区における自然化学分析

株式会社 古環境研究所

#### プラント・オパール分析

##### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査也可能である（藤原・杉山、1984）。

長町駅東遺跡の発掘調査では、2 A区において畦畔状の高まりおよび水田耕作土とみられる土層が複数認められた。そこで、これらについてプラント・オパール分析を行い、稻作の可能性について検討することになった。

##### 2. 試料

調査地点は、2区第3試掘区と2区第8試掘区の2地点である。分析試料は、2区第3試掘区では北壁において、上位より灰黄褐色シルト（I層）の上下、灰黄褐色砂質シルト（IIa層）、灰黄褐色砂質シルト（IIb層）、黒褐色シルト（III層）およびにぶい黄褐色シルト（IV層）の5層準6点、2区第8試掘区では西壁において、上位より褐色砂質シルト（I層）、褐色砂質シルト（II層）、褐色砂質シルト（III層）、暗褐色シルト（IV層）、黒褐色シルト（V層）、暗褐色シルト（VI層）、褐色砂質シルト（VII層）および褐色シルト（VIII層）の8層準8点の計14点が採取された。

##### 3. 分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を  $105^{\circ}\text{C}$  で24時間乾燥（絶乾）。
- 2) 試料約1gに直径約  $40\mu\text{m}$  のガラスピースを約0.02g添加（電子分析天秤により  $0.1\text{mg}$  の精度で秤量）。
- 3) 電気炉灰化法（ $550^{\circ}\text{C} \cdot 6$  時間）による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射（ $300\text{W} \cdot 42\text{KHz} \cdot 10$  分間）による分散。
- 5) 沈底法による  $20\mu\text{m}$  以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤（オキット）中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数（試料1gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピースの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10 - 5\text{ g}$ ）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネササ節は0.48およびクマザ

サ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75である。

#### 4. 結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヨシ属、ススキ属型、シバ属、タケ亜科(ネザサ節型、クマザサ属型、その他)および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1、図1～図2に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。

#### 5. 考察

##### (1) 2区第3試掘区

本調査区では、I層の上下とIIa層でイネのプラント・オパールが検出されている。プラント・オパール密度はI層の上下とともに2,000個/g、IIa層では1,200個/gとやや低く、稻作跡の検証や探査を行う際の判断基準値である3,000個/gに満たない。したがって、両層については調査地点の近傍において稻作が行われていた可能性が考えられる。

イネ以外の分類群の推定生産量をみてみると、I層の上下とIIb層でヨシ属がやや優勢となっている。その他ではススキ属型がI層の上下、IIa層およびIII層で、ネザサ節型がI層の上下、IIa層、IIb層で、クマザサ属型はすべての層で検出されているが、いずれも低密度である。また、I層の上部ではシバ属が少量ではあるが検出されている。これらのことから、IIb層およびI層の堆積時は調査区周辺は湿地的環境であったと推定される。また、IV層～I層ではクマザサ属が、IIb層～I層ではネザサ節、III層、IIa層およびI層ではススキ属も周辺に生育していたと推定される。

##### (2) 2区第8試掘区

ここでは、I層、II層、III層およびIV層でイネのプラント・オパールが検出されている。このうち、I層ではプラント・オパール密度が4,200個/gと高い値である。したがって、同層については稻作跡である可能性が高いと考えられる。なお、II層～IV層ではプラント・オパール密度が500～1,500個/gと低いことから、上層あるいは他所からの混入である危険性も否定できない。よって、これらの層において稻作が行われていたとするならば、耕作地は調査地の近傍であったと考えられる。

なお、調査区の近傍には各層ともネザサ節やクマザサ属などのササ類が生育しており、VI層、V層、III層およびI層ではススキ属が、またIV層とV層およびI層ではヨシ属もみられたと推定される。

#### 6. まとめ

長町駅東遺跡においてプラント・オパール分析を行った。その結果、水田跡の可能性が高いと判断されたのは、2区第8試掘区のI層のみであった。なお、2区第3試掘区のI層とIIa層、2区第8試掘区のII層、III層およびIV層では、調査区の近傍で稻作が行われていた可能性が示唆された。

#### 文献

- 杉山真二(1987)タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83。  
杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学、同成社、p.189-213。  
藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-、考

古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

## 花粉分析

### 1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象として比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。なお、乾燥的な環境下の堆積物では、花粉などの植物遺体が分解されて残存していない場合もある。

### 2. 試料

試料は、2区第5試掘区北壁より採取された堆積物8点である。上位より灰色粘土質シルト（上半の一部に粗砂層、全体に灰色細砂層、黒褐色粘土質シルト層を複数も挟む、I層）、暗オリーブ灰色シルトとオリーブ黒色粘土質土の互層（II層）、黒色粘土質土（III層）、オリーブ黒色粘土質土（IV層）、緑灰色シルト（V層）、黒色粘土質土（VI層）、暗オリーブ灰色粘土質土（VII層）および暗緑灰色粘土質土（VIII層）である。

### 3. 分析方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離(1500rpm、2分間)の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比を行った。結果は同定レベルによって、科・属・属・節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(–)で結んで示した。なお、科・属・属・節の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とする。

### 4. 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉28、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉13、シダ植物胞子2形態の計45である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉总数を基準と

する花粉ダイアグラムを図1に示す。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は写真に示した。

以下に出現した分類群を記す。

#### 〔樹木花粉〕

トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亞属、マツ属單維管束亞属、スギ、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亞属、コナラ属アカガシ亞属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ークノキ、キハダ属、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、ミズキ属、ハイノキ属、トネリコ属、ツツジ科、ニワトコ属ーガマズミ属

#### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、ウコギ科

#### 〔草本花粉〕

ガマ属ーミクリ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科ーヒユ科、アブラナ科、チドメグサ亞科、セリ亞科、タンボボ亞科、キク亞科、オナモミ属、ヨモギ属

#### 〔シダ植物胞子〕

單条溝胞子、三条溝胞子

## (2) 花粉群集の特徴

花粉構成と花粉組成の変化から、下位より3帯の花粉分帶を設定した。

### 1) I带(VII層、VI層、V層、IV層、III層)

花粉の検出数が低い。樹木花粉に対し草本花粉の占める割合が高い。草本花粉のヨモギ属が優占し、イネ科、カヤツリグサ科、キク亞科が伴われる。樹木花粉はハンノキ属が多く、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亞属などが出現する。

### 2) II带(II層、I層)

草本花粉に対し樹木花粉の占める割合が高い。樹木花粉のコナラ属コナラ亞属、トチノキを主にマツ属複維管束亞属、スギ、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、ブナ属、コナラ属アカガシ亞属、ニレ属ーケヤキ、キハダ属、カエデ属が出現する。草本花粉はイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が出現する。

## 5. 考察

花粉分帶に沿って、植生変遷の復元を試みる。

### (1) I带(VII層、VI層、V層、IV層、III層)

花粉の出現密度が低い中、ヨモギ属などの乾燥を好む草本が優占して分布する。このことから、堆積地周辺は花粉が分解されやすいやや乾いた環境であったと考えられる。ハンノキ属は生態上湿地林を形成するハンノキが考えられ、近隣に湿地が分布していたとみなされる。堆積地は湿地の縁辺のやや乾燥した位置であったと推定される。クリは比較的乾燥を好み、近隣の乾燥したところに生育していたと考えられる。周辺地域にはブナ属、コナラ属コナラ亞属を主要構成要素とする冷温帶性落葉広葉樹林が分布していたと考えられる。

### (2) II带(II層、I層)

ハンノキ属、トチノキ、サワグルミなどの湿性の樹木が増加し、湿地ないし河辺の湿地のような環境になったと

考えられる。なお、樹木の増加により土壤が肥沃に形成されていたことが示唆される。周辺地域には、コナラ属コナラ亜属、ブナ属、クマシテ属-アサダなどの冷温帶性落葉広葉樹林が分布していたと考えられる。

## 6.まとめ

長町駅東遺跡2区第5試掘区において花粉分析を行った。その結果、I带（Ⅴ層、Ⅶ層、Ⅵ層、V層、IV層、III層）では、ヨモギ属などの乾燥を好む草本が生育し、近隣にはハンノキの湿地林が分布していたと推定された。なお、調査地は湿地の縁辺のやや乾燥した場所と考えられた。II带（II層、I層）になると、ハンノキ属、トチノキ、サワグルミが増加し、湿地ないし河辺の湿地のような環境であったことが示唆された。周辺地域にはブナ属、コナラ属コナラ亜属を主要構成要素とする冷温帶性落葉広葉樹林が分布していたと推定された。

## 参考文献

- 中村純(1973)花粉分析、古今書院、p.82-110.
- 金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原、新版古代の日本、第10巻、古代資料研究の方法、角川書店、p.24  
8-262.
- 鳥倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態、大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集、60p.
- 中村純(1980)日本産花粉の標識、大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91p.
- 中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として、第四紀研究、13、p.187-193.
- 中村純(1977)稻作とイネ花粉、考古学と自然科学、第10号、p.21-30.

表1 仙台市、長町駅東道路のプラント・オハーブル分析結果

分類群(和名・学名)	試験区	2区第3試験区								2区第8試験区							
		1-1	1-2	IIa	IIb	III	IV	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII		
イネ科 イネ	Gramineae (Grasses) <i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	20	20	12	10			42	15	15	5	5	5	5	5		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	5	5			6		5		5		5					
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	5	5					5		5		5					
シバ属	<i>Zizaniopsis</i>	5						5		5							
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezaesa</i> type	60	45	24	30			112	40	30	20	20	38	10	5		
クマササ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i> ) type	45	25	36	30	18	43	23	20	40	36	20	68	40	25		
その他	Others	10	5	6	5	6	6	9	25	5	10	10	23	5	5		
未分類等	Unknown	146	124	168	97	115	55	205	202	96	122	153	219	35	76		
プラント・オハーブル総数		297	229	252	173	146	104	406	308	191	193	214	354	90	116		

おもな分類群の推定生産量(単位 kg/m<sup>2</sup>·cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.59	0.59	0.35		1.23	0.45	0.44	0.15								
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.32	0.31	0.64		0.29				0.32					0.32		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.06	0.06	0.07	0.08		0.06			0.06	0.06	0.09					
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezaesa</i> type	0.29	0.21	0.12	0.15		0.54	0.19	0.14	0.10	0.10	0.18	0.05	0.02			
クマササ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i> ) type	0.34	0.19	0.27	0.23	0.14	0.32	0.17	0.15	0.30	0.27	0.15	0.51	0.30	0.19		